

令和4年度

令和5年度

業務報告／業務計画

(第67号)



八戸市農業経営振興センター

表紙写真解説 ～JA 八戸×八戸市「令和4年度キッズあぐり塾」～

将来の地域社会を担う次世代である小学生を対象に、地域農業及び食の大切さに対する理解を深めていただくため、八戸市と八戸農業協同組合が連携し、三八地域における農業や八戸伝統野菜について学習する場として、令和4年度キッズあぐり塾を開催しました。

なお、キッズあぐり塾は八戸農業協同組合において平成29年度から実施されていましたが、この度初の取組として八戸市との共催で実施されました。

塾は5月の食用菊、ねぎ、ピーマン、さつまいもの定植から始まり、三八地域の気候に対応した農業の特徴や栽培施設、栽培過程の学習の他、教材を用いたクイズによる野菜の学習を行いました。秋には自分たちが植えた野菜やながいもの収穫を体験し、収穫の喜びや農業、食の大切さを実感する場となりました。

目 次

第1 施設の概要及び機構	1
第2 業務報告	
2-1 気象	5
2-2 調査成績（施設野菜）	
No. 1 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続 R3～5）	8
No. 2 種子繁殖型いちご品種の品種特性調査（新規 R4～5）	12
No. 3 トマトの促成栽培における品種比較調査（新規 R4～R6）	16
No. 4 トマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規 R4～R6）	19
No. 5 トマトの抑制栽培における品種比較調査（新規 R4～R6）	22
No. 6 ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（新規 R4～R6）	25
No. 7 ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規 R4～R6）	28
No. 8 ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（新規 R4～R6）	32
2-3 調査成績（露地野菜）	
No. 1 ねぎの品種比較調査（継続 R2～4）	35
No. 2 ピーマンの品種比較調査（継続 R2～4）	42
No. 3 ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（継続 R3～5）	47
No. 4 ピーマン整枝方法別収量比較調査（継続 R2～4）	51
No. 5 ピーマン品種「ピクシー」の整枝方法（生育初期）による収量比較調査（新規 R4～6）	55
2-4 調査成績（花き）	
No. 1 トルコギキョウの品種比較調査（7～8 月出荷）（新規 R4～5）	58
No. 2 トルコギキョウの品種比較調査（9 月出荷）（新規 R4～5）	62
No. 3 トルコギキョウの赤色 LED 電照栽培技術調査（9 月出荷）（継続 R3～4）	66
No. 4 カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（継続 R2～6）	71
No. 5 ディスパッドマムの品種比較調査（8 月出荷）（継続 R3～4）	74
2-5 調査成績（耕畜連携推進事業パートナー制度）	
ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討	77
2-6 土壌分析	82
2-7 植物組織培養	88
2-8 市民農園設置事業	92
2-9 農業体験学習	89
2-10 農業講座	90
2-11 家庭菜園講習会	91
2-12 施設利用実績	91

第3 業務計画

3-1 調査計画（施設野菜）

No. 1 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続 R3～5）	92
No. 2 種子繁殖型いちご品種の品種特性調査（継続 R4～5）	93
No. 3 トマトの促成栽培における品種比較調査（継続 R4～6）	94
No. 4 トマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 R4～6）	95
No. 5 トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 R4～6）	96
No. 6 ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続 R4～6）	97
No. 7 ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 R4～6）	98
No. 8 ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 R4～6）	99

3-2 調査計画（露地野菜）

No. 1 ねぎの品種比較調査（新規 R5～7）	100
No. 2 ピーマンの品種比較調査（継続 R5～7）	101
No. 3 ピーマン品種「ピクシー」の基肥量別収量調査（新規 R5～7）	102
No. 4 ピーマン品種「ピクシー」の追肥量別収量調査（新規 R5～7）	103
No. 5 ピーマン品種「ピクシー」の整枝方法（生育初期）による収量比較調査（継続 R4～6）	104
No. 6 ピーマン接ぎ木栽培調査（新規 R5～7）	105
No. 7 ながいも栽培のマルチ栽培による収量比較調査（新規 R5～7）	106

3-3 調査計画（花き）

No. 1 トルコギキョウの品種比較調査（7～8月出荷）（継続 R4～5）	107
No. 2 トルコギキョウの品種比較調査（9月出荷）（継続 R4～5）	108
No. 3 トルコギキョウの赤色 LED 電照栽培技術調査（9月出荷）（新規 R5～6）	109
No. 4 カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（継続 R2～6）	110
No. 5 ディスパッドマムの品種比較調査（11月出荷）（新規 R5～6）	111

3-4 調査計画（耕畜連携推進事業パートナー制度）

ながいも栽培における堆肥の施用効果及び種いも重の検討	112
----------------------------	-----

3-5 土壌分析

3-6 植物組織培養

3-7 市民農園設置事業

3-8 農業体験学習

3-9 栽培展示計画

第1 施設の概要及び機構

目的

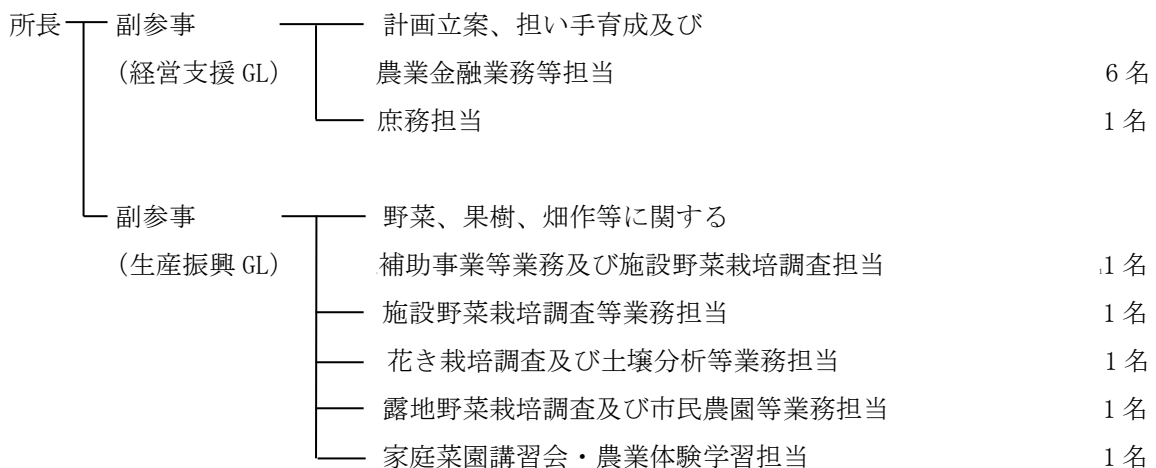
農業経営振興センターは、計画立案業務、担い手育成業務、農業金融業務及び野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務等の農業経営に関する重要な施策を一元的に推進することにより、起農、他産業からの農業参入、既存農業経営者の規模・品目の拡充等を促進し、産業としての農業の振興を図るとともに、市民農園の設置及び農作業体験学習会の開催等により、自然に親しめる潤いのある市民生活の向上に資することを目的としています。

事業の概要

- 1 計画立案業務
- 2 担い手育成業務
- 3 農業金融業務
- 4 野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務
 - (1) 野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務
 - (2) 野菜、花きに関する栽培調査及び展示業務
 - (3) 植物組織培養業務
 - (4) 土壌分析及び土壌改良支援業務
- 5 市民農園の設置及び農作業体験学習会の開催等に関する業務

組織図及び職員数 (令和5年度)

組織図及び職員数 <15名>



施設の概要

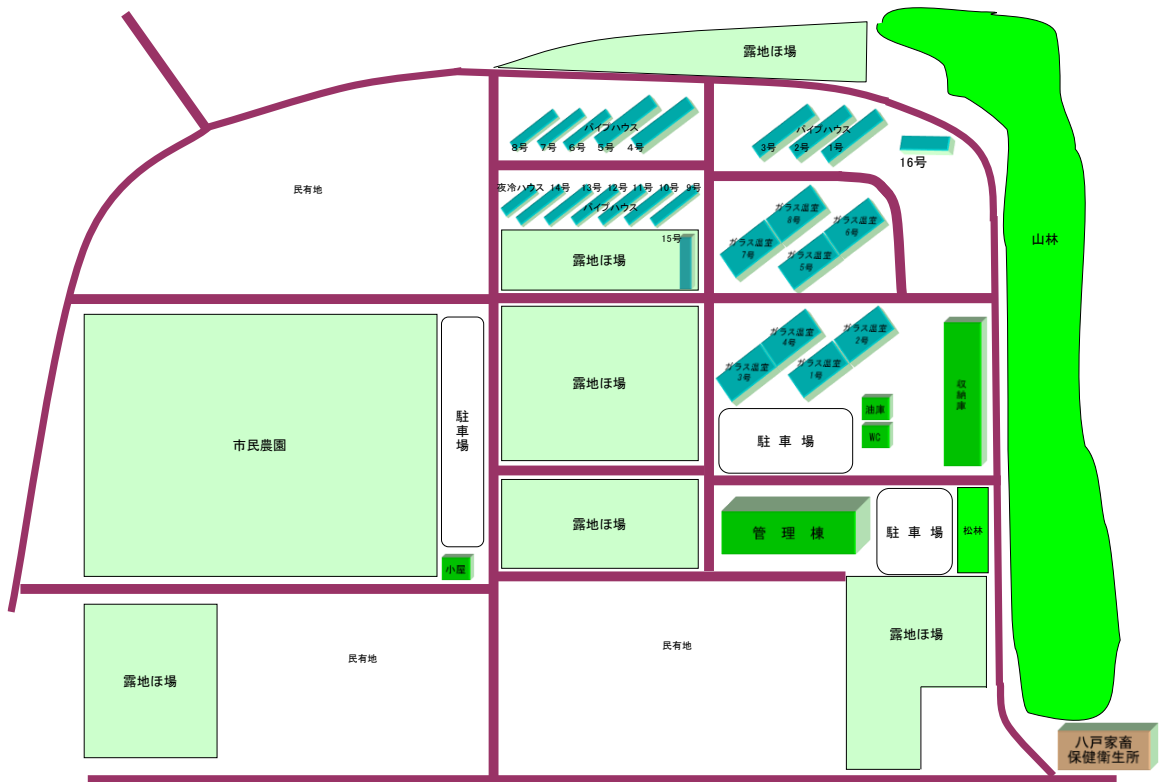
土地利用区分

総面積	114,901 m ²
管理施設用地	
建物等	1,471
駐車場・通路等	5,525
ほ場	
施設	14,842
ガラス温室	
パイプハウス	
露地	24,235
市民農園	18,237
山林	46,075
原野他	4,516

主要施設

管理棟<鉄骨造平屋建>	1棟	713 m ²
多目的研修室		
調理実習室		
会議室		
土づくり相談室		
バイオ体験室		
ガラス温室(鉄骨造)	4棟(8室)	1,498 m ²
パイプハウス	16棟	1,991 m ²
収納庫<鉄骨造平屋建>	1棟	450 m ²
屋外トイレ	1棟	28 m ²
油庫	1棟	10 m ²
農業用水施設	1式	
気象観測施設	1式	

場内案内図



沿革

- 昭和 30. 5 青森県農事試験場南部支場委託野菜展示農場として三戸郡大館村（新井田常光田地区）に発足
- 昭和 32. 4 三戸郡大館村に移管し、大館村野菜展示農場に改称
- 昭和 33. 9 合併により八戸市立そ菜展示農場に改称
- 昭和 36. 1 八戸市農村青年研修所を併設
- 昭和 36. 4 八戸市立園芸指導農場に改称
- 昭和 45. 1 十日市天摩地区に移転し、八戸市農業センターに改称
- 昭和 57. 4 八戸市都市緑化植物公園（現八戸公園）開設により、尻内町毛合清水地内に移転し、八戸市農業研修センターに改称
- 昭和 63. 4 花き（切花）部門・植物組織培養部門（バイテク）設置
- 平成 2. 4 市民農園開設
- 平成 11. 12 高規格道路等建設計画により現在地に移転し、八戸市農業交流研修センターに改称
- 平成 23. 4 機構改革により農業経営に関する支援業務を一元化し、八戸市農業経営振興センターに改称

業務報告

【令和4年度】

所 長	久 保 昌 広
副 参 事	中 山 貢
(生産振興グループリーダー)	
副 参 事	和 島 将 彦
(経営支援グループリーダー)	
主 幹	金 澤 匡 志
主 査	柳 谷 悟
技 査	田 茂 竜 児
主 査	三 戸 由 香
主 査	白 川 大 祐
技 査	幸 田 洋 平
技 査	戸 田 瞳
主 事	苔米地 三由希
技 師	佐々木 達 也
技 師	細 越 敬太郎
技 師	柴 田 あかね

第2 業務報告

2-1 気象

1 令和4年の平均気温・日照時間・降水量

表1 令和4年 平均気温・日照時間・降水量 旬表

月	旬	平均気温 (°C)				日照時間 (h)				降水量 (mm)			
		平年値	R4年	差	八戸特別地域気象観測所	平年値	R4年	差	八戸特別地域気象観測所	平年値	R4年	差	八戸特別地域気象観測所
1	上旬	-1.1	-2.5	-1.4	-2.0	43.1	46.7	3.6	52.1	14.5	4.5	-10.0	3.5
	中旬	-1.9	-0.8	1.1	-0.3	44.1	46.4	2.3	51.0	9.6	15.0	5.4	17.0
	下旬	-1.8	-1.5	0.2	-1.0	53.7	44.9	-8.8	43.7	13.7	3.0	-10.7	2.5
	平均・計	-1.6	-1.6	-0.0	-1.1	140.9	138.0	-2.9	146.8	37.8	22.5	-15.3	23.0
2	上旬	-1.8	-2.5	-0.7	-1.8	51.2	52.5	1.3	55.0	11.7	0.0	-11.7	0.0
	中旬	-1.2	-0.7	0.4	-0.1	53.9	35.5	-18.4	32.8	13.1	9.5	-3.6	16.5
	下旬	-0.1	-0.2	-0.1	0.5	48.3	47.3	-1.0	47.5	8.8	0.5	-8.3	0.0
	平均・計	-1.0	-1.2	-0.2	-0.5	153.4	135.3	-18.1	135.3	33.6	10.0	-23.6	16.5
3	上旬	0.6	1.6	1.0	2.2	58.1	65.5	7.5	70.1	15.1	9.5	-5.6	7.0
	中旬	2.2	3.1	0.9	3.8	59.8	28.7	-31.1	31.5	15.2	36.5	21.3	55.5
	下旬	3.8	5.6	1.8	6.2	71.6	72.6	1.0	78.7	17.5	9.5	-8.0	10.0
	平均・計	2.3	3.5	1.3	4.1	189.5	166.8	-22.7	180.3	47.7	55.5	7.8	72.5
4	上旬	6.2	7.3	1.1	7.6	64.1	80.5	16.4	85.6	17.1	3.0	-14.1	3.0
	中旬	7.9	10.7	2.8	10.8	65.6	66.8	1.2	75.0	18.7	15.0	-3.7	16.0
	下旬	10.2	13.2	3.0	13.3	68.8	73.7	4.9	82.1	21.0	25.0	4.1	27.5
	平均・計	8.2	10.4	2.2	10.6	198.5	221.0	22.5	242.7	56.7	43.0	-13.7	46.5
5	上旬	11.9	13.0	1.0	13.4	67.4	90.0	22.6	98.3	23.4	2.0	-21.4	3.0
	中旬	13.1	14.7	1.7	14.7	65.7	68.6	2.9	83.3	26.2	5.5	-20.7	4.5
	下旬	14.6	16.3	1.7	16.3	73.7	72.3	-1.4	86.8	29.9	19.5	-10.4	22.5
	平均・計	13.2	14.7	1.5	14.8	206.8	230.9	24.1	268.4	79.5	27.0	-52.5	30.0
6	上旬	15.3	12.3	-3.0	12.8	64.4	35.1	-29.3	54.2	19.5	61.5	42.0	49.0
	中旬	16.3	17.1	0.8	17.4	53.6	39.8	-13.8	59.1	38.2	2.0	-36.2	5.0
	下旬	17.6	22.3	4.7	23.2	54.8	34.8	-20.0	57.8	34.9	80.0	45.2	80.0
	平均・計	16.4	17.2	0.8	17.8	172.8	109.7	-63.1	171.1	92.6	143.5	50.9	134.0
7	上旬	18.9	20.9	1.9	21.1	48.0	20.2	-27.8	33.6	51.8	79.0	27.2	79.5
	中旬	20.0	20.7	0.7	20.9	47.0	22.4	-24.6	27.1	48.9	56.5	7.6	60.0
	下旬	22.0	22.4	0.4	22.9	59.9	57.4	-2.5	71.2	41.8	5.5	-36.3	9.0
	平均・計	20.3	21.3	1.0	21.6	154.8	100.0	-54.8	131.9	142.5	141.0	-1.4	148.5
8	上旬	22.5	22.7	0.2	23.4	61.0	24.3	-36.7	39.9	37.4	221.5	184.1	228.5
	中旬	22.0	23.0	1.0	23.7	54.8	27.1	-27.7	34.2	43.5	113.5	70.0	124.0
	下旬	21.5	21.6	0.2	22.4	60.1	48.3	-11.8	52.9	61.7	40.0	-21.7	37.0
	平均・計	21.9	22.4	0.5	23.2	175.8	99.7	-76.1	127.0	142.7	375.0	232.4	389.5
9	上旬	20.6	21.1	0.6	21.8	54.1	47.6	-6.5	55.3	43.3	47.0	3.8	37.5
	中旬	18.8	20.9	2.1	21.5	53.1	56.1	3.0	64.5	77.4	51.0	-26.4	62.5
	下旬	16.4	17.5	1.0	18.0	56.1	48.8	-7.3	50.8	42.3	27.5	-14.8	36.5
	平均・計	18.6	19.8	1.3	20.4	163.4	152.5	-10.9	170.6	163.0	125.5	-37.5	136.5
10	上旬	14.6	14.8	0.2	15.5	51.0	25.4	-25.6	31.7	47.0	66.0	19.0	59.0
	中旬	12.7	12.9	0.2	13.5	58.2	48.6	-9.6	53.1	30.3	2.0	-28.3	3.0
	下旬	10.8	10.5	-0.4	11.0	55.7	41.5	-14.2	45.3	30.6	8.0	-22.6	25.5
	平均・計	12.6	12.6	-0.0	13.3	164.9	115.5	-49.4	130.1	107.9	76.0	-31.9	87.5
11	上旬	9.0	9.3	0.3	9.6	51.3	44.1	-7.2	48.1	20.2	12.0	-8.2	16.0
	中旬	6.2	7.7	1.5	8.0	41.5	56.1	14.6	61.1	20.0	7.0	-13.0	10.0
	下旬	4.3	8.3	4.0	8.7	41.4	39.0	-2.4	40.9	17.2	23.5	6.3	35.0
	平均・計	6.4	8.4	2.1	8.8	134.1	139.2	5.1	150.1	57.3	42.5	-14.8	61.0
12	上旬	2.3	0.7	-1.6	1.3	39.6	34.9	-4.7	34.7	16.6	15.5	-1.1	15.0
	中旬	0.5	-0.7	-1.2	-0.1	40.4	33.8	-6.6	37.0	11.5	5.0	-6.5	7.5
	下旬	-0.2	2.1	2.2	2.5	45.7	46.1	0.4	46.0	18.5	30.0	11.5	32.5
	平均・計	0.8	0.7	-0.1	1.2	125.7	114.8	-10.9	117.7	46.6	50.5	3.9	55.0
年平均・計		9.8	10.8	0.9	11.2	1980.5	1,723.4	-257.1	1,972.0	1,007.7	1,112.0	104.3	1,200.5

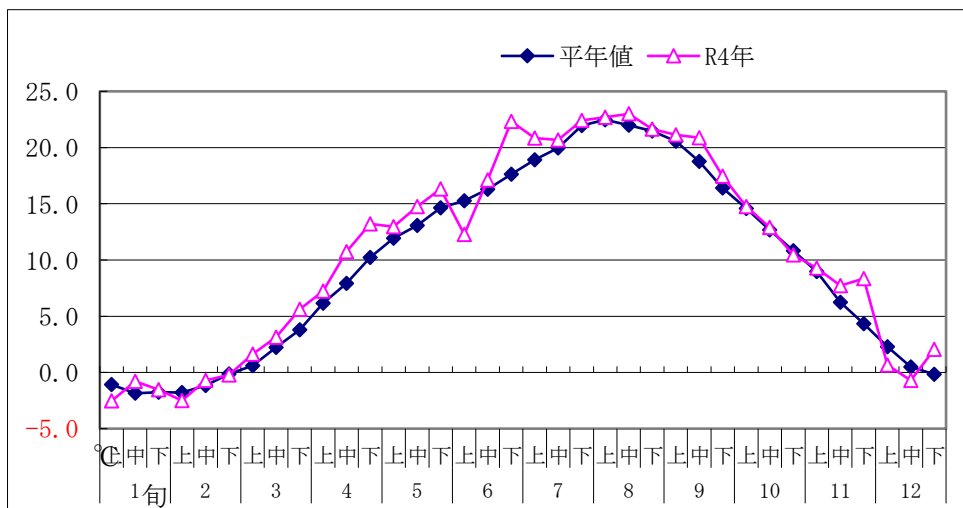
※八戸特別地域気象観測所 観測数値 (斜字) は気象庁ホームページから引用

※平均気温及び降水量の平年値は平成3年から令和2年までの当センター観測数値による

日照時間の平年値は平成3年から令和2年までの八戸特別気象観測所観測数値による

※四捨五入により端数処理

(1) 平均気温

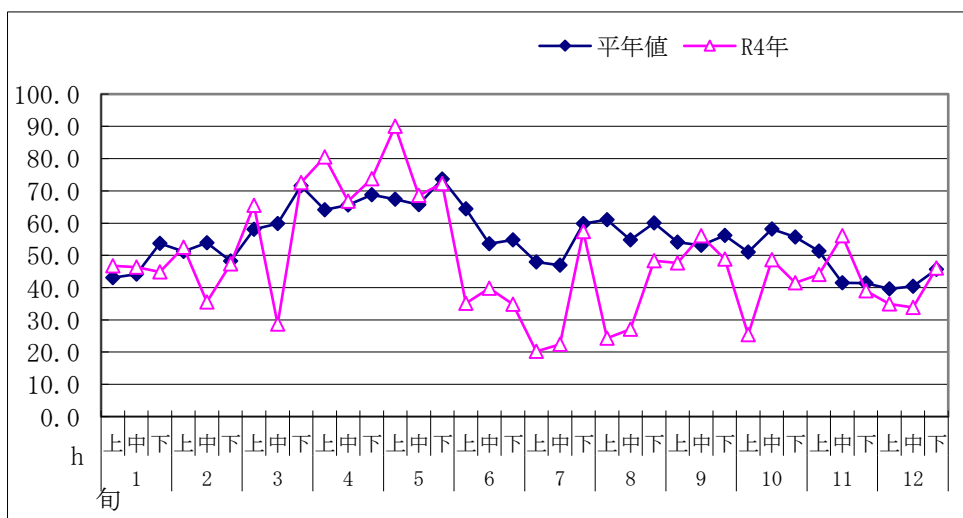


平年値との比較

- ・1°Cを上回る月
- 3月 (+1.3°C)
- 4月 (+2.2°C)
- 5月 (+1.5°C)
- 9月 (+1.3°C)
- 11月 (+2.1°C)

図1 平均気温

(2) 日照時間

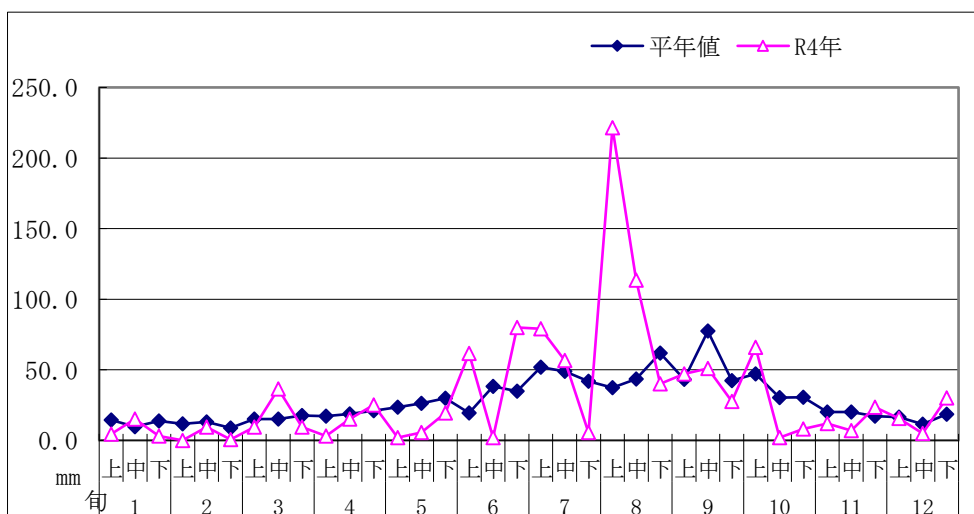


平年値との比較

- ・30時間/月を下回る月
- 6月 (-63.1h)
- 7月 (-54.8h)
- 8月 (-76.1h)
- 10月 (-49.4h)

図2 日照時間

(3) 降水量



平年値との比較

- ・30mm/月を上回る月
- 6月 (+50.9mm)
- 8月 (+232.4mm)
- ・30mm/月を下回る月
- 5月 (-52.5mm)
- 9月 (-37.5mm)
- 10月 (-31.9mm)

図3 降水量

表2 令和4年 気象観測数値 旬表

農業経営振興センター観測

月	旬	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (h)	降水量 (mm)	平均湿度 (%)	平均地温 (°C)		
								0cm	10cm	20cm
1	上旬	-2.5	3.9	-8.7	46.7	4.5	79.3	1.8	2.9	4.0
	中旬	-0.8	4.3	-5.9	46.4	15.0	71.8	1.6	2.6	3.6
	下旬	-1.5	4.2	-8.0	44.9	3.0	71.0	1.3	2.2	3.1
	平均・極値・計	-1.6	4.3	-8.7	138.0	22.5	73.9	1.6	2.6	3.6
2	上旬	-2.5	2.5	-9.7	52.5	0.0	64.6	0.6	1.6	2.5
	中旬	-0.7	4.6	-6.5	35.5	9.5	79.6	0.4	1.2	2.1
	下旬	-0.2	8.2	-6.9	47.3	0.5	65.4	0.5	1.3	2.0
	平均・極値・計	-1.2	8.2	-9.7	135.3	10.0	70.2	0.5	1.4	2.2
3	上旬	1.6	9.8	-4.2	65.5	9.5	67.0	1.3	1.5	2.0
	中旬	3.1	12.2	-1.1	28.7	36.5	78.8	3.4	3.4	3.6
	下旬	5.6	17.2	-3.1	72.6	9.5	62.4	3.9	3.8	3.7
	平均・極値・計	3.5	17.2	-4.2	166.8	55.5	69.2	2.9	2.9	3.1
4	上旬	7.3	21.1	-1.6	80.5	3.0	62.7	6.5	6.0	5.6
	中旬	10.7	27.2	2.6	66.8	15.0	63.0	9.3	8.7	8.1
	下旬	13.2	25.3	1.5	73.7	25.0	61.4	11.8	10.9	10.2
	平均・極値・計	10.4	27.2	-1.6	221.0	43.0	62.4	9.2	8.5	8.0
5	上旬	13.0	26.8	4.6	90.0	2.0	62.6	12.1	11.3	10.9
	中旬	14.7	25.2	5.8	68.6	5.5	71.9	15.8	14.3	13.2
	下旬	16.3	27.9	10.2	72.3	19.5	77.2	18.0	16.8	15.5
	平均・極値・計	14.7	27.9	4.6	230.9	27.0	70.8	15.4	14.2	13.2
6	上旬	12.3	22.8	5.5	35.1	61.5	91.9	15.7	15.3	15.1
	中旬	17.1	28.2	6.7	39.8	2.0	84.0	18.8	17.5	16.4
	下旬	22.3	31.6	12.9	34.8	80.0	82.0	22.0	20.6	19.0
	平均・極値・計	17.2	31.6	5.5	109.7	143.5	86.0	18.9	17.8	16.8
7	上旬	20.9	32.5	16.7	20.2	79.0	93.0	22.3	21.7	20.8
	中旬	20.7	28.9	17.3	22.4	56.5	95.3	22.2	21.8	21.1
	下旬	22.4	33.1	17.8	57.4	5.5	92.0	23.8	23.0	22.2
	平均・極値・計	21.3	33.1	16.7	100.0	141.0	93.4	22.8	22.2	21.4
8	上旬	22.7	32.9	16.2	24.3	221.5	90.1	23.2	23.3	23.1
	中旬	23.0	29.1	17.2	27.1	113.5	89.8	23.6	23.7	23.6
	下旬	21.6	30.7	13.9	48.3	40.0	83.8	22.6	22.9	23.1
	平均・極値・計	22.4	32.9	13.9	99.7	375.0	87.8	23.1	23.3	23.3
9	上旬	21.1	29.6	15.0	47.6	47.0	85.5	22.1	22.3	22.6
	中旬	20.9	31.5	10.1	56.1	51.0	85.4	21.6	21.8	22.3
	下旬	17.5	26.0	8.2	48.8	27.5	86.7	19.0	19.6	20.7
	平均・極値・計	19.8	31.5	8.2	152.5	125.5	85.9	20.9	21.2	21.9
10	上旬	14.8	25.6	6.3	25.4	66.0	85.1	16.7	17.8	18.9
	中旬	12.9	22.2	4.4	48.6	2.0	79.4	14.5	15.6	16.5
	下旬	10.5	19.9	2.4	41.5	8.0	79.8	11.4	12.9	14.2
	平均・極値・計	12.6	25.6	2.4	115.5	76.0	81.4	14.1	15.3	16.4
11	上旬	9.3	18.5	1.0	44.1	12.0	79.4	9.5	11.0	12.3
	中旬	7.7	20.3	-0.4	56.1	7.0	77.3	7.7	9.5	10.8
	下旬	8.3	19.0	-1.2	39.0	23.5	77.3	7.5	8.7	9.5
	平均・極値・計	8.4	20.3	-1.2	139.2	42.5	78.0	8.2	9.7	10.9
12	上旬	0.7	7.8	-3.8	34.9	15.5	82.8	2.5	5.0	6.9
	中旬	-0.7	9.9	-6.5	33.8	5.0	79.0	1.7	3.4	5.0
	下旬	2.1	9.1	-3.6	46.1	30.0	76.4	1.2	2.6	3.7
	平均・極値・計	0.7	9.9	-6.5	114.8	50.5	79.3	1.8	3.6	5.2
年平均・極値・計		10.8	33.1	-9.7	1,723.4	1,112.0	78.2	11.7	12.0	12.2

※四捨五入により端数処理

2-2 調査成績（施設野菜）

施設野菜の部 No.1

項目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続：令和3年度～令和5年度）

1 目的 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス4号（132㎡：約40坪）
- (2) 耕種概要
- 栽培方法 養液土耕栽培
 - は種月日 令和3年5月14日（406穴セルトレイ）
 - 移植月日 令和3年6月29日（10.5cmポット）
※406穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
 - 夜冷処理期間 令和3年7月29日～8月26日
 - 夜冷処理日数 29日
 - 夜冷処理方法 短日処理 8時間日長（16時30分～翌8時30分遮光）
夜冷処理 13～15℃（16時30分～翌8時30分）
 - 育苗日数 <1><2>105日、<3>133日
 - 定植年月日 <1><2>令和3年8月27日、<3>令和3年9月24日
 - 栽植距離 うね幅110cm、ベッド幅70cm、株間25cm、2条植え
 - 定植株数 640株/棟
 - 施肥量 N-P-K=1.33-0.62-1.53kg/a
【基肥】有機アグレット816（8-1-6）：7.5kg/a
【追肥】大塚養液土耕6号（13.5-10-20）：5.4kg/a
 - 使用資材 アヅミン（Mg:3%）：5kg/a、ハイフミン・ハイブリット：30kg/a、
あったかマルチ
 - 収穫期間 令和3年10月25日～令和4年6月17日
 - 保温 内カーテン：令和3年11月10日～令和4年5月16日
 - 加温 温風暖房機（5℃設定）：
令和3年11月10日～令和4年4月20日
 - 薬剤散布 24回（成分回数）
- (3) 調査区の構成
- 調査区 3区（1区10株、1区制）
<1>夜冷短日処理区
<2>電照長日処理区（定植後2週間24時間日長処理）
<3>9月下旬定植区
 - 供試品種 よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 生育
収穫開始は、「電照長日処理区」でやや早かった。「夜冷短日処理区」もほぼ同じ時期からの収穫開始となったが、「9月下旬定植区」は12月上旬からの収穫開始となった。
病害虫については、5月からうどんこ病が発生したが、「よつぼし」では発生が少なかった。
 - 収量
「夜冷短日処理区」では、1株収量は483.4g、10a換算収量は2,344kgであり、最も多かった。
月別収量で比較すると収穫開始から3月までは「夜冷短日処理区」と「電照長日処理区」で多かったが、4月中旬以降は「9月下旬定植区」で多い結果となった。
 - 品質
平均果重は「夜冷短日処理区」で15.3gと最も大きく、「9月下旬定植区」で11.1g

と最も小さかった。秀品率は「夜冷短日処理区」で最も高く、10a 換算秀品収量でも2,188kg と最も優れていた。

- (2) 次年度以降の計画
継続

表1 生育調査

調査区名	草丈 (cm)	展開葉 (枚)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅長 (cm)	芽数 (芽)	クラウン 径 (mm)
夜冷短日処理区	30.6	-	18.8	12.5	9.8	-	20.1
電照長日処理区	32.8	-	19.3	13.7	10.5	-	21.0
9月下旬定植区	21.8	-	12.1	10.0	8.1	-	14.4

表2 収量調査 (10株当たり)

(単位: g、個)

調査区名	3L (35g以上)		2L (25~35g未満)		L (15~25g未満)		M (11g~15g未満)		S (7~11g未満)	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
夜冷短日処理区	6	217	24	695	120	2,224	76	973	68	608
電照長日処理区	2	77	26	669	104	1,929	76	957	80	735
9月下旬定植区	0	0	10	263	51	930	66	816	109	954

表2つづき

調査区名	小果・奇形果		合計		等級割合 (%:重量ベース)					
	個数	収量	個数	収量	3L	2L	L	M	S	小・奇形
夜冷短日処理区	21	117	315	4,834	1.9	7.6	38.1	24.1	21.6	6.7
電照長日処理区	47	238	335	4,605	0.6	7.8	31.0	22.7	23.9	14.0
9月下旬定植区	60	311	296	3,274	0.0	3.4	17.2	22.3	36.8	20.3

表2つづき

調査区名	平均 果重	1株 収量 (g)	1棟(132㎡) 換算収量 (kg)	10a換算 収量 (kg)	秀品率 (%)	10a換算秀品 収量 (kg)
夜冷短日処理区	15.3	483.4	309.4	2,344	93.3	2,188
電照長日処理区	13.7	460.5	294.7	2,233	86.0	1,919
9月下旬定植区	11.1	327.4	209.5	1,587	79.7	1,266

表3 品質調査

測定日	よつぼし		
	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	硬度 (kg)
12月10日	12.5	2.65	0.96
2月14日	12.8	2.20	0.90
3月11日	11.8	1.90	0.89

※各測定日に収穫した5果当たりの平均値。

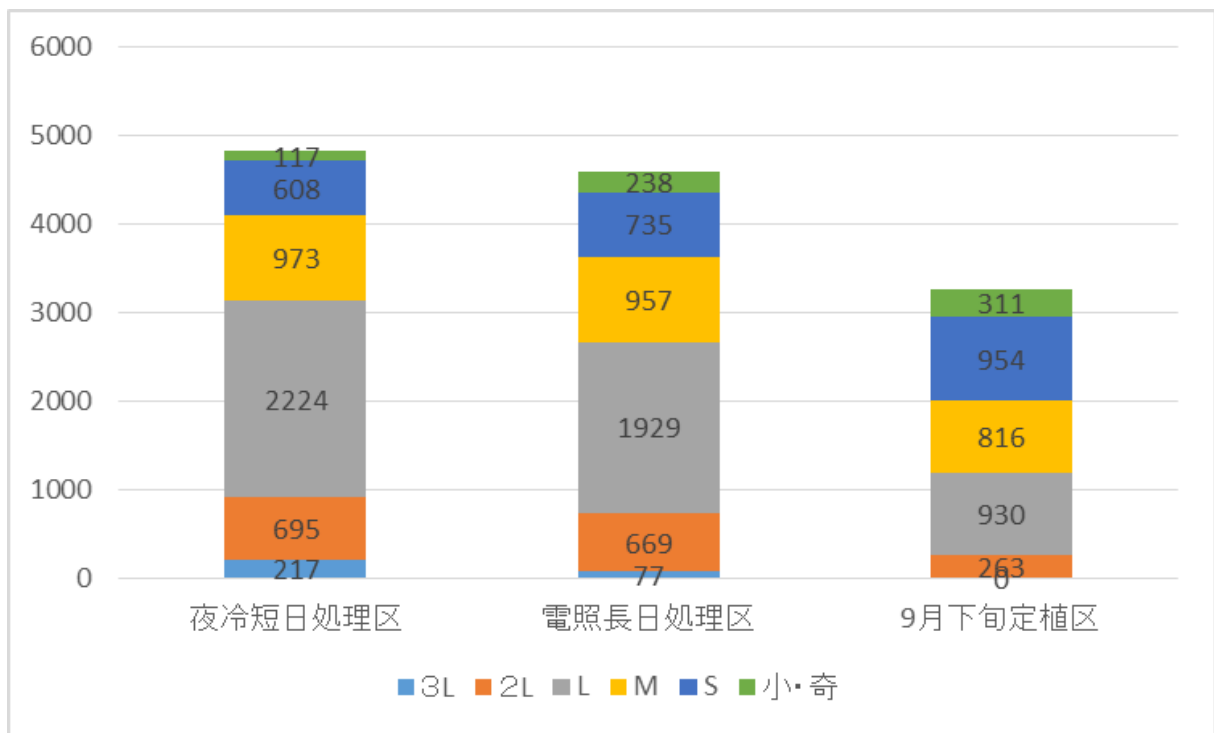


図1 等級別収量 (g) (10株当たり)

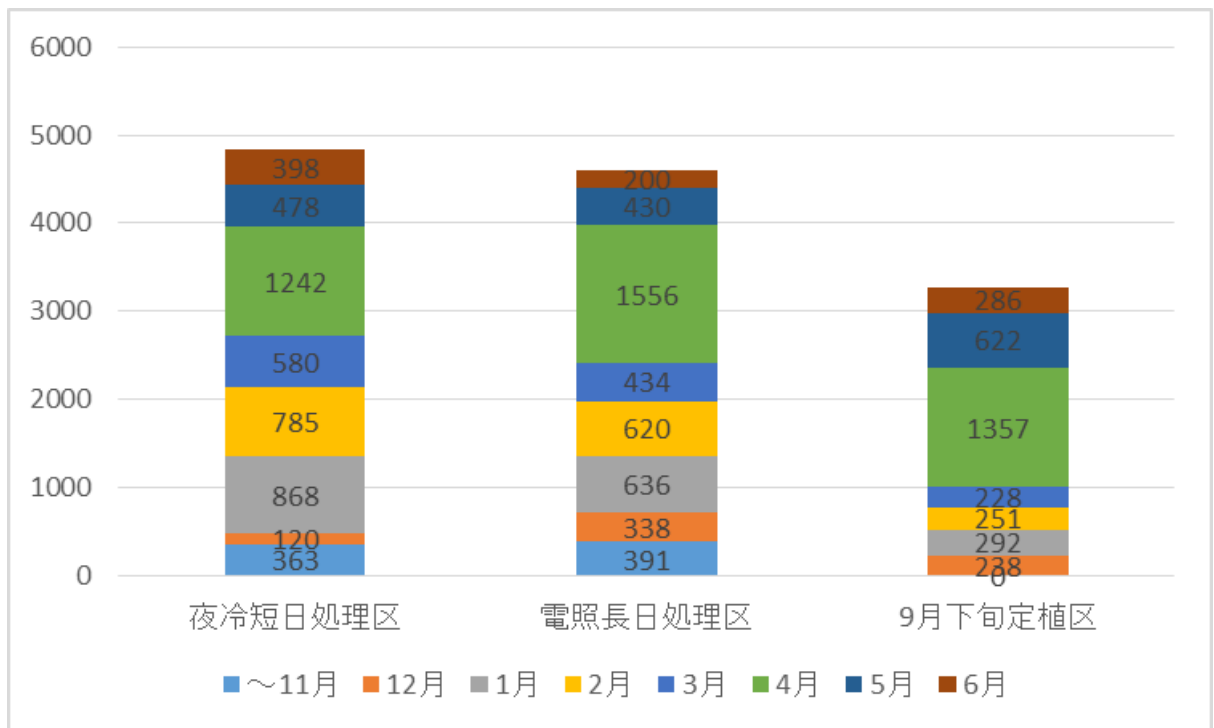


図2 月別収量 (g) (10株当たり)

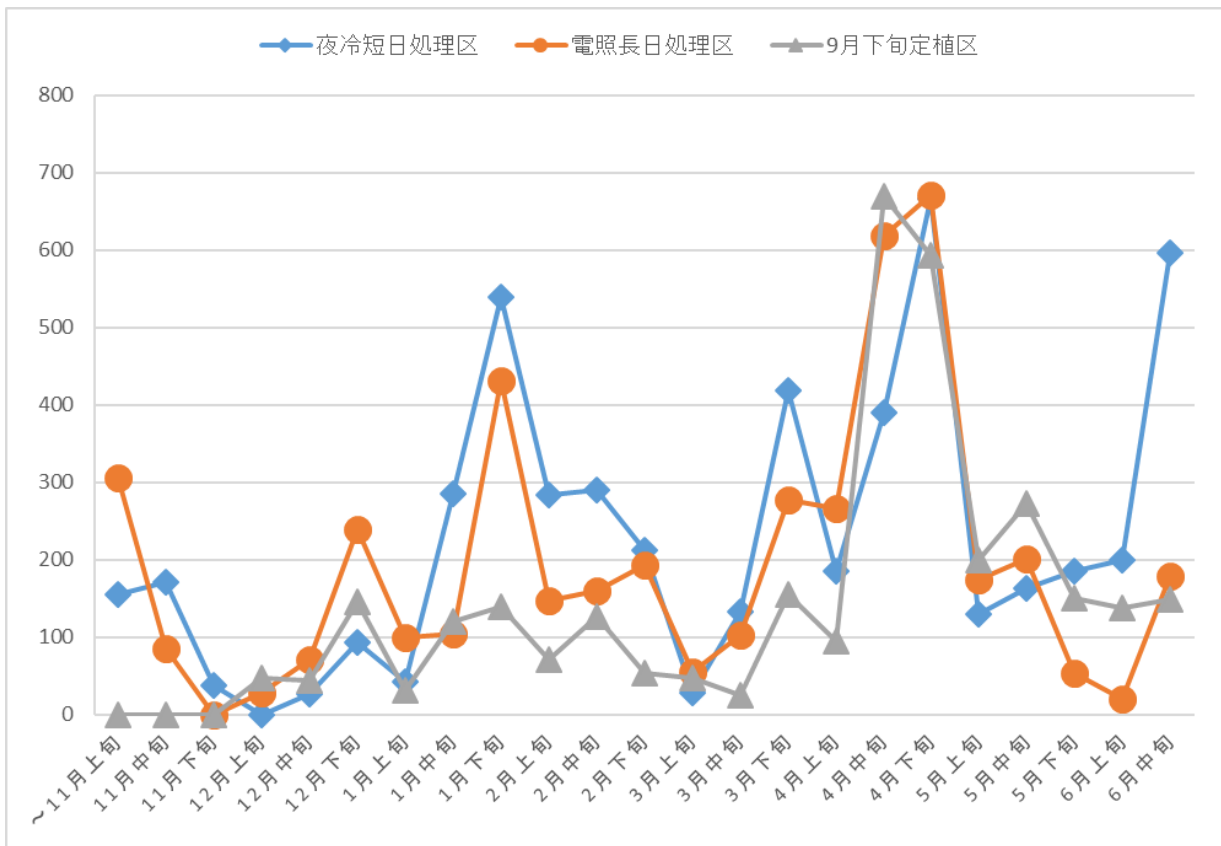


図3 旬別収量 (g) (10株当たり)

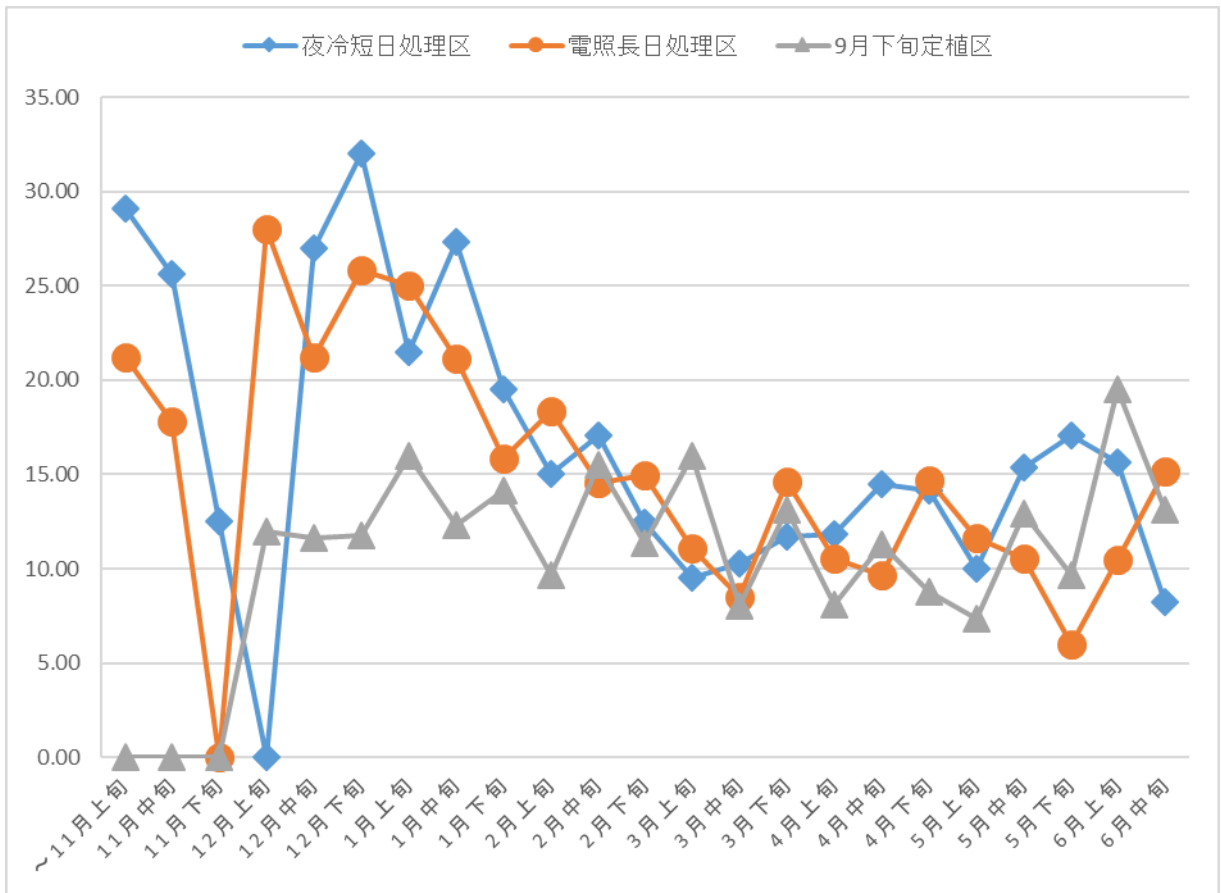


図4 旬別平均果重 (g) (10株当たり)

施設野菜の部 No.2

項目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種の品種特性調査（新規：令和4年度～令和5年度）

- 1 目的 新種子繁殖型いちご品種「すず」、「はるひ」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス4号 (132 m² : 約40坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和3年5月14日 (406穴セルトレイ)
 - 3) 移植月日 令和3年6月29日 (10.5cmポット)
※406穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
 - 7) 育苗日数 133日
 - 8) 定植年月日 令和3年9月24日
 - 9) 栽植距離 うね幅110cm、ベッド幅70cm、株間25cm、2条植え
 - 10) 定植株数 640株/棟
 - 11) 施肥量 N-P-K=1.33-0.62-1.53kg/a
【基肥】有機アグレット816 (8-1-6) : 7.5kg/a
【追肥】大塚養液土耕6号 (13.5-10-20) : 5.4kg/a
 - 12) 使用資材 アヅミン (Mg:3%) : 5kg/a、ハイフミン・ハイブリット : 30kg/a、あったかマルチ
 - 13) 収穫期間 令和3年12月3日～令和4年6月17日
 - 14) 保温 内カーテン : 令和3年11月10日～令和4年5月16日
 - 15) 加温 温風暖房機 (5℃設定) :
令和3年11月10日～令和4年4月20日
 - 16) 薬剤散布 24回 (成分回数)
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 3区 (1区10株、1区制)
 - 2) 供試品種 <1>すず (株ミヨシ・三好アグリテック(株)・三重県)
<2>はるひ (株ミヨシ・三好アグリテック(株))
<3>よつぼし (三重県・香川県・千葉県・農研機構)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
収穫開始は、「よつぼし」で最も早く、12月20日から始まった。「すず」では遅れて12月下旬から収穫開始となったが、「はるひ」では大幅に遅れて4月からの収穫開始となった。
病害虫については、ほぼ発生は見られなかった。
 - 2) 収量
「すず」では、1株収量は342.1g、10a換算収量は1,659kgであり、最も多い結果となった。
月別収量で比較すると、3月までは「よつぼし」で最も多く、「はるひ」ではこの期間において収穫がなかったが、4月以降は「すず」「はるひ」「よつぼし」の順に収穫量が多かった。
 - 3) 品質
平均果重は「はるひ」で15.2gと最も大きく、「よつぼし」で11.1gと最も小さかった。秀品率は「よつぼし」で79.7%と最も優れていたが、10a換算秀品収量では「すず」が1,312kgと最も優れていた。
- (2) 次年度以降の計画

継続

表1 生育調査

調査区名	草丈 (cm)	展開葉 (枚)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅長 (cm)	芽数 (芽)	クラウン 径 (mm)
すず	31.6	-	18.2	13.6	11.1	-	14.8
はるひ	28.3	-	16.8	13.7	11.1	-	13.6
よつぼし	21.8	-	12.1	10.0	8.1	-	14.4

表2 収量調査 (10株当たり)

(単位: g、個)

調査区名	3L (35g以上)		2L (25~35g未満)		L (15~25g未満)		M (11g~15g未満)		S (7~11g未満)	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
すず	2	72	17	479	62	1,130	58	748	77	693
はるひ	3	116	26	775	53	961	21	253	30	270
よつぼし	0	0	10	263	51	930	66	816	109	954

表2つづき

調査区名	小果・奇形果		合計		等級割合 (%:重量ベース)					
	個数	収量	個数	収量	3L	2L	L	M	S	小・奇形
すず	57	299	273	3,421	0.7	6.2	22.7	21.2	28.2	20.9
はるひ	36	189	169	2,564	1.8	15.4	31.4	12.4	17.8	21.3
よつぼし	60	311	296	3,274	0.0	3.4	17.2	22.3	36.8	20.3

表2つづき

調査区名	平均 果重	1株 収量 (g)	1棟 (132m ²) 換算収量 (kg)	10a換算 収量 (kg)	秀品率 (%)	10a換算秀品 収量 (kg)
すず	12.5	342.1	218.9	1,659	79.1	1,312
はるひ	15.2	256.4	164.1	1,243	78.7	978
よつぼし	11.1	327.4	209.5	1,587	79.7	1,266

表3 品質調査

測定日	すず			はるひ			よつぼし		
	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	硬度 (kg)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	硬度 (kg)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	硬度 (kg)
12月10日	-	-	-	-	-	-	12.5	2.65	0.96
2月14日	16.3	2.55	0.98	-	-	-	12.8	2.20	0.90
3月11日	16.3	1.95	0.92	-	-	-	11.8	1.90	0.89

※各測定日に収穫した5果当たりの平均値。

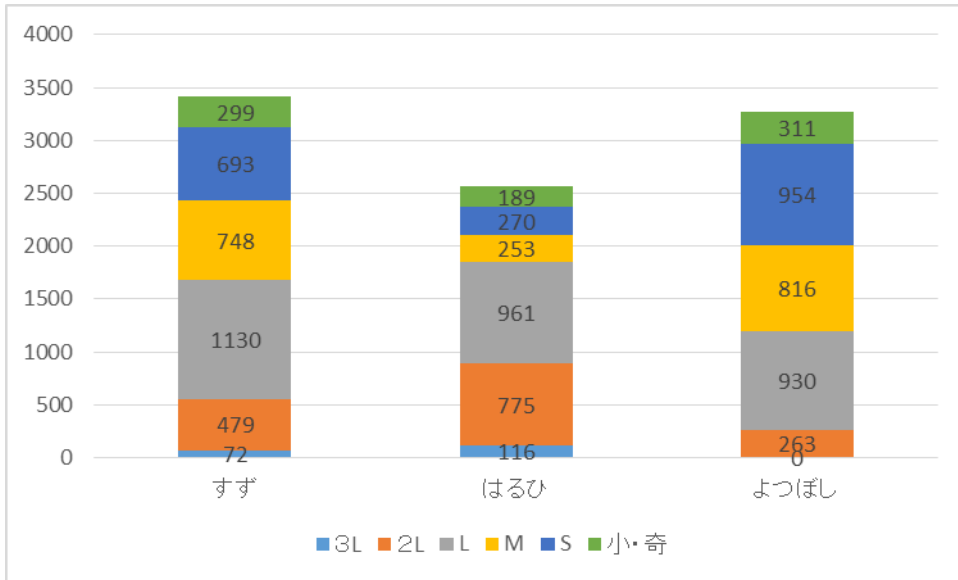


図1 等級別収量 (g) (10株当たり)

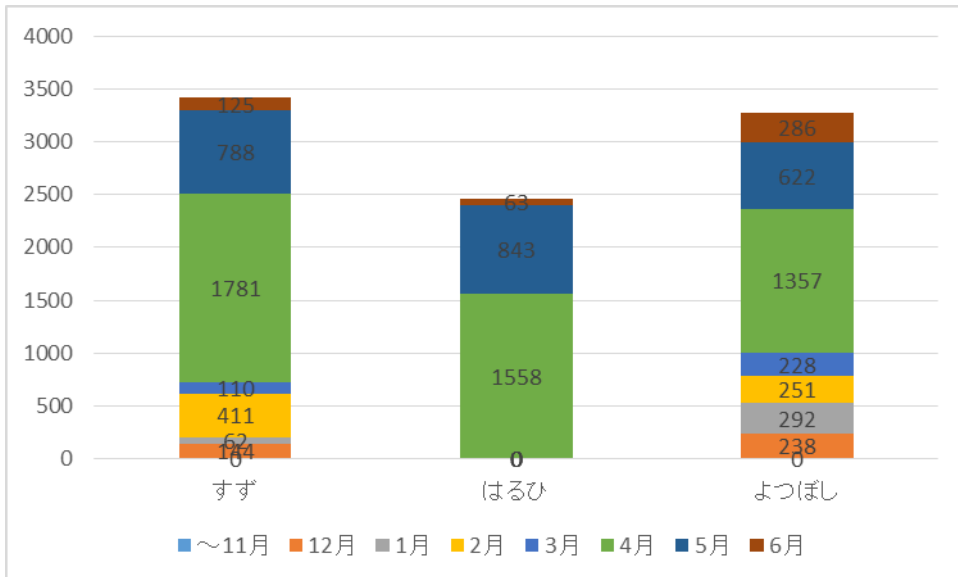


図2 月別収量 (g) (10株当たり)

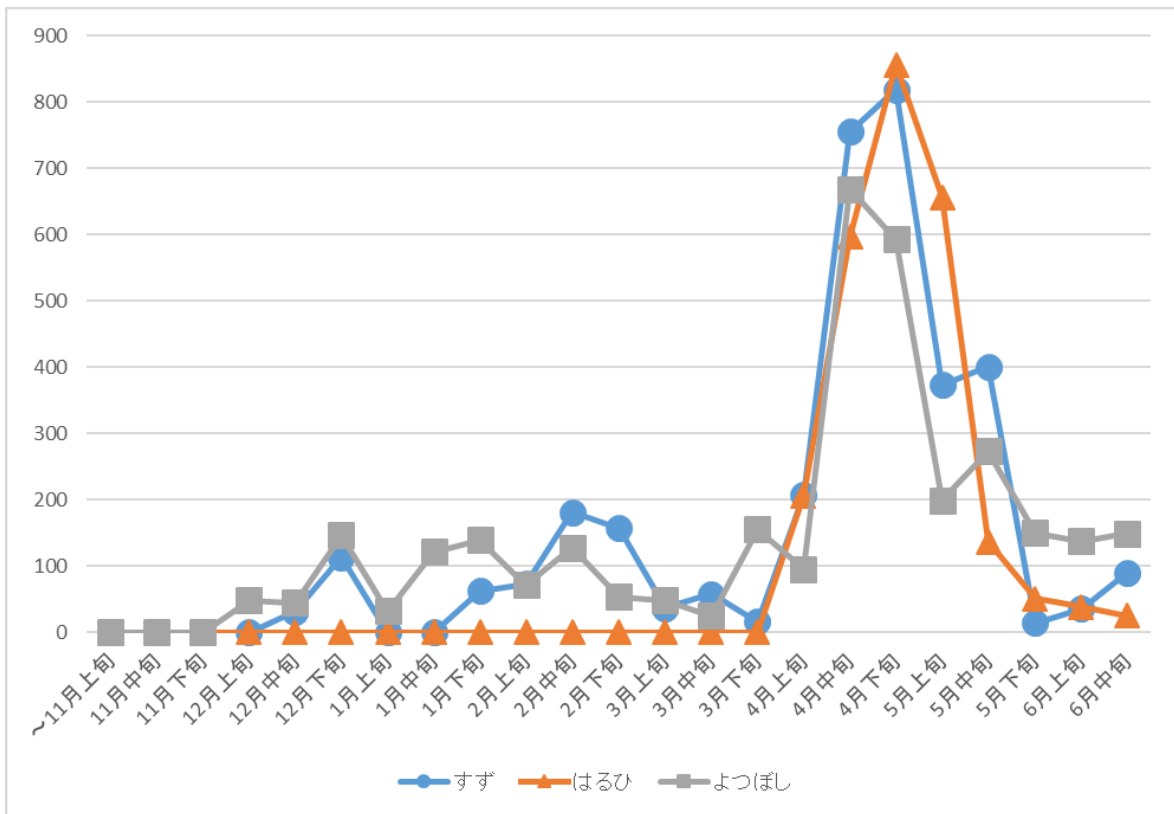


図3 旬別収量 (g) (10株当たり)

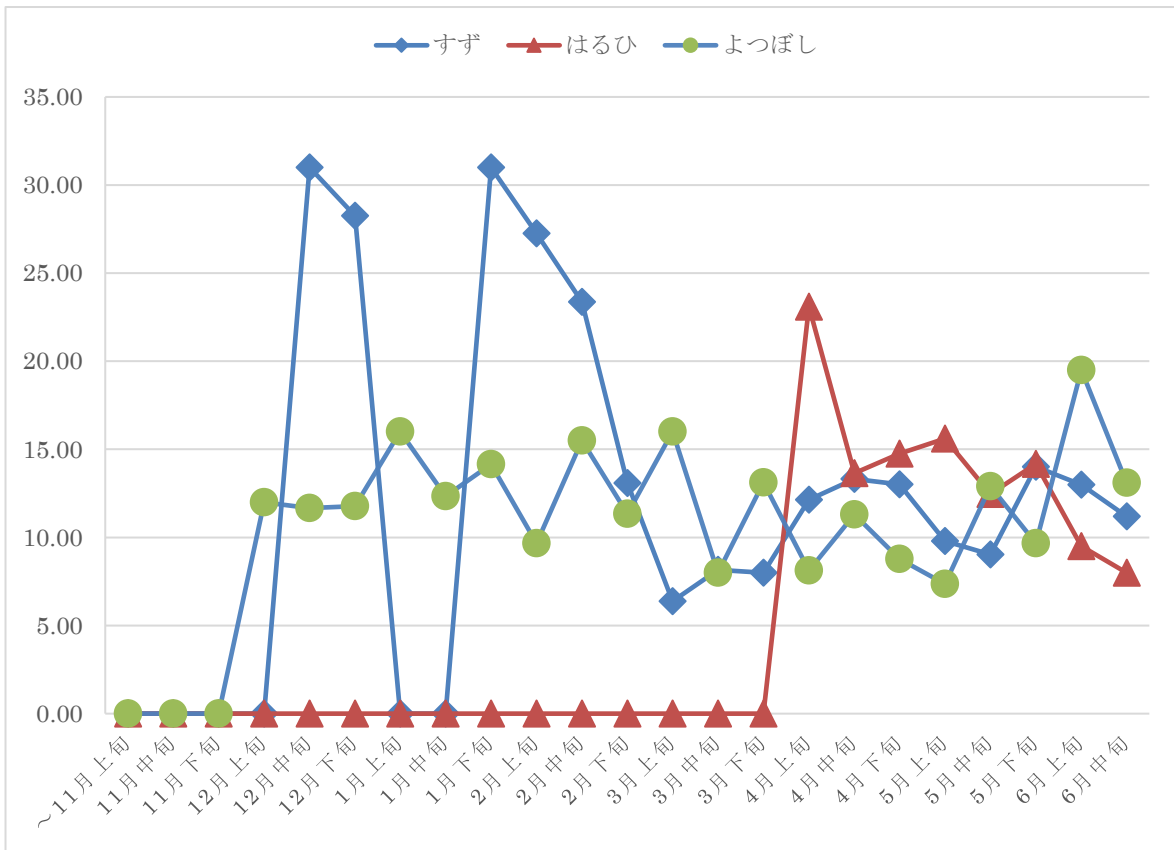


図4 旬別平均果重 (g) (10株当たり)

施設野菜の部 No.3

項目：品種比較調査

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

- 1 目的 トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室5号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和3年12月27日（144穴トレイ）
 - 3) 移植月日 令和4年1月21日（12cmポット）
 - 4) 定植月日 令和4年2月22日
 - 5) 育苗日数 57日
 - 6) 栽植距離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
 - 7) 定植株数 320株/棟
 - 8) 施肥量 N-P-K=1.44-1.30-2.52kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：3.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：7.2kg/a
 - 9) 使用資材 ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あつたかマルチ、白黒ダブルマルチ
 - 10) 収穫期間 令和4年6月13日～7月29日
 - 11) 保温 内カーテン：令和4年2月22日～令和4年5月16日
 - 12) 加温 温風暖房機（12℃設定）：令和4年2月22日～令和4年5月12日
 - 13) 薬剤散布 5回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
 - 14) 摘心 令和4年5月31日（8段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 4区（1区10株、1区制）
 - 2) 供試品種
<1> みそら64 (みかど協和(株))
<2> CF桃太郎はるか (タキイ種苗(株))
<3> 桃太郎ネクスト (タキイ種苗(株))
<4> 麗月 (株サカタのタネ)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
定植時の生育調査では、「桃太郎はるか」で草丈が高くなり、「みそら64」で最も低くなった。
病害虫では、終盤にネコブセンチュウによる被害が散見され、草勢が低下したことにより果実の肥大が進まなかったため、収量が低下した。
 - 2) 収量
10a換算収量は「麗月」で最も多かった。「桃太郎ネクスト」では、肥培管理の状況及びネコブセンチュウによる被害の影響により草勢がやや弱くなった結果、収量が最も少なかった。また、月別収量で最も多かったのは、5月は「CF桃太郎はるか」、6、7月は「麗月」であった。
 - 3) 品質
平均1果重は「桃太郎はるか」で最も大きく、「みそら64」で最も小さかった。上物率は「麗月」が高く、「みそら64」で低かった。10a換算上物収量は「麗月」が最も高かった。
- (2) 次年度以降の計画
継続

表 1 生育調査 (10 株平均)

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第 1 果房 の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら 64	定植時	31.0	10.3	6.6	-	30.2	8.1
	収穫開始時	95.6	17.3	-	5.5	29.9	15.1
CF 桃太郎はるか	定植時	36.8	10.6	7.5	-	24.0	11.1
	収穫開始時	165.5	23.6	-	7.0	35.8	12.3
桃太郎ネクスト	定植時	35.3	10.3	6.3	-	28.4	6.5
	収穫開始時	120.0	19.5	-	6.2	32.6	10.4
麗月	定植時	36.2	9.3	6.7	-	26.5	6.6
	収穫開始時	-	-	-	-	-	-

表 2 収量調査 (10 株当たり)

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら64	72	10,262	39	4,815	111	15,077
CF桃太郎はるか	130	27,837	40	7,649	170	35,486
桃太郎ネクスト	76	11,283	20	2,722	96	14,005
麗月	208	36,417	29	3,469	237	39,886

表 2 つづき

品種名	1株換算 収量(g)	平均1果重 (g)	上物率 (%)	1棟換算 収量 (t)	10a換算 収量(t)	10a換算 上物収量 (t)
みそら64	3,015	135.8	68.1	0.5	2.9	2.0
CF桃太郎はるか	7,097	208.7	78.4	1.1	6.8	5.3
桃太郎ネクスト	2,801	145.9	80.6	0.4	2.7	2.2
麗月	7,977	168.3	91.3	1.3	7.7	7.0

※上物：A+B品、下物：C+D+外品の合計。

※1株換算収量=合計収量/10株。平均1果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1棟(165㎡)換算収量=1株換算収量×定植株数(320株)。10a換算収量=1棟換算収量/165㎡×1,000㎡。

10a換算上物数量=10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3 糖度調査 (Brix%) (6 月 22 日)

品種名	糖度 (Brix%)
みそら64	5.8
CF桃太郎はるか	5.5
桃太郎ネクスト	-
麗月	5.4

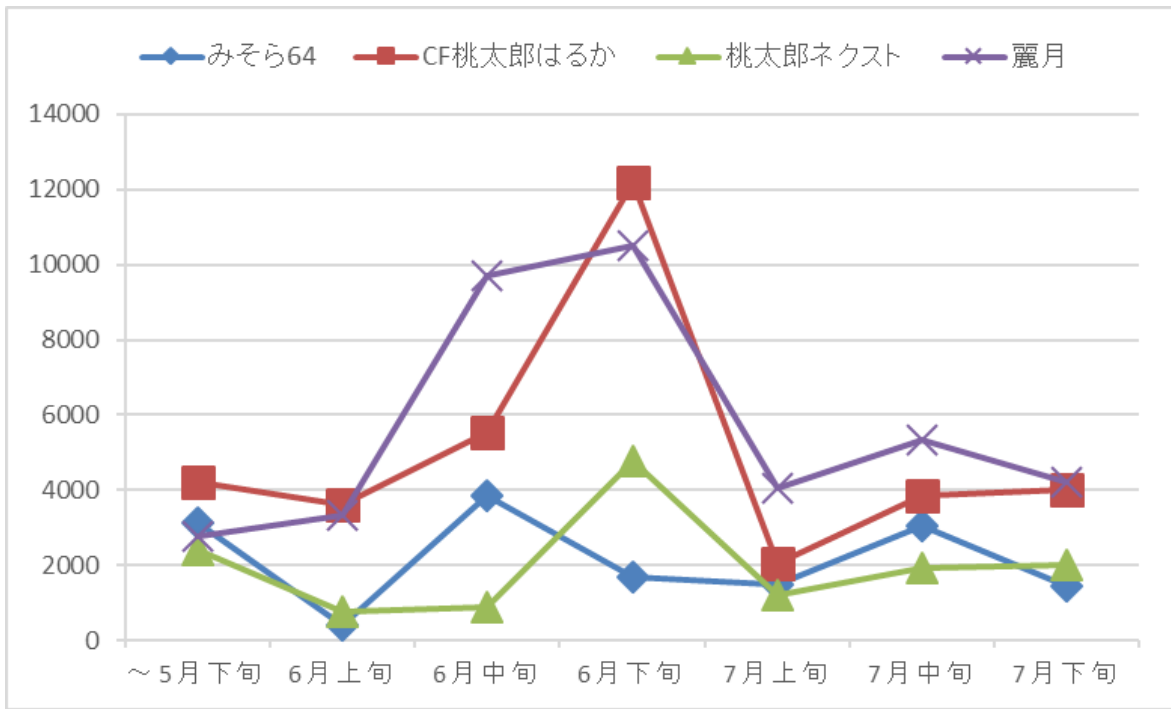


図1 旬別収量 (g) (10株当たり)

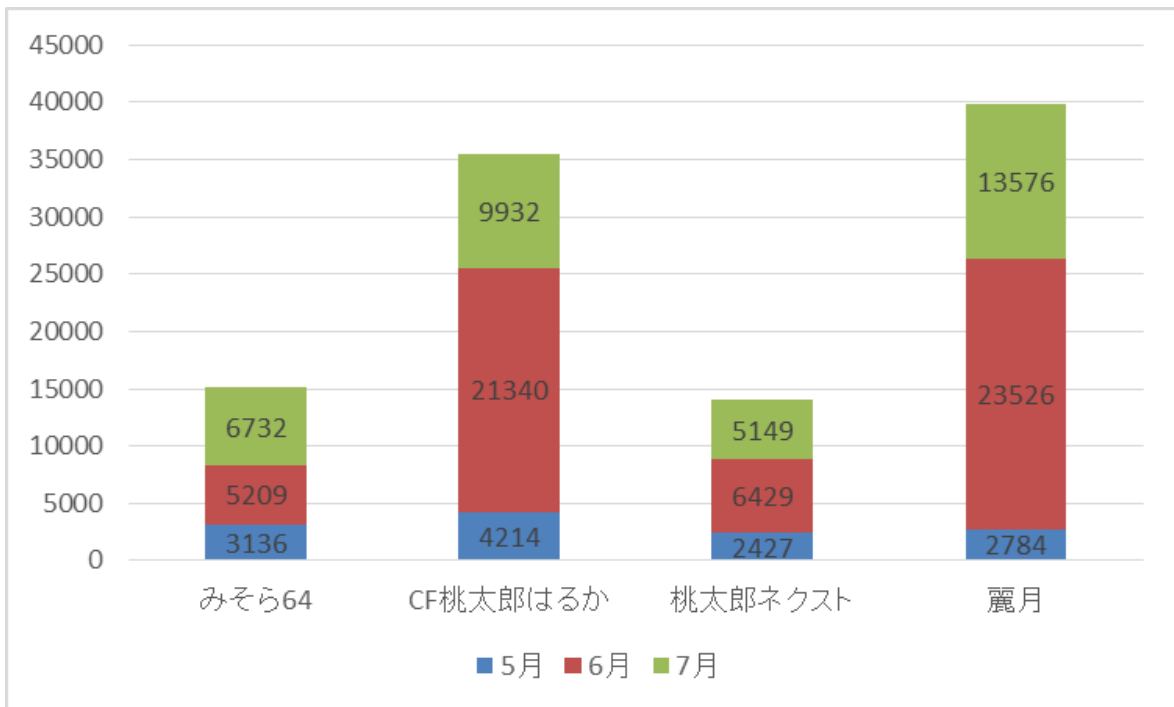


図2 月別収量 (g) (10株当たり)

施設野菜の部 No.4

項目：品種比較調査

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

- 1 目的 トマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室7号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 栽培方法 養液土耕栽培
 - は種月日 令和4年2月28日（144穴トレイ）
 - 移植月日 令和4年3月17日（12cmポット）
 - 定植月日 令和4年4月18日
 - 育苗日数 49日
 - 栽植距離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
 - 定植株数 320株/棟
 - 施肥量 N-P-K=2.17-1.24-3.88kg/a
【肥料】大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：15.5kg/a
ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あつたかマルチ、白黒ダブルマルチ
 - 使用資材
 - 収穫期間 令和4年6月17日～11月21日
 - 保温 内カーテン：令和4年4月18日～令和4年5月16日、10月11日～収穫終了日
 - 加温 温風暖房機（12℃設定）：令和4年4月18日～令和4年5月12日
 - 薬剤散布 12回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
 - 摘心 令和4年9月21日（20段程度）
- (3) 調査区の構成
- 調査区 5区（1区10株、1区制）
 - 供試品種
<1> みそら64 (みかど協和株)
<2> ひなた (みかど協和株)
<3> 桃太郎ネクスト (タキイ種苗株)
<4> りんか409 (株サカタのタネ)
<5> 麗月 (株サカタのタネ)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 生育
定植時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が高くなり、「ひなた」で最も低くなった。
収穫開始時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が最も高くなり、「りんか409」で最も低くなった。
病虫害では、終盤に葉かび病及び灰色かび病による被害が散見された。
 - 収量
10a 換算収量は「桃太郎ネクスト」で最も多くなった。また、月別収量で最も多かったのは、6、7月「みそら64」、8月は「桃太郎ネクスト」、9月は「りんか409」、10月以降は「みそら64」であった。
 - 品質
平均1果重は「ひなた」で最も大きく、「麗月」で最も小さかった。上物率は「ひなた」で高く、「りんか409」で低かった。10a 換算上物収量は「桃太郎ネクスト」で最も高かった。糖度は、「りんか409」で最も高くなり、「みそら64」で最も低くなった。
- (2) 次年度以降の計画

継続

表1 生育調査 (10株平均)

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1果房 の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら64	定植時	50.8	8.9	5.8	-	28.2	7.0
	収穫開始時	201.8	28.4	-	7.1	44.7	16.5
ひなた	定植時	50.2	8.5	5.3	-	29.9	7.0
	収穫開始時	209.9	28.4	-	7.4	40.8	19.6
桃太郎ネクスト	定植時	57.5	8.1	5.6	-	29.1	6.0
	収穫開始時	229.7	26.9	-	8.5	49.3	17.5
りんか409	定植時	53.2	8.5	5.5	-	29.3	6.2
	収穫開始時	198.8	26.6	-	7.5	49.7	13.6
麗月	定植時	51.1	8.2	6.1	-	25.5	8.3
	収穫開始時	226.2	26.9	-	8.4	51.8	13.1

表2 収量調査 (10株平均)

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら64	293	56,879	62	8,831	355	65,710
ひなた	296	59,955	48	6,470	344	66,425
桃太郎ネクスト	291	57,746	82	13,730	373	71,476
りんか409	229	44,309	96	14,811	325	59,120
麗月	332	58,224	55	7,296	387	65,520

表2つづき

品種名	1株換算 収量 (g)	平均1果 重(g)	上物率 (%)	1棟換算 収量 (t)	10a換算 収量(t)	10a換算 上物収量 (t)
みそら64	13,142	185.1	86.6	2.1	12.6	10.9
ひなた	13,285	193.1	90.3	2.1	12.8	11.5
桃太郎ネクスト	14,295	191.6	80.8	2.3	13.7	11.1
りんか409	11,824	181.9	74.9	1.9	11.4	8.5
麗月	13,104	169.3	88.9	2.1	12.6	11.2

※上物：A+B品、下物：C+D+外品の合計。

※1株換算収量=合計収量/10株。平均1果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1棟(165㎡)換算収量=1株換算収量×定植株数(320株)。10a換算収量=1棟換算収量/165㎡×1,000㎡。

10a換算上物数量=10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表3 糖度調査 (Brix%) (7月27日)

品種名	糖度 (Brix%)
みそら64	4.9
ひなた	5.3
桃太郎ネクスト	5.2
りんか409	5.8
麗月	5.2

※5果当たりの平均値。

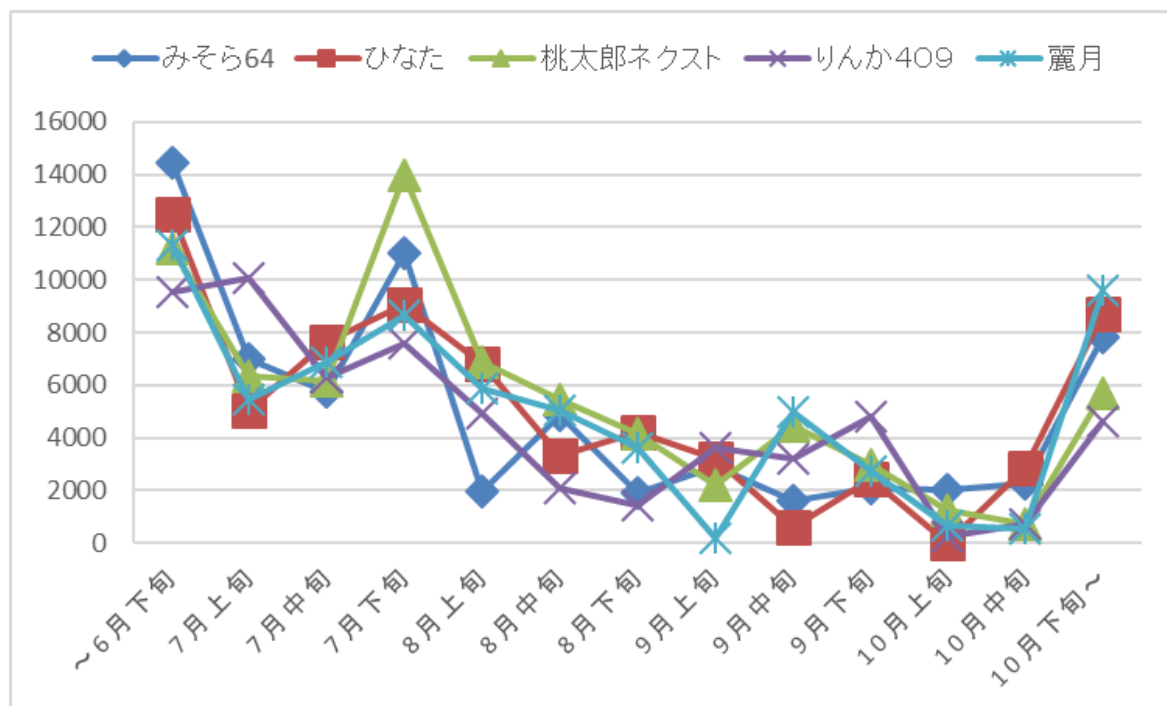


図1 旬別収量 (g) (10株当たり)



図2 月別収量 (g) (10株当たり)

施設野菜の部 No.5

項目：品種比較調査

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

1 目的 トマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室5号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和4年6月2日（72穴トレイ）
 - 3) 定植月日 令和4年6月21日
（前作の栽培中にその株間に定植）
 - 4) 育苗日数 19日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅120cm、株間40cm、2条植え
 - 6) 定植株数 320株/棟
 - 7) 施肥量 N-P-K=0.24-0.33-0.40kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.5kg
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：0.4kg
 - 8) 使用資材 あったかマルチ
 - 9) 収穫期間 令和4年8月31日～11月21日
 - 10) 保温 内カーテン：10月12日～11月21日
 - 11) 加温 温風暖房機（8℃設定）：11月15日～11月21日
 - 12) 薬剤散布 8回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
 - 13) 摘心 令和4年9月21日（6段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 5区（1区10株、1区制）
 - 2) 供試品種
<1> みそら64 (みかど協和(株))
<2> ひなた (みかど協和(株))
<3> 桃太郎ネクスト (タキイ種苗(株))
<4> りんか409 (株サカタのタネ)
<5> 麗月 (株サカタのタネ)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
収穫開始時の生育調査では、「麗月」で草丈が最も高くなり、「ひなた」で最も低くなった。
病虫害では、生育中期に灰色かび病及び葉かび病による被害が散見された他、ネコブセンチュウによる被害により、草勢の低下につながった。
 - 2) 収量
10a 換算収量は「ひなた」で最も多かった。また月別収量で最も多かったのは、9月では「ひなた」、10月では「りんか409」、11月は「ひなた」であった。
 - 3) 品質
平均1果重は「ひなた」で最も大きく、「桃太郎ネクスト」で最も小さかった。上物率は「麗月」で高く、「りんか409」で低かった。10a 換算上物収量は「ひなた」で最も高かった。
糖度は、「りんか409」で最も高く、「桃太郎ネクスト」で最も低かった。
- (2) 次年度以降の計画
継続

表 1 生育調査（収穫開始、10 株平均）

品種名	草丈 (cm)	葉数 (枚)	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
みそら64	225.8	25.0	9.0	43.5	9.5
ひなた	197.7	23.4	8.4	45.0	10.1
桃太郎ネクスト	216.3	20.7	10.4	45.4	6.3
りんか409	228.7	23.3	9.8	45.0	9.1
麗月	230.4	22.5	10.2	43.4	7.7

表 2 収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら64	76	11,923	28	3,214	104	15,137
ひなた	103	17,515	38	5,182	141	22,697
桃太郎ネクスト	36	4,229	16	1,513	52	5,742
りんか409	70	11,037	54	7,089	124	18,126
麗月	98	15,196	36	3,344	134	18,540

表 2 つづき

品種名	1株換算 収量 (g)	平均1果 重(g)	上物率 (%)	1棟換算 収量 (t)	10a換算 収量(t)	10a換算 上物収量 (t)
みそら64	3,027	145.5	78.8	0.5	2.9	2.3
ひなた	4,539	161.0	77.2	0.7	4.4	3.4
桃太郎ネクスト	1,148	110.4	73.7	0.2	1.1	0.8
りんか409	3,625	146.2	60.9	0.6	3.5	2.1
麗月	3,708	138.4	82.0	0.6	3.6	2.9

※上物：A+B品、下物：C+D+外品の合計。

※1株換算収量＝合計収量/10株。平均1果重＝合計収量/合計果数。上物率＝上物収量/合計収量×100。

1棟（165㎡）換算収量＝1株換算収量×定植株数（320株）。10a換算収量＝1棟換算収量/165㎡×1,000㎡。

10a換算上物数量＝10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3 糖度調査（Brix %、5 果平均、11 月 14 日）

品種名	糖度 (Brix%)
みそら64	5.8
ひなた	6.0
桃太郎ネクスト	5.7
りんか409	6.1
麗月	5.9

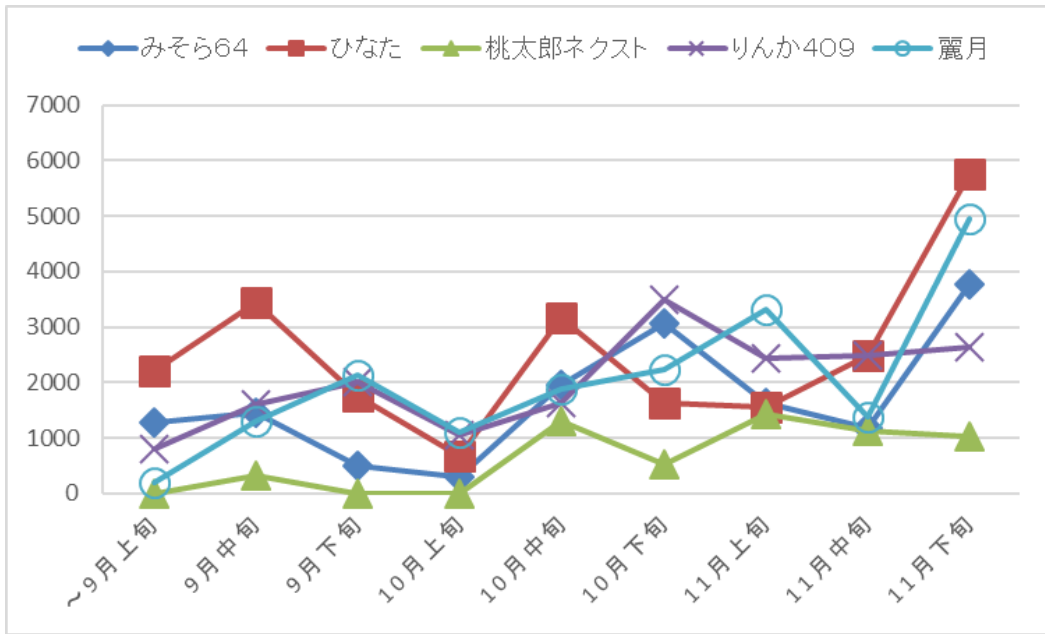


図1 旬別収量 (g) (10株当たり)

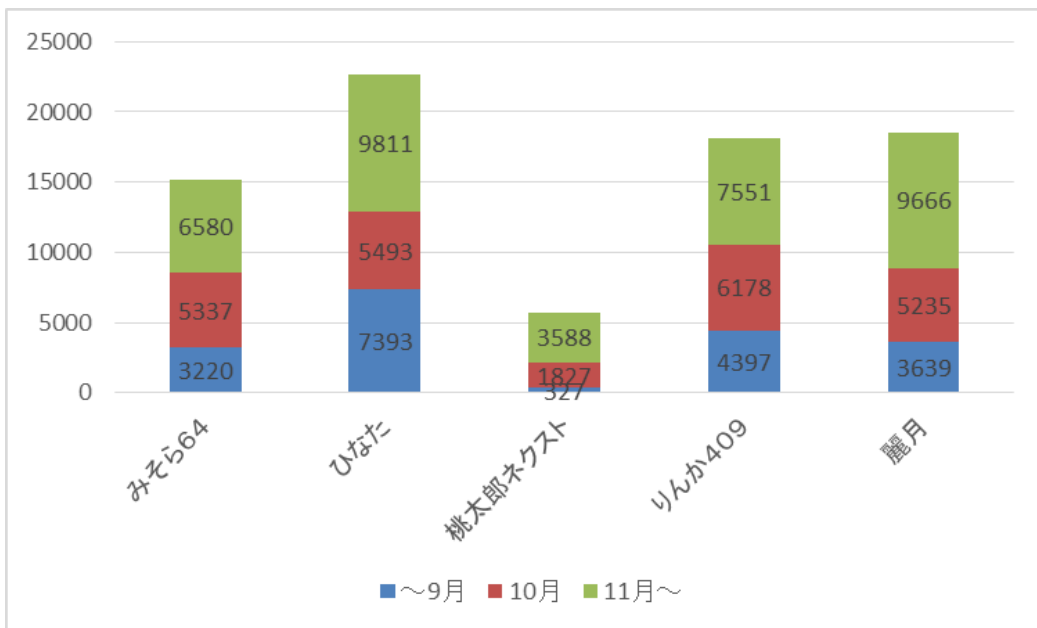


図2 月別収量 (g) (10株当たり)

施設野菜の部 No.6

項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

1 目的 ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス2号（132 m²：約40坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和3年12月27日（144穴トレイ）
 - 3) 移植月日 令和4年1月21日（12cmポット）
 - 4) 定植月日 令和4年2月21日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
 - 6) 育苗日数 56日
 - 7) 定植株数 228株/棟
 - 8) 施肥量 N-P-K=1.29-1.21-2.25
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：3.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：6.1kg/a
 - 9) 使用資材 ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あつたかマルチ、白黒ダブルマルチ
 - 10) 収穫期間 令和4年5月9日～7月29日
 - 11) 保温 内カーテン：令和4年2月21日～令和4年5月16日
 - 12) 加温 温風暖房機（12℃設定）：令和4年2月21日～令和4年5月12日
 - 13) 薬剤散布 5回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
 - 14) 摘心 令和4年5月31日（8段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 5区（1区5株、1区制）
 - 2) 供試品種
<1> キャロル10 (株サカタのタネ)
<2> キャロルスター (株サカタのタネ)
<3> キャロルムーン (株サカタのタネ)
<4> C7-276 (株サカタのタネ)
<5> サンチェリーピュア (トキタ種苗株)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
定植時の生育調査では、「キャロルスター」、「キャロル10」で草丈が高くなり、「サンチェリーピュア」で最も低くなった。
収穫開始時の生育調査では、「キャロル10」で草丈が最も高くなり、「キャロルムーン」で最も低くなった。また、最も節間が短かったのは「キャロルムーン」であった。
病害虫については、生育後半に葉かび病の発生が認められた。
 - 2) 収量
10a換算収量は「サンチェリーピュア」で最も多かった。また月別収量で最も多かったのは、5、6月では「サンチェリーピュア」、7月では「キャロルムーン」であった。
 - 品質
 - 3) 平均1果重は「キャロルムーン」で最も大きくなり、「キャロル10」で最も小さかった。上物率は「C7-276」で最も高く、「キャロルムーン」で最も低かった。10a換算上物収量は「サンチェリーピュア」で最も高かった。
糖度は、「C7-276」で高かった。
- (2) 次年度以降の計画

継続

表1 生育調査 (5株平均)

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1果房 の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル10	定植時	41.1	10.4	7.2	-	23.8	6.2
	収穫開始時	233.4	24.2	-	9.6	34.0	12.9
キャロルスター	定植時	41.4	10.4	7.2	-	23.8	6.2
	収穫開始時	209.0	27.8	-	7.5	33.2	11.2
キャロルムーン	定植時	37.8	10.8	6.8	-	23.8	7.0
	収穫開始時	185.4	25.2	-	7.4	38.0	12.2
C7-276	定植時	37.6	10.4	7.4	-	23.2	6.8
	収穫開始時	189.8	25.4	-	7.5	27.8	12.2
サンチェリー	定植時	34.6	11.2	7.0	-	22.4	5.9
ピュア	収穫開始時	200.0	25.8	-	7.8	31.4	12.5

表2 収量調査 (5株当たり)

品種名	2L(21g以上)		L(15~21g未満)		M(11~15g未満)		S(7~11g未満)		2S(5~7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	7	146	102	1,669	359	4,553	727	6,392	338	2,083
キャロルスター	9	207	184	3,179	609	7,855	320	2,974	33	198
キャロルムーン	256	6,133	373	6,520	165	2,128	59	378	12	68
C7-276	15	337	241	4,110	501	6,614	183	1,749	20	130
サンチェリーピュア	24	543	356	6,034	587	7,603	266	2,473	29	177

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計(上+下)		1株換算 収量 (g)	平均1 果重 (g)	上物率 (%)	LM率 (%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,533	14,843	111	625	1,644	15,468	3,094	9.4	96.0	41.9
キャロルスター	1,155	14,413	96	1,019	1,251	15,432	3,086	12.3	93.4	76.6
キャロルムーン	865	15,227	73	1,379	938	16,606	3,321	17.7	91.7	56.8
C7-276	960	12,940	38	439	998	13,379	2,676	13.4	96.7	82.9
サンチェリーピュア	1,262	16,830	96	1,340	1,358	18,170	3,634	13.4	92.6	81.0

表2つづき

品種名	1棟換算 収量 (kg)	10a換算 収量 (t)	10a換算 上物収量 (t)
キャロル10	705	5.3	5.1
キャロルスター	704	5.3	5.0
キャロルムーン	757	5.7	5.3
C7-276	610	4.6	4.5
サンチェリーピュア	829	6.3	5.8

※上物：A品、下物：B品+外品。

※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。

上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。

1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1,000㎡

10a換算上物数量=10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表3 糖度調査 (Brix%、5果平均) (6月10日)

品種名	糖度
キャロル10	7.4
キャロルスター	-
キャロルムーン	7.6
C7-276	7.8
サンチェリーピュア	6.7

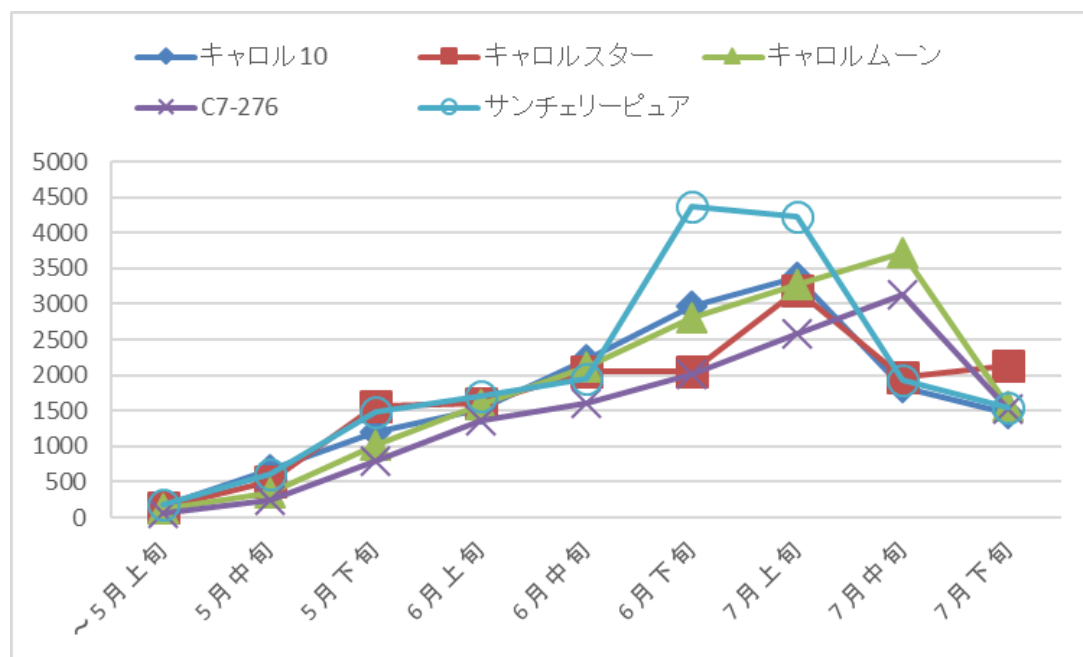


図1 旬別収量 (g) (5果当たり)

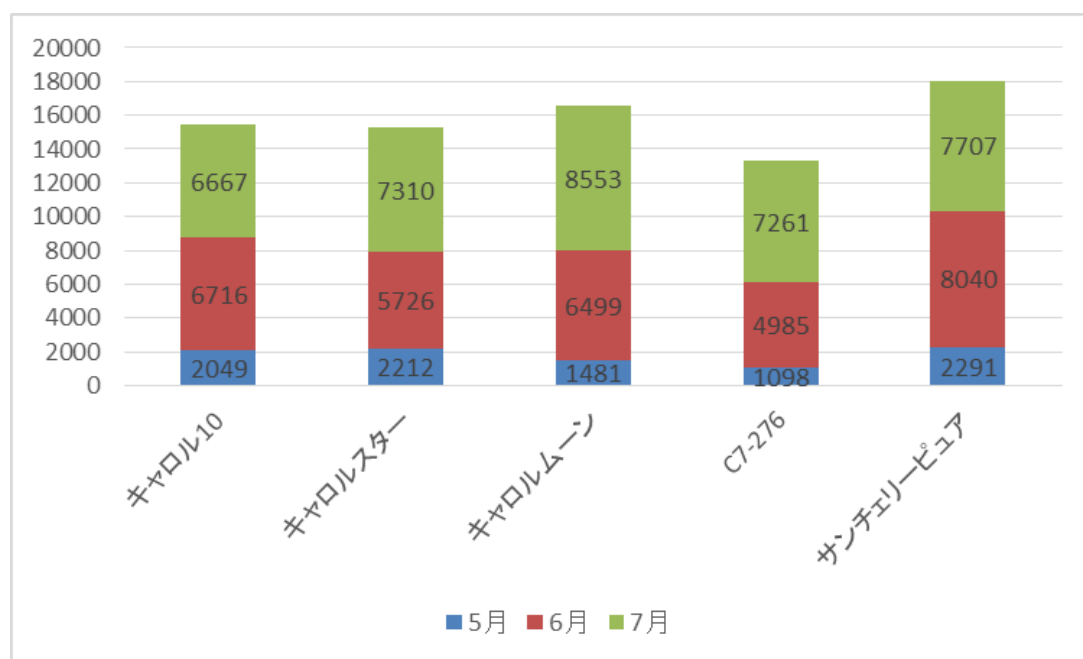


図2 月別収量 (g) (5株当たり)

施設野菜の部 No.7

項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

1 目的 ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス1号（132 m²：約40坪）
- (2) 耕種概要
- | | |
|----------|---|
| 1) 栽培方法 | 養液土耕栽培 |
| 2) は種月日 | 令和4年2月28日（144穴トレイ） |
| 3) 移植月日 | 令和4年3月17日（12cmポット） |
| 4) 定植月日 | 令和4年4月12日 |
| 5) 栽植距離 | ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え |
| 6) 育苗日数 | 43日 |
| 7) 定植株数 | 228株/棟 |
| 8) 施肥量 | N-P-K=2.36-1.56-4.20
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：15.5kg/a |
| 9) 使用資材 | ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ |
| 10) 収穫期間 | 令和4年6月13日～11月28日 |
| 11) 保温 | 内カーテン：令和4年4月12日～令和4年5月16日、10月12日～11月28日 |
| 12) 加温 | 温風暖房機（12℃設定）：令和4年4月12日～令和4年5月12日 |
| 13) 薬剤散布 | 11回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。 |
| 14) 摘心 | 令和4年9月21日（20段程度） |
- (3) 調査区の構成
- | | |
|---------|--|
| 1) 調査区 | 8区（1区5株、1区制） |
| 2) 供試品種 | <1> キャロル10 (株サカタのタネ)
<2> キャロルスター (株サカタのタネ)
<3> キャロルムーン (株サカタのタネ)
<4> C7-276 (株サカタのタネ)
<5> サンチェリーピュア (トキタ種苗株)
<6> サマー千果 (タキイ種苗株)
<7> アイラ (株武蔵野種苗園)
<8> T833 (みかど協和株) |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
定植時の生育調査では、「サンチェリーピュア」、「C7-276」で草丈が高くなり、「キャロル10」で最も低くなった。
収穫開始時の生育調査では、「キャロル10」で草丈が最も高くなり、「T833」で最も低くなった。また、最も節間が短かったのは「サンチェリーピュア」であった。病害虫については、葉かび病及び品種によって斑点病の発生が見られた。
- 2) 収量
10a 換算収量は「サンチェリーピュア」で最も多かった。また月別収量で最も多かったのは、6、7月では「キャロル10」、8月では「サマー千果」、9月では「サンチェリーピュア」、10月以降では「T833」であった。
- 3) 品質
平均1果重は「サマー千果」で最も大きくなり、「キャロル10」で最も小さくなった。

上物率は「キャロルスター」「C7-276」で最も高くなり、「キャロルムーン」で最も低くなった。10a 換算上物収量は「サンチェリーピュア」で最も高くなった。
糖度は、「キャロルスター」で高い結果となった。

- (2) 次年度以降の計画
継続

表 1 生育調査 (5 株平均)

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第 1 果房 の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル 10	定植時	49.8	8.8	-	-	24.6	6.2
	収穫開始時	208.4	26.6	-	7.8	39.6	14.6
キャロルスター	定植時	51.6	8.2	-	-	25.6	5.5
	収穫開始時	190.6	27.0	-	7.1	34.2	-
キャロルムーン	定植時	51.4	7.8	-	-	23.2	6.4
	収穫開始時	185.0	23.6	-	7.8	23.6	-
C7-276	定植時	56.0	8.2	-	-	25.2	6.5
	収穫開始時	191.4	26.2	-	7.3	34.6	-
サンチェリーピ ュア	定植時	58.4	9.0	-	-	24.2	6.0
	収穫開始時	191.0	27.6	-	6.9	35.4	11.9
サマー千果	定植時	51.8	8.0	-	-	27.4	6.2
	収穫開始時	170.0	24.0	-	7.1	33.2	-
アイラ	定植時	52.8	8.8	-	-	23.6	6.3
	収穫開始時	172.6	23.4	-	7.4	38.4	12.2
T833	定植時	52.0	8.2	-	-	25.3	6.5
	収穫開始時	163.0	23.4	-	7.0	42.4	-

表2 収量調査 (5株当たり)

品種名	2L(21g以上)		L(15~21g未満)		M(11~15g未満)		S(7~11g未満)		2S(5~7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	32	735	224	3,983	439	5,384	671	5,885	237	1,430
キャロルスター	26	587	361	6,245	491	6,587	181	1,737	33	197
キャロルムーン	156	3,792	369	6,573	254	3,336	169	1,648	30	174
C7-276	54	1,043	269	4,449	439	5,494	371	3,449	63	389
サンチェリーピュア	143	3,255	465	8,067	507	6,574	217	2,079	25	146
サマー千果	153	3,486	538	9,358	361	4,849	69	627	10	58
アイラ	114	2,710	316	5,596	304	3,838	173	1,651	27	163
T833	17	382	276	4,683	560	7,042	513	4,871	78	480

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計(上+下)		1株換算 収量 (g)	平均1 果重 (g)	上物率 (%)	LM率 (%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,603	17,417	82	706	1,685	18,123	3,625	10.8	96.1	53.8
キャロルスター	1,092	15,353	54	535	1,146	15,888	3,178	13.9	96.6	83.6
キャロルムーン	978	15,523	85	1,284	1,063	16,807	3,361	15.8	92.4	63.8
C7-276	1,196	14,824	36	515	1,232	15,339	3,068	12.5	96.6	67.1
サンチェリーピュア	1,357	20,121	92	1,096	1,449	21,217	4,243	14.6	94.8	72.8
サマー千果	1,131	18,378	85	1,284	1,216	19,662	3,932	16.2	93.5	77.3
アイラ	934	13,958	66	1,132	1,000	15,090	3,018	15.1	92.5	67.6
T833	1,444	17,458	92	1,096	1,536	18,554	3,711	12.1	94.1	67.2

表2つづき

品種名	1株換算	10a換算	10a換算
	収量 (kg)	収量 (t)	上物収量 (t)
キャロル10	826	6.3	6.0
キャロルスター	724	5.5	5.3
キャロルムーン	766	5.8	5.4
C7-276	699	5.3	5.1
サンチェリーピュア	967	7.3	7.0
サマー千果	897	6.8	6.3
アイラ	688	5.2	4.8
T833	846	6.4	6.0

※上物：A品、下物：B品+外品。

※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。

上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。

1株換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1株換算収量/132㎡×1,000㎡

10a換算上物数量=10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表3 糖度調査 (Brix%、5果平均) (7月25日)

品種名	糖度
キャロル10	6.9
キャロルスター	7.7
キャロルムーン	-
C7-276	7.1
サンチェリーピュア	6.1
サマー千果	7.3
アイラ	6.3
T833	7.0

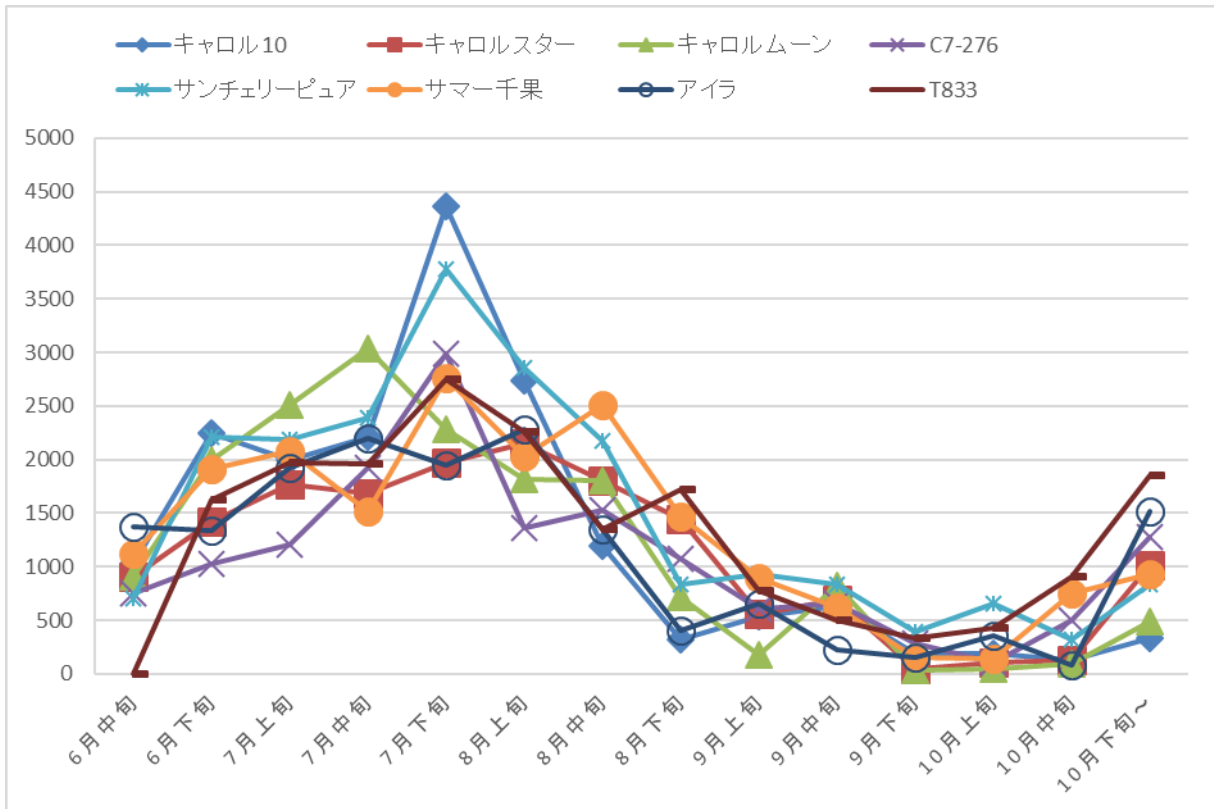


図1 旬別収量 (g) (5株当たり)

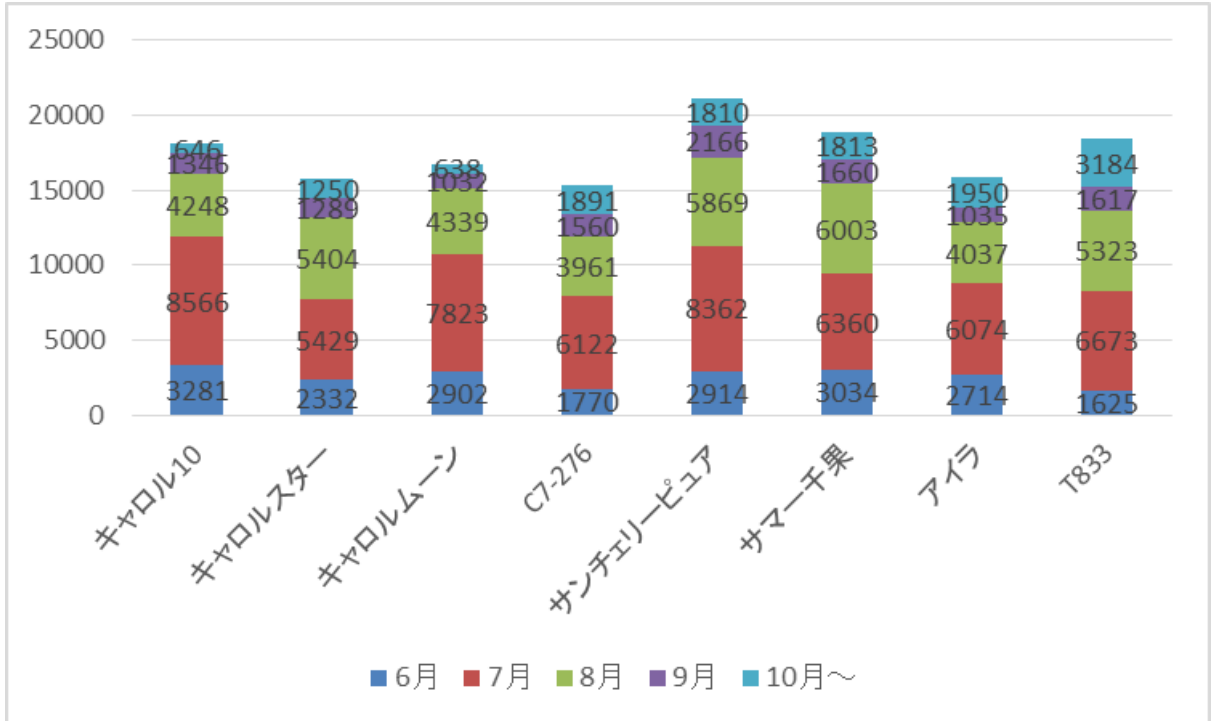


図2 月別収量 (g) (5株当たり)

施設野菜の部 No.8

項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（新規：令和4年度～令和6年度）

1 目的 ミニトマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス2号（132㎡：約40坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和4年6月2日（72穴トレイ）
 - 3) 定植月日 令和4年6月21日
（前作の栽培中にその株間に定植）
 - 4) 育苗日数 19日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
 - 6) 定植株数 228株/棟
 - 7) 施肥量 N-P-K=0.30-0.38-0.52kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、～収穫開始）：0.8kg/a
 - 8) 使用資材 あったかマルチ
 - 9) 収穫期間 令和4年8月31日～12月2日
 - 10) 保温 内カーテン：10月12日～12月2日
 - 11) 加温 温風暖房機（8℃設定）：11月15日～12月2日
 - 12) 薬剤散布 7回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
 - 13) 摘心 令和4年9月21日（6段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 6区（1区5株、1区制）
 - 2) 供試品種
<1> キャロル10 (株サカタのタネ)
<2> キャロルスター (株サカタのタネ)
<3> キャロルムーン (株サカタのタネ)
<4> C7-276 (株サカタのタネ)
<5> サンチェリーピュア (トキタ種苗株)
<6> T833 (みかど協和株)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
収穫時の生育調査では、草丈は「C7-276」が最も高く、「キャロルスター」で最も低かった。茎径では「C7-276」が最も太く、「T833」で最も細かった。また、節間が最も短かったのは「キャロルスター」であった。
病害虫については、生育期中期から後期にかけて、葉かび病および斑点病が多発したため生育や収量に大きく影響を及ぼした。
 - 2) 収量
10a 換算収量は「サンチェリーピュア」で最も多かった。また月別収量で最も多かったのは、9月では「サンチェリーピュア」、10月では「キャロルムーン」、11月では「キャロルムーン」と「C7-276」が高かった。
 - 3) 品質
平均1果重は「キャロルムーン」で最も大きく、「キャロル10」で最も小さかった。上物率は「C7-276」で最も高く、「キャロルスター」で最も低かった。10a 換算上物収量は「サンチェリーピュア」で最も高かった。
糖度は「キャロル10」で最も高く、「サンチェリーピュア」で最も低かった。

(2) 次年度以降の計画
継続

表1 生育調査（収穫開始時、5株平均）

	草丈 (cm)	葉数 (枚)	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル10	243.2	27.6	8.8	36.6	7.6
キャロルスター	203.2	25.4	8.0	34.6	6.6
キャロルムーン	248.8	28.2	8.8	38.8	7.6
C7-276	277.0	31.4	8.8	40.2	9.3
サンチェリーピュア	260.4	31.8	8.2	42.2	8.1
T833	206.2	24.6	8.4	36.2	6.0

表2 収量調査（5株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15~21g未満)		M(11~15g未満)		S(7~11g未満)		2S(5~7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
キャロル10	0	0	14	215	20	229	220	1,851	92	542
キャロルスター	0	0	6	95	27	312	107	935	53	311
キャロルムーン	35	752	225	3,917	136	1,813	45	421	5	29
C7-276	5	107	115	1,943	229	2,926	192	1,806	16	97
サンチェリーピュア	5	107	109	1,856	289	3,685	147	1,359	22	128
T833	0	0	28	460	90	1,130	88	795	13	76

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計(上+下)		1株換算 収量 (g)	平均1 果重 (g)	上物率 (%)	LM率 (%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
キャロル10	346	2,837	51	233	397	3,070	614	7.7	92.4	15.7
キャロルスター	193	1,653	44	285	237	1,938	388	8.2	85.3	24.6
キャロルムーン	446	6,932	11	130	457	7,062	1,412	15.5	98.2	82.7
C7-276	557	6,879	11	121	568	7,000	1,400	12.3	98.3	70.8
サンチェリーピュア	572	7,135	12	141	584	7,276	1,455	12.5	98.1	77.7
T833	219	2,461	12	141	231	2,602	520	11.3	94.6	64.6

表2つづき

品種名	1棟換算	10a換算	10a換算
	収量 (kg)	収量 (t)	上物収量 (t)
キャロル10	140	1.1	1.0
キャロルスター	88	0.7	0.6
キャロルムーン	322	2.4	2.4
C7-276	319	2.4	2.4
サンチェリーピュア	332	2.5	2.5
T833	119	0.9	0.9

※上物：A品、下物：B品+外品。

※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。

上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。

1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1,000㎡

10a換算上物数量=10a換算数量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表3 糖度調査 (Brix %、5果平均) (11月18日)

品種名	糖度
キャロル10	8.4
キャロルスター	8.2
キャロルムーン	7.5
C7-276	8.3
サンチェリーピュア	6.6
T833	7.5

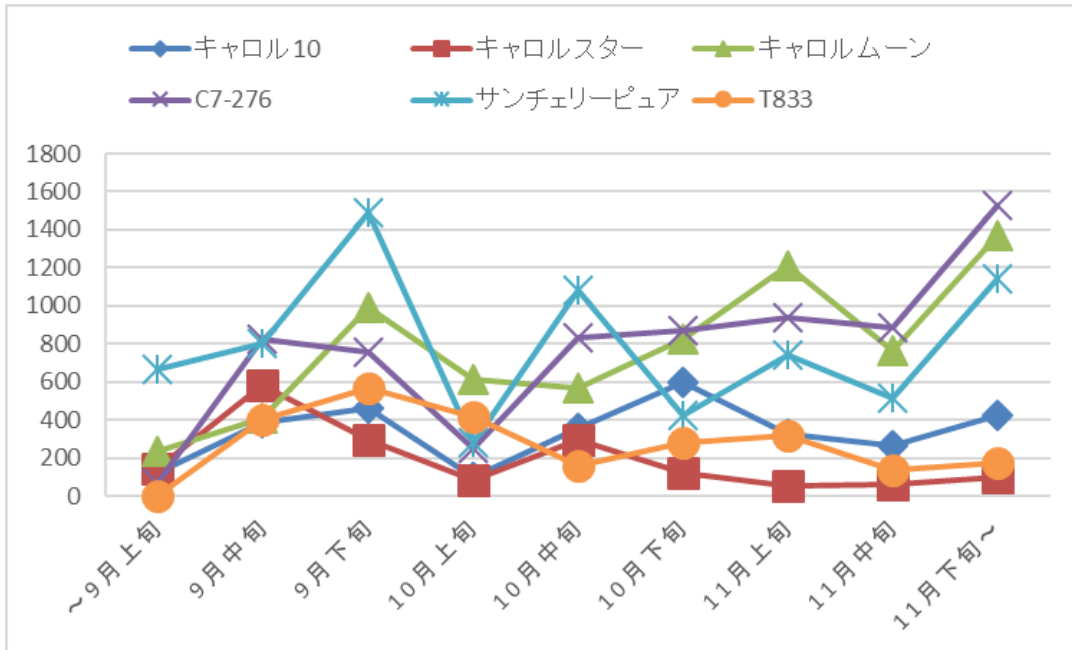


図1 旬別収量 (g) (5株当たり)

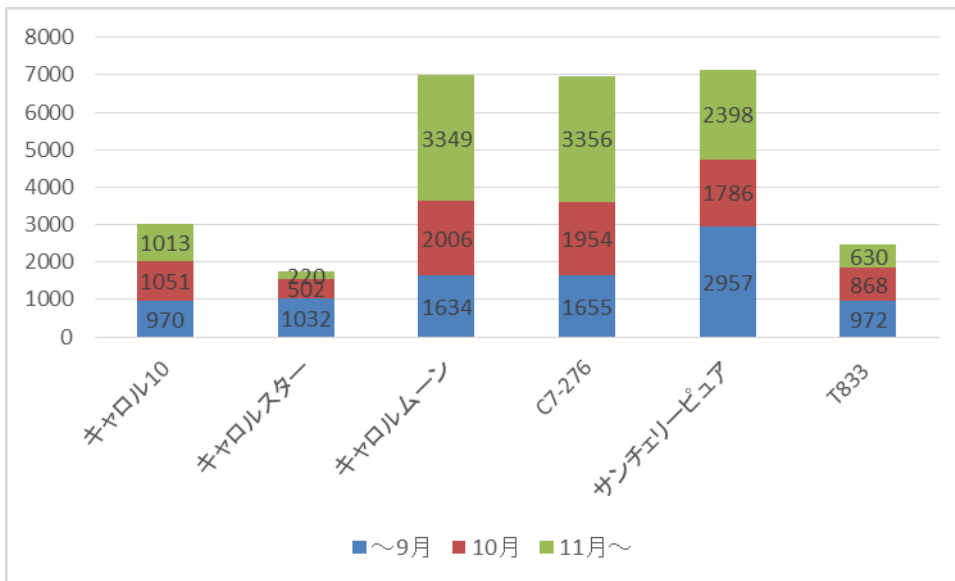


図2 月別収量 (g) (5株当たり)

2-3 調査成績（露地野菜）

露地野菜の部 No.1

項目：品種比較調査

調査名：ねぎの品種比較調査（継続：令和2年度～令和4年度）

1 目的 当地域におけるねぎの作型別適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場
- (2) 耕種概要
 1) 育苗方法 チェーンポット CP-303 (264 穴) 2 粒播き
 2) は種及び定植月日 〈は種〉 〈定植〉
 7 月収穫：令和4年1月6日 令和4年3月30日
 9 月収穫：令和4年3月31日 令和4年5月13日
 10 月収穫：令和4年5月16日 令和4年6月14日
- 3) 栽植距離 うね幅 100 cm、株間 5 cm (2 粒播き)
- 4) 定植株数 40,000 本/10a
- 5) 施肥量 N-P-K=18.0-18.0-18.0 kg/10a
 【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
 【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×2 回
- 6) 使用資材 7 月収穫：パワーリン(P：30%)：60kg/10a
 アヅミン(Mg：3%)：40kg/10a
 リン酸カリウム溶液(リン酸濃度 1.15%)を定植 1 週間前及び定植当日に苗箱へ灌注：1L/箱
 9 月収穫及び 10 月収穫：
 パワーリン(P：30%)：120kg/10a
 アヅミン(Mg：3%)：40kg/10a
 過リン酸石灰(P：20.5%)：16.6kg/10a×2 回
- 7) 収穫月日 7 月収穫：令和4年7月27日
 9 月収穫：令和4年9月16日
 10 月収穫：令和4年10月31日
- 8) 薬剤散布 7 月収穫：23 回(成分回数)
 9 月収穫：41 回(成分回数)
 10 月収穫：38 回(成分回数)

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 23 区(1 区 40 本(1.0m)、1 区制)
- 2) 供試品種

7 月収穫	9 月収穫	10 月収穫	メーカー名
夏扇パワー	夏扇パワー	夏扇パワー	(株)サカタのタネ
夏秋白扇 5 号	夏秋白扇 5 号	夏秋白扇 5 号	吉田種苗(株)
みちのく 701 はやぶさ 7	みちのく 701 はやぶさ 7	みちのく 701 はやぶさ 7	(株)パセリー菜
MKS-N40 MKS-N43	秋の宝山 MKS-N40 MKS-N43	秋の宝山 MKS-N40 MKS-N43	ヴィルモラン みかど(株)
名月一文字	名月一文字	名月一文字	タキイ種苗(株)

- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

(1) 昨年度の結果

10a 換算販売箱数の点から、作型別に有望と考えられる品種は次のとおりであった。

7 月収穫・・・「はやぶさ 7」

9 月収穫・・・「MKS-N43」

10 月収穫・・・「夏扇パワー」

(2) 本年度の結果

1) 生育

(7月収穫：3/30 定植～7/27 収穫)

5月の雨不足による乾燥から一転して6月上旬以降は降雨が続き、培土が遅れ気味となった。

病害はさび病が散見されたが、出荷に影響が生じるほどではなかった。

(9月収穫：5/13 定植～9/16 収穫)

6月上旬から9月上旬まで降雨が続き、積極的な培土に努めたが降雨で培土が沈んだことで白根長確保が遅れ気味となった。

病害は葉枯病が散見されたが、出荷に影響が生じるほどではなかった。

(10月収穫：6/14 定植～10/31 収穫)

6月上旬から9月上旬まで降雨が続き、積極的な培土に努めたが培土が遅れ気味となった。

病害はさび病が散見されたが、出荷に影響が生じるほどではなかった。

2) 収量

(7月収穫：3/30 定植～7/27 収穫)

調整重は「夏扇パワー」、「夏秋白扇5号」の順に大きく、また、10a 換算販売箱数は「みちのく701」、「夏秋白扇5号」の順に多い結果となった。

(9月収穫：5/13 定植～9/16 収穫)

調整重は「夏扇パワー」、「MKS-N43」の順に大きく、また、10a 換算販売箱数は「MKS-N43」、「みちのく701」の順に多い結果となった。

(10月収穫：6/14 定植～10/31 収穫)

調整重は「夏扇パワー」、「みちのく701」の順に大きく、また、10a 換算販売箱数は「みちのく701」、「夏扇パワー」の順に多い結果となった。

3) 品質

(7月収穫：3/30 定植～7/27 収穫)

A品率は「MKS-N43」、「名月一文字」の順に高く、主な落等要因は裂皮及びさび病であった。

(9月収穫：5/13 定植～9/16 収穫)

A品率は「MKS-N40」、「夏扇パワー」が最も高く、主な落等要因は裂皮や白根長不足であった。

(10月収穫：6/14 定植～10/31 収穫)

A品率は「MKS-N40」、「MKS-N43」の順に高く、主な落等要因は裂皮やさび病であった。

全体を通して、伸長が緩やかな品種は調整重及び10a 換算販売箱数が少なくなる傾向がみられたが、これは6月上旬から9月上旬までの降雨に加え、日照不足となっていたことも影響したとみられた。「はやぶさ7」、「MKS-N40」、「MKS-N43」、「名月一文字」は、葉水の量が少なく、また、襟部の締まりが比較的良い傾向が見られた。

なお、強風等による葉折れは、本作では特にみられなかった。

以上より、今年度の調査で、10a 換算販売箱数の点から作型別に有望と考えられる品種は次のとおりであった。

7月収穫・・・「みちのく701」

9月収穫・・・「MKS-N43」

10月収穫・・・「みちのく701」

(3) 調査3箇年の結果

7月収穫では、伸長が旺盛な品種で比較的収量が優れる傾向にあったものの有望と考えられる品種を選ぶには年次間のばらつきがあり、判然としなかった。9月収穫では「MKS-N43」、10月収穫は「みちのく701」が、収量において安定しており有望と考えられた。

また、多雨少照の年は伸長が旺盛な品種がより収量において安定する傾向にあった。近年は極端な天候が増えつつある中、今後、天候不順の年でも安定した収量をより重視した品種比較を行う必要があると考えられる。

(4) 次年度以降の計画
完了

表 1 収量調査

収穫日	品種名	全長 (cm)	調整重 (g)	分枝点長 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L, L品 率(%)	A品 率(%)	10a換算収量 (kg/10a)		10a換算 販売 箱数	調査 本数
									うち外品			
7/27	夏扇パワー	99.0	154.2	42.3	29.7	19.0	83.5	69.5	4,780	44	902	31
	夏秋白扇5号	99.6	152.2	42.8	29.8	18.5	83.1	73.6	5,480	189	1,008	36
	みちのく701	99.1	150.3	41.2	29.0	18.5	66.6	50.7	5,863	309	1,058	39
	はやぶさ7	87.1	138.1	39.7	30.1	18.4	70.0	81.6	4,556	20	864	33
	MKS-N40	91.0	128.4	40.5	30.1	18.3	77.4	77.8	4,621	141	853	36
	MKS-N43	97.8	128.5	43.3	31.8	18.4	66.3	89.3	4,111	0	783	32
	名月一文字	88.7	116.3	39.6	31.4	17.9	79.3	82.5	3,839	148	703	33
9/16	夏扇パワー	98.8	182.7	41.6	30.1	22.4	98.0	69.3	5,115	0	974	28
	夏秋白扇5号	100.4	155.6	55.4	31.0	20.5	88.5	62.9	4,980	0	949	32
	みちのく701	100.3	145.3	44.9	30.4	19.5	76.3	57.6	5,520	74	1,037	38
	はやぶさ7	90.7	140.0	40.6	30.1	20.0	87.2	61.4	5,180	0	987	37
	秋の宝山	88.2	132.2	38.3	30.2	20.6	94.3	40.1	3,965	31	749	30
	MKS-N40	97.4	123.0	51.5	30.3	19.3	83.0	81.4	4,798	34	907	39
	MKS-N43	124.2	164.0	44.3	29.8	21.4	97.9	58.0	6,231	0	1,187	38
名月一文字	81.1	141.0	37.5	30.2	20.9	91.2	61.4	4,229	65	793	30	
10/31	夏扇パワー	93.9	196.8	40.9	31.1	23.2	95.2	70.5	6,102	0	1,162	31
	夏秋白扇5号	96.3	173.1	43.2	31.2	21.8	96.1	72.4	5,711	86	1,071	33
	みちのく701	99.2	178.0	44.6	32.3	21.7	93.5	78.2	6,229	0	1,186	35
	はやぶさ7	88.7	162.4	39.7	30.4	21.6	91.4	62.0	6,008	78	1,130	37
	秋の宝山	92.9	151.2	40.4	31.5	21.3	81.5	71.6	4,990	234	906	33
	MKS-N40	100.1	137.5	41.7	31.1	20.8	97.3	92.6	4,264	28	807	31
	MKS-N43	100.8	148.7	44.9	31.5	21.5	99.6	87.7	5,652	24	1,072	38
名月一文字	85.0	148.6	38.5	31.4	22.4	92.7	84.0	4,608	49	868	31	

※10a換算収量=調整後1本重×調査本数×1000。10a換算販売箱数は表3参照。

表 2 等級規格別収量割合

収穫日	品種名	A				B			外品
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/27	夏扇パワー	28.2	33.1	7.0	1.2	9.0	13.2	7.4	0.9
	夏秋白扇5号	23.0	46.8	3.8	0.0	0.0	13.3	9.6	3.5
	みちのく701	4.0	31.0	14.2	1.5	4.0	27.6	12.4	5.3
	はやぶさ7	0.0	56.6	23.6	1.4	0.0	13.4	4.6	0.4
	MKS-N40	7.9	52.8	15.2	1.9	4.6	12.1	2.4	3.1
	MKS-N43	0.0	63.3	24.3	1.7	0.0	3.0	7.7	0.0
	名月一文字	4.5	61.1	14.2	2.7	4.3	9.4	0.0	3.8
9/16	夏扇パワー	48.7	20.6	0.0	0.0	16.3	12.4	2.0	0.0
	夏秋白扇5号	46.3	15.4	0.0	1.2	4.2	22.6	10.3	0.0
	みちのく701	16.2	33.0	8.4	0.0	10.3	16.8	13.9	1.4
	はやぶさ7	17.2	41.2	2.0	1.0	6.4	22.4	9.8	0.0
	秋の宝山	17.5	22.6	0.0	0.0	30.4	23.8	4.9	0.8
	MKS-N40	16.9	57.3	7.2	0.0	0.0	8.8	9.1	0.7
	MKS-N43	31.7	26.3	0.0	0.0	14.2	25.7	2.1	0.0
名月一文字	28.7	32.7	0.0	0.0	20.6	9.2	7.3	1.5	
10/31	夏扇パワー	63.6	6.9	0.0	0.0	14.6	10.1	4.8	0.0
	夏秋白扇5号	52.3	20.1	0.0	0.0	10.1	13.6	2.4	1.5
	みちのく701	52.6	21.2	4.4	0.0	6.7	13.0	2.1	0.0
	はやぶさ7	47.6	12.8	1.6	0.0	21.7	9.3	5.6	1.4
	秋の宝山	34.5	23.3	13.8	0.0	23.7	0.0	0.0	4.7
	MKS-N40	38.7	53.9	4.7	0.0	0.0	0.0	2.0	0.7
	MKS-N43	55.5	32.2	0.0	0.0	0.0	11.9	0.0	0.4
名月一文字	62.6	21.4	0.0	0.0	6.4	2.3	6.2	1.1	

※重量ベースで積算。割合の計が100とならないのは四捨五入のため。

表 3 等級規格別 10a 換算出荷数量

収穫日	品種名	A				B			10a換算 販売箱数
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/26	夏扇パワー	256	301	64	11	83	120	67	902
	夏秋白扇5号	241	488	40	0	0	139	100	1,008
	みちのく701	45	346	159	17	44	308	139	1,058
	はやぶさ7	0	491	205	12	0	116	40	864
	MKS-N40	70	465	134	16	41	106	21	853
	MKS-N43	0	496	191	13	0	23	60	783
	名月一文字	33	447	103	20	32	68	0	703
9/17	夏扇パワー	475	200	0	0	158	121	20	974
	夏秋白扇5号	439	146	0	12	40	215	97	949
	みちのく701	171	347	88	0	109	176	146	1,037
	はやぶさ7	169	407	20	10	64	220	97	987
	秋の宝山	132	171	0	0	229	179	38	749
	MKS-N40	154	523	66	0	0	81	83	907
	MKS-N43	376	312	0	0	168	305	26	1,187
名月一文字	231	263	0	0	166	74	59	793	
10/29	夏扇パワー	739	80	0	0	170	117	56	1,162
	夏秋白扇5号	570	218	0	0	110	147	26	1,071
	みちのく701	624	251	53	0	79	154	25	1,186
	はやぶさ7	545	146	19	0	249	107	64	1,130
	秋の宝山	328	222	131	0	225	0	0	906
	MKS-N40	314	438	38	0	0	0	17	807
	MKS-N43	597	347	0	0	0	128	0	1,072
名月一文字	550	188	0	0	56	20	54	868	

※出荷箱数=10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

表 4 令和 2～3 年度の結果

○ 令和 2 年度収量調査

収穫日	品種名	全長 (cm)	調整重 (g)	分枝点長 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L, L品 率(%)	A品 率(%)	10a換算収量 (kg/10a)		調査 本数	
									うち外品	10a換算 販売 箱数		
7/22	夏扇パワー	100.4	159.1	41.2	27.9	19.6	90.9	82.9	5,569	0	1,061	35
	UE-113	99.0	127.9	39.9	27.9	19.2	78.4	60.7	4,347	77	813	34
	夏秋白扇5号	99.3	158.9	40.2	27.3	19.6	85.9	59.0	5,720	0	1,090	36
	みちのく701	97.8	154.1	40.4	28.8	19.1	87.4	81.7	5,238	90	981	34
	はやぶさ7	91.0	136.7	36.2	27.1	19.8	88.4	92.0	5,057	0	963	37
9/24	夏扇パワー	100.0	159.0	44.6	33.0	20.0	77.9	75.5	5,884	133	1,095	37
	夏秋白扇5号	98.5	159.0	46.7	34.3	20.5	84.3	60.7	5,883	0	1,121	37
	みちのく701	99.3	156.0	46.6	33.7	20.1	90.6	68.6	5,460	0	1,040	35
	No.エイト	92.0	150.1	40.1	32.4	22.1	93.9	78.4	5,253	0	1,001	35
	かがやき801	92.9	158.8	39.6	30.9	20.7	92.4	57.7	5,240	0	998	33
	夏の宝山	88.3	163.5	41.3	32.4	21.4	93.0	76.6	5,885	0	1,121	36
	秋の宝山	92.4	147.6	42.5	35.8	20.8	92.3	83.4	5,610	0	1,069	38
	森の奏で	90.7	155.1	43.5	41.4	20.2	90.1	75.0	5,894	318	1,062	38
名月一文字	90.1	161.7	42.8	33.6	21.0	87.8	90.6	5,983	0	1,140	37	
10/27	夏扇パワー	100.0	170.3	40.5	31.8	21.3	92.3	82.1	5,449	177	1,004	32
	夏秋白扇5号	99.4	165.0	42.0	31.2	21.9	89.7	89.1	5,115	0	974	31
	みちのく701	100.5	173.8	41.6	31.6	20.8	89.4	83.4	5,561	227	1,016	32
	No.エイト	92.8	151.5	38.8	31.7	22.1	98.6	92.9	5,304	75	996	35
	かがやき801	98.1	113.4	40.7	31.1	19.9	87.2	78.6	4,197	90	782	37
	夏の宝山	91.2	135.4	40.3	32.7	20.5	92.5	87.2	4,605	96	859	34
	秋の宝山	94.9	153.4	39.2	31.7	21.5	95.4	87.0	4,908	125	911	32
	森の奏で	91.7	147.6	38.0	30.9	21.4	92.7	85.6	4,723	78	885	32
名月一文字	89.3	147.9	36.6	30.8	21.9	96.2	92.8	4,881	186	894	33	

○ 令和 3 年度収量調査

収穫日	品種名	全長 (cm)	調整重 (g)	分枝点長 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L, L品 率(%)	A品 率(%)	10a換算収量 (kg/10a)		調査 本数	
									うち外品	10a換算 販売 箱数		
7/26	夏扇パワー	100.2	131.7	44.2	31.2	19.0	87.1	75.3	4,872	31	922	37
	夏秋白扇5号	102.4	144.2	46.3	33.7	20.0	87.1	89.5	5,334	0	1,016	37
	みちのく701	100.2	137.4	44.6	32.6	18.8	84.0	91.7	4,945	92	924	36
	はやぶさ7	93.9	159.2	41.2	30.3	20.7	90.3	87.8	6,050	0	1,152	38
9/17	夏扇パワー	102.1	138.1	46.4	35.3	20.3	86.9	90.0	5,384	0	1,026	39
	夏秋白扇5号	97.7	142.8	42.6	31.2	20.1	90.2	87.3	5,140	17	976	36
	みちのく701	100.8	132.0	45.1	33.8	19.6	93.0	87.1	5,148	0	981	39
	はやぶさ7	88.8	132.9	40.7	32.5	20.5	95.5	94.2	4,916	169	904	37
	夏の宝山	89.0	122.6	40.0	32.3	20.2	92.3	90.9	4,660	0	888	38
	秋の宝山	89.7	122.6	38.4	31.6	20.7	86.4	83.0	4,537	0	864	37
	MKS-N40	95.1	118.2	40.4	31.7	19.9	93.3	91.4	4,373	0	833	37
	MKS-N43	101.0	139.8	43.5	33.7	21.1	96.7	90.9	5,454	0	1,039	39
名月一文字	87.0	122.0	39.6	32.3	20.3	95.0	94.2	4,392	44	828	36	
10/29	夏扇パワー	101.7	189.9	43.6	34.7	21.8	74.6	85.2	6,076	93	1,140	32
	夏秋白扇5号	101.5	163.7	42.8	36.2	20.6	89.2	68.1	5,075	57	956	31
	みちのく701	100.5	159.6	45.0	37.6	20.6	86.7	74.3	5,746	62	1,083	36
	はやぶさ7	92.9	183.0	39.0	34.8	24.3	98.2	84.3	5,673	0	1,081	31
	夏の宝山	88.3	131.9	41.0	35.4	21.4	91.0	70.8	4,880	0	930	37
	秋の宝山	95.0	162.5	40.5	36.6	23.5	93.5	87.8	5,201	144	963	32
	MKS-N40	103.3	158.8	44.4	36.6	23.3	98.4	92.9	5,242	0	998	33
	MKS-N43	103.9	158.1	44.0	37.4	22.4	95.4	74.9	5,693	0	1,084	36
名月一文字	89.0	159.9	39.6	34.6	22.7	95.0	82.2	5,436	125	1,012	34	

※10a 換算収量=調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 3 参照。

○ 令和2年度等級規格別収量割合

収穫日	品種名	A				B			外品
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/22	夏扇パワー	2.6	75.3	5.0	0.0	0.0	12.9	4.2	0.0
	UE-113	0.0	43.9	16.8	0.0	11.0	23.5	3.0	1.8
	夏秋白扇5号	7.0	45.1	6.9	0.0	3.6	30.2	7.2	0.0
	みちのく701	39.1	37.0	4.1	1.5	0.0	11.3	5.3	1.7
	はやぶさ7	9.2	76.1	6.7	0.0	0.0	3.1	4.9	0.0
9/24	夏扇パワー	35.4	28.2	11.9	0.0	7.4	6.9	7.9	2.3
	夏秋白扇5号	26.6	28.2	5.9	0.0	13.0	16.5	9.8	0.0
	みちのく701	16.5	43.8	6.1	2.2	14.5	15.8	1.1	0.0
	No.エイト	45.6	26.7	6.1	0.0	14.3	7.3	0.0	0.0
	かがやき801	21.0	36.7	0.0	0.0	12.0	22.7	7.6	0.0
	夏の宝山	32.6	37.0	7.0	0.0	9.1	14.3	0.0	0.0
	秋の宝山	25.7	51.8	5.9	0.0	9.4	5.4	1.8	0.0
	森の奏で	43.0	27.5	4.5	0.0	9.1	10.5	0.0	5.4
名月一文字	50.7	29.9	10.0	0.0	0.0	7.2	2.2	0.0	
10/27	夏扇パワー	55.1	24.9	2.1	0.0	3.6	8.7	2.4	3.2
	夏秋白扇5号	64.8	22.2	2.1	0.0	0.0	2.7	8.2	0.0
	みちのく701	71.6	11.8	0.0	0.0	3.7	2.3	6.5	4.1
	No.エイト	71.9	21.0	0.0	0.0	0.0	5.7	0.0	1.4
	かがやき801	26.8	43.9	6.3	1.6	0.0	16.5	2.8	2.1
	夏の宝山	49.9	35.5	1.8	0.0	7.1	0.0	3.6	2.1
	秋の宝山	62.1	22.9	2.0	0.0	0.0	10.5	0.0	2.5
	森の奏で	60.4	21.0	2.1	2.1	3.8	7.5	1.4	1.7
名月一文字	69.0	23.8	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	3.8	

○ 令和3年度等級規格別収量割合

収穫日	品種名	A				B			外品
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/26	夏扇パワー	10.0	53.0	10.0	2.3	3.6	20.5	0.0	0.6
	夏秋白扇5号	12.2	66.3	10.9	0.0	3.1	5.5	2.0	0.0
	みちのく701	7.8	69.7	14.2	0.0	0.0	6.5	0.0	1.8
	はやぶさ7	36.2	45.3	6.3	0.0	2.7	6.1	3.4	0.0
9/17	夏扇パワー	28.6	53.8	7.5	0.0	0.0	4.5	5.6	0.0
	夏秋白扇5号	33.7	48.3	4.4	1.0	0.0	8.2	4.2	0.2
	みちのく701	3.1	78.8	5.2	0.0	3.6	7.5	1.8	0.0
	はやぶさ7	31.1	62.0	1.1	0.0	0.0	2.4	0.0	3.4
	夏の宝山	22.5	62.5	5.9	0.0	3.0	4.3	1.8	0.0
	秋の宝山	28.8	42.0	10.9	1.3	12.6	3.0	1.4	0.0
	MKS-N40	20.2	64.5	6.7	0.0	0.0	8.6	0.0	0.0
	MKS-N43	30.0	57.6	3.3	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
名月一文字	25.5	66.4	2.3	0.0	0.0	3.1	1.7	1.0	
10/29	夏扇パワー	73.6	7.7	3.9	0.0	10.2	3.1	0.0	1.5
	夏秋白扇5号	54.7	9.5	1.9	2.0	11.4	13.6	5.8	1.1
	みちのく701	51.2	19.0	4.1	0.0	6.1	10.5	8.0	1.1
	はやぶさ7	75.1	7.3	1.8	0.0	13.4	2.4	0.0	0.0
	夏の宝山	45.0	22.5	3.3	0.0	9.7	13.8	5.7	0.0
	秋の宝山	75.9	11.8	0.0	0.0	3.2	2.6	3.7	2.8
	MKS-N40	72.5	20.4	0.0	0.0	5.5	0.0	1.6	0.0
	MKS-N43	56.3	15.7	2.9	0.0	17.2	6.2	1.7	0.0
名月一文字	69.6	12.6	0.0	0.0	6.0	6.8	2.7	2.3	

※重量ベースで積算。割合の計が100とならないのは四捨五入のため。

○ 令和2年度等級規格別 10a 換算出荷数量

収穫日	品種名	A				B			10a換算 販売箱数
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/22	夏扇パワー	27	799	53	0	0	137	45	1,061
	UE-113	0	363	139	0	92	194	25	813
	夏秋白扇5号	76	492	75	0	39	329	79	1,090
	みちのく701	390	369	41	15	0	113	53	981
	はやぶさ7	89	733	64	0	0	30	47	963
9/24	夏扇パワー	397	316	133	0	83	78	88	1,095
	夏秋白扇5号	298	316	67	0	146	184	110	1,121
	みちのく701	172	455	64	23	150	164	12	1,040
	No.エイト	457	267	61	0	143	73	0	1,001
	かがやき801	210	366	0	0	120	226	76	998
	夏の宝山	365	415	78	0	102	161	0	1,121
	秋の宝山	275	553	63	0	101	58	19	1,069
	森の奏で	483	308	50	0	103	118	0	1,062
	名月一文字	578	341	114	0	0	82	25	1,140
10/27	夏扇パワー	572	258	22	0	37	90	25	1,004
	夏秋白扇5号	631	216	20	0	0	27	80	974
	みちのく701	758	125	0	0	39	25	69	1,016
	No.エイト	727	212	0	0	0	57	0	996
	かがやき801	214	351	50	13	0	132	22	782
	夏の宝山	438	312	15	0	63	0	31	859
	秋の宝山	581	213	19	0	0	98	0	911
	森の奏で	543	189	19	19	35	68	12	885
名月一文字	641	222	0	0	0	31	0	894	

○ 令和3年度等級規格別 10a 換算出荷数量

収穫日	品種名	A				B			10a換算 販売箱数
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/26	夏扇パワー	93	492	93	21	33	190	0	922
	夏秋白扇5号	124	674	111	0	32	55	20	1,016
	みちのく701	73	657	133	0	0	61	0	924
	はやぶさ7	417	522	72	0	31	70	40	1,152
9/17	夏扇パワー	294	552	77	0	0	46	57	1,026
	夏秋白扇5号	330	473	43	9	0	80	41	976
	みちのく701	31	772	51	0	36	73	18	981
	はやぶさ7	291	581	10	0	0	22	0	904
	夏の宝山	200	555	52	0	26	39	16	888
	秋の宝山	249	363	94	11	109	26	12	864
	MKS-N40	168	537	56	0	0	72	0	833
	MKS-N43	312	598	34	0	0	95	0	1,039
名月一文字	214	555	19	0	0	26	14	828	
10/29	夏扇パワー	851	89	46	0	118	36	0	1,140
	夏秋白扇5号	529	92	18	20	110	131	56	956
	みちのく701	560	208	45	1	67	115	88	1,083
	はやぶさ7	811	79	20	0	145	26	0	1,081
	夏の宝山	418	210	31	0	90	128	53	930
	秋の宝山	752	11	15	0	31	26	37	963
	MKS-N40	724	204	0	10	54	0	16	998
	MKS-N43	610	170	32	0	187	67	18	1,084
名月一文字	720	131	0	0	62	71	28	1,012	

※出荷箱数=10a換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の計と10a換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

露地野菜の部 No.2

項目：品種比較調査

調査名：ピーマンの品種比較調査（継続：令和2年度～令和4年度）

1 目的 当地域におけるピーマンの露地栽培に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 マルチ栽培
- 2) は種及び定植月日
- | | 〈は種〉 | 〈定植〉 |
|-----------------|------|--------------------------------------|
| ①4月定植：令和4年2月15日 | | 令和4年4月25日
(定植直後アイホッカ1枚
トンネル被覆) |
| ②5月定植：令和4年3月15日 | | 令和4年5月11日
(定植直後パスライト1枚
トンネル被覆) |
- 3) 育苗日数 ①69日 ②57日
- 4) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 50 cm
- 5) 定植株数 1,300 株/10a
- 6) 施肥量
- ①N - P - K=47.9-21.1-34.6 kg/10a
【基肥】新豊作太郎 800(18-10-10) : 166 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里 S646(16-4-16) : 22.5 kg/10a×5回
令和4年6月24日、7月11日、8月2日、8月22日、9月12日
- ②N - P - K=44.3-20.2-31.0 kg/10a
【基肥】新豊作太郎 800(18-10-10) : 166 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里 S646(16-4-16) : 22.5 kg/10a×4回
令和4年7月11日、8月2日、8月22日、9月12日
- 7) 使用資材 暖あったかマルチ、15 cm×5 目フラワーネット(3段)
- 8) 収穫期間 ①令和4年6月10日～10月27日
②令和4年6月22日～10月27日
- 9) 薬剤散布 41回(成分回数)
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 4区(1区5株、1区制)
- 2) 供試品種 <1>ピクシー (横浜植木株)
<2>P-2020 (株)パセリー菜
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果
10a 換算収量及び 10a 換算 A 品収量の点から 4 月定植で「ピクシー」、5 月定植で「P-2020」で優れた結果となった。
- (2) 本年度の結果
- 1) 生育
定植後は少雨乾燥傾向から生育前半は根張りが弱く草丈が低くなったが、高温が続き収穫開始は4月定植で6月10日、5月定植で6月22日となった。6月上旬以降は大
雨や日照不足が続き、落花や肥大遅れ、シワ果が発生し、収量は9月に一時回復した
ものの全体として少ない傾向となった。また、収穫初期及び終期に先尖果等が見られ
た。
病虫害は、収穫初期に灰色かび病、9月以降に斑点細菌病の被害が散見された。
- 2) 収量
可販 10a 換算収量は、4 月定植で「P-2020」、5 月定植で「ピクシー」が最も多かった。
可販月別収量は、4 月定植では「ピクシー」「P-2020」で7月が最も多く、5 月定植
では「ピクシー」で7月、「P-2020」で8月が最も多かった。可販旬別収量は、4 月定

植では7月下旬、8月下旬、9月下旬及び10月上旬でピークがみられたが、3回目のピークは「ピクシー」が「P-2020」よりも遅れており、昨年 に似た傾向となった。また、5月定植では7月下旬、8月下旬、9月下旬にピークが見られた。なお、「P-2020」では旬別の収穫量の変化が「ピクシー」に比べ緩やかに推移した。

3)

品質

可販A品率は、4月定植では「ピクシー」が高く、5月定植では「P-2020」がやや高かった。可販10a換算A品収量は、両作型とも「ピクシー」が多かった。なお、総数に占める外品の割合は「P-2020」が「ピクシー」に比べ多く、昨年と同様の傾向となった。

主な落等要因は、B品では外傷や先尖果が多く、また、外品ではシワ果が多かった。先尖果は特に7月と10月に多く、低温が影響したと思われる。また、シワ果は栽培後半で多かったが、「P-2020」では特に10月に増え可販収量低下の要因となった。

「ピクシー」で昨年多かったヘタ付近の突起は、育苗時の肥培管理を抑え気味とすることで軽減された。

以上より、今年度の調査では可販10a換算収量及び可販10a換算A品収量の点から4月定植、5月定植ともに「ピクシー」で優れた結果となった。

(3) 調査3箇年の結果

「ピクシー」は果形が安定しておりA品率が高い傾向であった。また、肥大は「P-2020」に比べやや遅い傾向が見られた。

「P-2020」は10a換算収量が「ピクシー」を上回ることが多かったが、特に栽培後半にシワ果の発生が多い傾向にあり、B品及び外品の割合が増える要因となった。また、脇芽の発生は「ピクシー」に比べやや強い傾向であった。

可販10a換算収量及び可販10a換算A品収量の点では、年次によって傾向が異なり、「ピクシー」「P-2020」の優劣は判然としなかったが、A品率の高さから「ピクシー」が優れていると考えられた。

(4) 次年度以降の計画

完了

表1 収量調査

作型	品種名	A品		B品		外品		総数				
		収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)
4月 定植	ピクシー	7,780	205	1,149	37	856	34	9,785	276	79.5	35.5	12.7
	P-2020	7,473	197	1,684	45	1,958	50	11,115	292	67.2	38.1	14.4
5月 定植	ピクシー	7,561	199	1,141	29	741	27	9,443	255	80.1	37.0	12.3
	P-2020	7,056	189	954	25	1,166	31	9,176	245	76.9	37.5	11.9

続き

作型	品種名	可販(A品+B品)					
		収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)	10a換算 A品収量 (t)
4月 定植	ピクシー	8,929	242	87.1	36.9	11.6	10.1
	P-2020	9,157	242	81.6	37.8	11.9	9.7
5月 定植	ピクシー	8,702	228	86.9	38.2	11.3	9.8
	P-2020	8,010	214	88.1	37.4	10.4	9.2

※調査区は連続5株調査した1株当たりの平均。

※総収量=A品収量+B品収量。総果数=A品果数+B品果数。A品率=A品収量/総収量。10a換算収量=総収量×1,300株/10a。

10a換算A品収量=10a換算収量×A品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 2 障害発生率（個数%）

作型	品種名	B品(個数%)							外品(個数%)							
		突起	先尖	曲	短形	外傷	大	他	突起	先尖	曲	短形	外傷	尻腐	シワ	他
4月定植	ピクシー	4.9	33.2	9.8	1.1	37.0	0.5	13.6	1.7	0.0	1.7	0.8	28.8	0.8	61.9	4.2
	P-2020	5.3	14.6	10.2	2.7	30.5	0.4	36.3	0.4	0.0	1.6	2.4	22.6	0.0	66.3	6.7
5月定植	ピクシー	6.8	25.9	17.7	2.0	25.2	0.0	22.4	3.6	0.0	2.2	1.5	19.0	1.5	65.7	6.6
	P-2020	5.6	16.8	18.4	6.4	24.8	0.0	28.0	3.2	0.0	0.6	1.9	26.6	0.0	63.0	4.5

※100%とならないのは四捨五入のため。

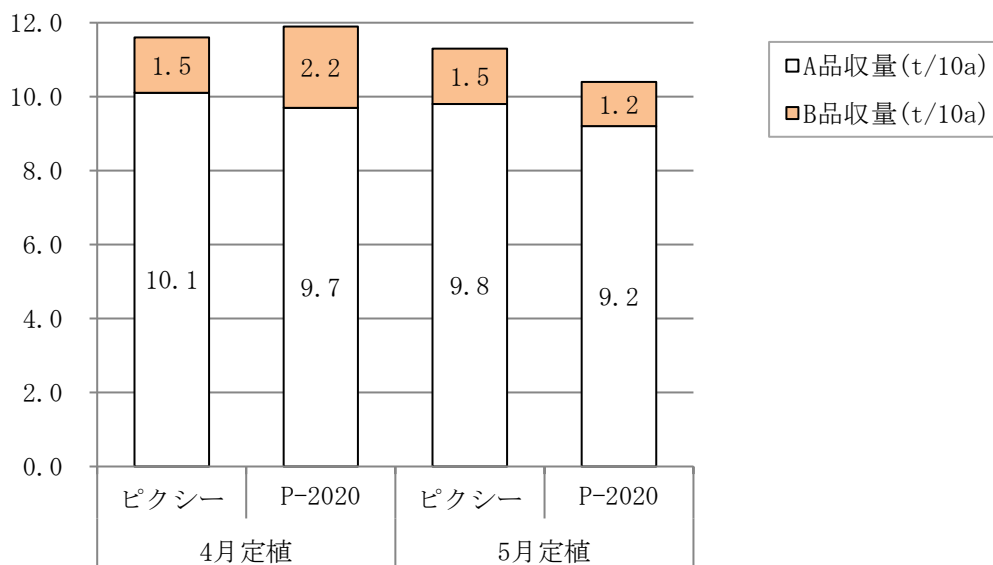


図 1 可販 10a 換算収量 (t/10a)

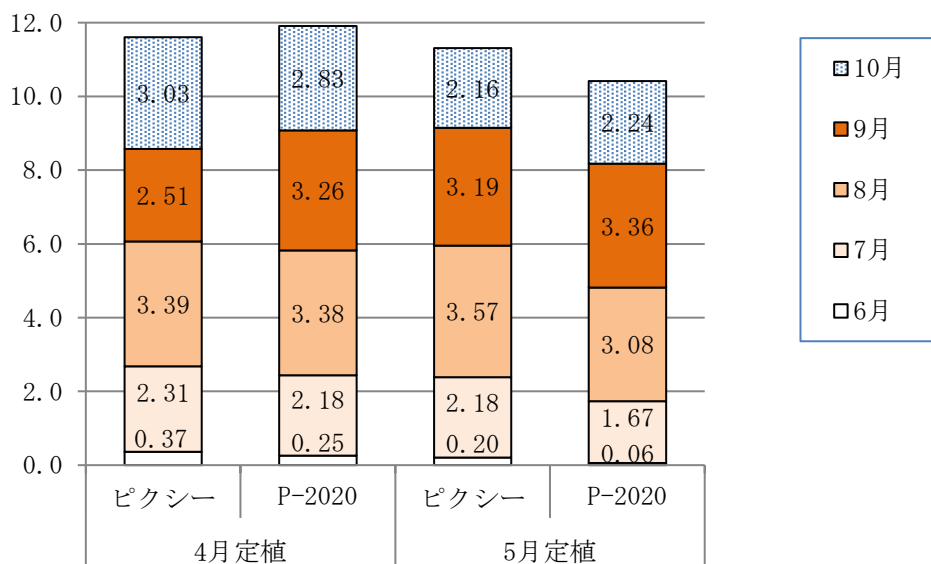


図 2 可販月別収量 (t/10a)

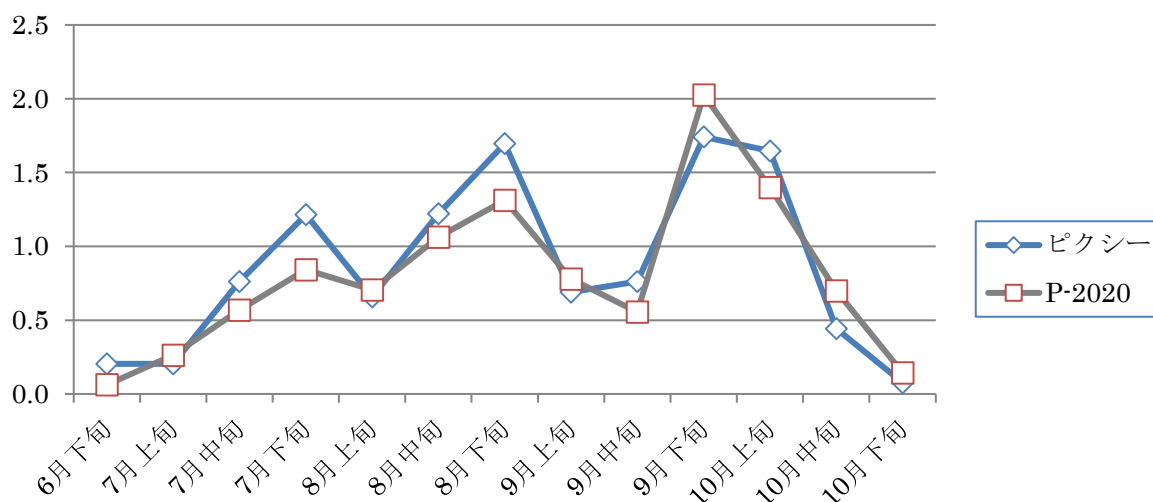
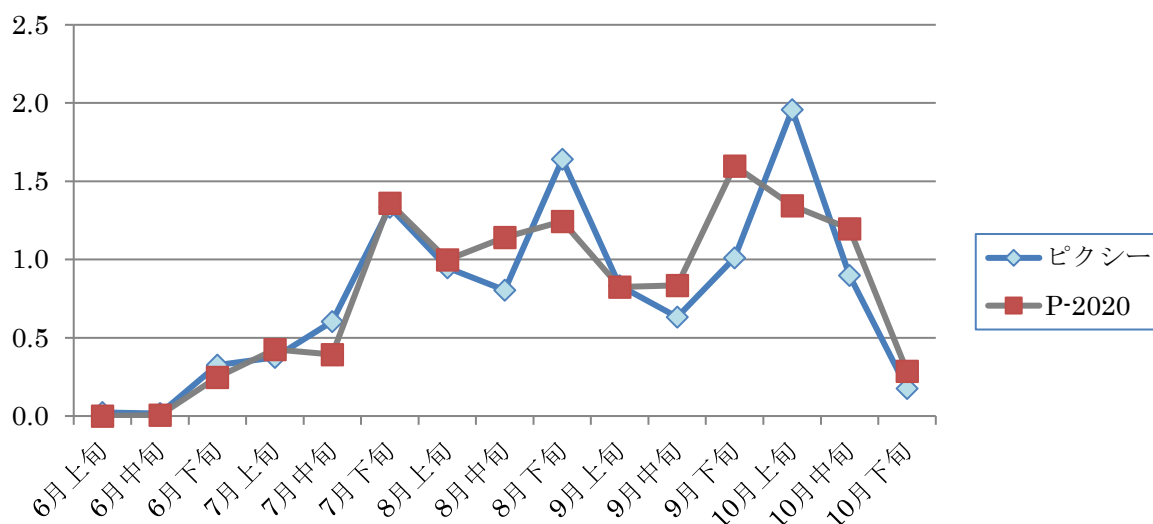


図3 可販旬別収量 (t/10a) (上段：4月定植、下段：5月定植)

表4 令和2～3年度の結果

○ 令和2年度収量調査

作型	品種名	A品収量 (g)	A品果数	B品収量 (g)	B品果数	総収量 (g)	総果数	A品率 (%)	平均1果重 (g)	10a換算収量 (t)	10a換算A品収量 (t)
4月定植	ピクシー	5,990	169	2,317	65	8,307	234	72.1	35.5	10.8	7.8
	P-2020	6,564	178	2,093	61	8,657	239	75.8	36.2	11.3	8.6
5月定植	ピクシー	5,607	158	1,425	38	7,032	196	79.7	35.9	9.1	7.3
	P-2020	6,225	171	1,498	42	7,723	213	80.6	36.3	10.0	8.1

○ 令和3年度収量調査

作型	品種名	A品		B品		外品		総数				
		収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)
4月 定植	ピクシー	10,545	282	1,502	42	513	14	12,560	338	84.0	37.2	16.3
	P-2020	8,365	223	1,624	43	1,166	32	11,155	298	75.0	37.4	14.5
	P-2021	7,187	195	1,475	39	680	24	9,342	258	76.9	36.2	12.1
5月 定植	ピクシー	8,893	230	1,025	27	375	23	10,293	280	86.4	36.8	13.4
	P-2020	8,991	239	1,353	34	906	24	11,250	297	79.9	37.9	14.6
	P-2021	7,679	207	1,510	40	279	11	9,468	258	81.1	36.7	12.3

続き

作型	品種名	可販(A品+B品)					
		収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)	10a換算 A品収量 (t)
4月 定植	ピクシー	12,047	324	87.5	37.2	15.7	13.7
	P-2020	9,989	266	83.7	37.6	13.0	10.9
	P-2021	8,662	234	83.0	37.0	11.3	9.3
5月 定植	ピクシー	9,918	257	89.7	38.6	12.9	11.6
	P-2020	10,344	273	86.9	37.9	13.4	11.7
	P-2021	9,189	247	83.6	37.2	11.9	10.0

※調査区は連続5株調査した1株当たりの平均。

※総収量=A品収量+B品収量。総果数=A品果数+B品果数。A品率=A品収量/総収量。10a換算収量=総収量×1,300株/10a。

10a換算A品収量=10a換算収量×A品率。 ※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

○ 令和3年度障害発生率(個数%)

作型	品種名	B品(個数%)					外品(個数%)						
		突起	先尖	曲	外傷	大	突起	先尖	曲	外傷	シワ	他	小
4月 定植	ピクシー	15.6	26.5	33.6	22.7	1.4	7.2	0	1.4	11.6	63.8	5.8	10.1
	P-2020	9.8	25.2	47.7	13.1	4.2	2.5	1.3	1.9	9.4	70.4	8.2	6.3
	P-2021	47.4	5.7	27.3	14.9	4.6	69.2	0	2.5	16.1	12.7	5.1	3.4
5月 定植	ピクシー	26.7	17.0	24.4	26.7	5.2	57.0	0	9.0	11.4	21.9	3.5	5.3
	P-2020	12.4	22.9	28.8	27.1	8.8	0	0.8	0.8	10.9	75.6	3.4	8.4
	P-2021	46.5	7.9	27.2	15.8	2.5	31.5	0	3.7	20.4	24.1	9.3	11.1

※100%とならないのは四捨五入のため。

露地野菜の部 No.3

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（継続：令和3年度～令和4年度）

1 目的 当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、施肥体系の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 露地ほ場

(2) 耕種概要

1) 栽培方法 マルチ栽培

2) は種及び定植月日 〈は種〉 〈定植〉

令和4年3月15日 令和4年5月11日

(定植直後パスライト1枚トンネル被覆)

3) 育苗日数 57日

4) 栽植距離 うね幅150cm、株間50cm

5) 定植株数 1,300株/10a

6) 施肥量

【施肥量】

〈基肥〉(kg/10a)		〈追肥〉(kg/10a)
新豊作太郎 800	パワーリン	くみあい燐硝安加里 S646
(18-10-10)	(P:30%)	(16-4-16)

① 166 0 22.5×4回

② 166 0 18.0×5回

③ 133 6 31.9×4回

④ 133 6 25.5×5回

【成分量】

〈基肥〉(kg/10a)			〈追肥〉(kg/10a)			合計(kg/10a)			
N	P	K	N	P	K	N	P	K	
①	29.9	16.6	16.6	14.4	3.6	14.4	44.3	20.2	31.0
②	29.9	16.6	16.6	14.4	3.6	14.4	44.3	20.2	31.0
③	23.9	15.1	13.3	20.4	5.1	20.4	44.3	20.2	33.7
④	23.9	15.1	13.3	20.4	5.1	20.4	44.3	20.2	33.7

【追肥時期】

①、③ 定植後60日、以降概ね20日おき計4回

令和4年7月11日、8月2日、8月22日、9月12日

②、④ 定植後60日、以降概ね15日おき計5回

令和4年7月11日、7月26日、8月11日、8月25日、9月9日

7) 使用資材 暖あったかマルチ、15cm×5目フラワーネット(3段)

8) 収穫期間 令和4年6月22日～10月27日

9) 薬剤散布 41回(成分回数)

(3) 調査区の構成

1) 調査区 4区(1区5株、1区制)

2) 供試品種 ピクシー (横浜植木株)

(4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

(1) 昨年度の結果

基肥量・追肥量の加減による比較は収量で基肥減・追肥増の調査区が優れていたが、A品率の差は判然としなかった。また、追肥回数による比較は、4回の調査区が5回の調査区に比べ収量及びA品率において優れた傾向が見られた。

(2) 本年度の結果

1) 生育

定植後は少雨乾燥傾向から生育前半は根張りが弱く草丈が低くなったが、高温が続き収穫開始は6月22日となった。6月上旬以降は大雨や日照不足が続き、落花や肥大遅れ、シワ果が発生し、収量は9月に一時回復したものの全体として少ない傾向となった。また、収穫初期及び終期に先尖果等が見られた。

病害虫は、収穫初期に灰色かび病、9月以降に斑点細菌病の被害が散見された。

2) 収量

可販 10a 換算収量は、調査区③が最も多かった。
 基肥量・追肥量の加減による収量比較は、可販 10a 換算収量では基肥減・追肥増の調査区③で 11.6t、調査区④で 11.0t となり、それぞれ同じ追肥回数の調査区①、②に比べ多かった。可販旬別収量では 7 月下旬、8 月下旬、9 月下旬及び 10 月上旬でピークが見られ、それぞれのピークでは調査区③が最も多かった。また、収量が低い時期は、基肥減・追肥増の調査区の方が収量低下は小さい傾向となった。
 追肥回数による収量比較は、可販 10a 換算収量が追肥 4 回の調査区①で 11.3t、調査区③で 11.6t となり、調査区②、④に比べ多く、昨年と同様の傾向が見られた。可販旬別収量では 3 回のピークでいずれも追肥 4 回の調査区①、③が多い傾向が見られた。

3) 品質

可販 A 品率は調査区①、③が、可販 10a 換算 A 品収量は調査区③が最も多かった。
 基肥量・追肥量の加減による A 品率比較は、可販 A 品率では調査区間で同等となったが、総数 A 品率では調査区③、④が高い傾向となった。
 追肥回数による A 品率比較は、可販 A 品率及び総数 A 品率ともに追肥 4 回の調査区①、③が高い傾向となった。
 主な落等要因は、B 品では先尖果及び日照不足による色ムラ、外品では栽培後半でシワ果が多かった。

以上より、今年度の調査では、基肥量・追肥量の加減による比較は収量で基肥減・追肥増の調査区が優れ、可販 A 品率では同等、総数 A 品率では基肥減・追肥増の調査区が優れていた。また、追肥回数による比較は、4 回の調査区が 5 回の調査区に比べ収量及び A 品率において優れた傾向が見られた。

(3) 調査 2 箇年の結果

本調査は、総窒素量が同量の条件で基肥量・追肥量を加減した場合、また、追肥総量が同量の条件で追肥回数を変えた場合の収量等を比較したものであった。
 基肥量・追肥量の加減による比較は、収量で 2 箇年とも基肥減・追肥増の調査区が優れていた。また、A 品率は 1 年目では判然としなかったが、2 年目では総数 A 品率で基肥減・追肥増の調査区が優れていた。
 追肥回数による比較は、2 箇年とも 4 回の調査区が 5 回の調査区に比べ収量及び A 品率において優れた傾向が見られた。
 また、2 箇年とも、基肥減・追肥増かつ追肥回数 4 回（調査区③）が、施肥条件として有望と考えられた。

(4) 次年度以降の計画
完了

表 1 収量調査

調査区	A品		B品		外品		総数				
	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)
①60日4回	7,561	199	1,141	29	741	27	9,443	255	80.1	37.0	12.3
②60日5回	6,854	184	1,104	28	1,011	27	8,969	239	76.4	37.5	11.7
③60日4回(基減追増)	7,772	204	1,173	34	619	17	9,564	255	81.3	37.5	12.4
④60日5回(基減追増)	7,321	196	1,156	31	641	18	9,118	245	80.3	37.2	11.9

続き

調査区	可販 (A品 + B品)					
	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)	10a換算 A品収量 (t)
①60日4回	8,702	228	86.9	38.2	11.3	9.8
②60日5回	7,958	212	86.1	37.5	10.3	8.9
③60日4回(基減追増)	8,945	238	86.9	37.6	11.6	10.1
④60日5回(基減追増)	8,477	227	86.4	37.3	11.0	9.5

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

※総収量=A品収量+B品収量。総果数=A品果数+B品果数。A品率=A品収量/総収量。10a換算収量=総収量×1,300株/10a。

10a換算A品収量=10a換算収量×A品率。

※調査区は連続5株調査した1株当たりの平均。

表2 障害発生率 (個数%)

調査区	B品 (個数%)							外品 (個数%)							
	突起	先尖	曲	短形	外傷	大	他	突起	先尖	曲	短形	外傷	尻腐	シワ	他
①60日4回	6.8	25.9	17.7	2.0	25.2	0.0	22.4	3.6	0.0	2.2	1.5	19.0	1.5	65.7	6.6
②60日5回	13.4	21.8	13.4	5.6	22.5	0.7	22.5	5.8	0.0	0.7	0.7	22.6	0.0	62.0	8.0
③60日4回(基減追増)	5.9	20.6	29.4	5.9	23.5	0.0	14.7	7.1	0.0	0.0	0.0	38.8	0.0	47.1	7.1
④60日5回(基減追増)	5.7	20.4	13.4	7.0	22.3	0.0	31.2	4.3	0.0	2.2	2.2	32.6	3.3	40.2	15.2

※100%とならないのは四捨五入のため。

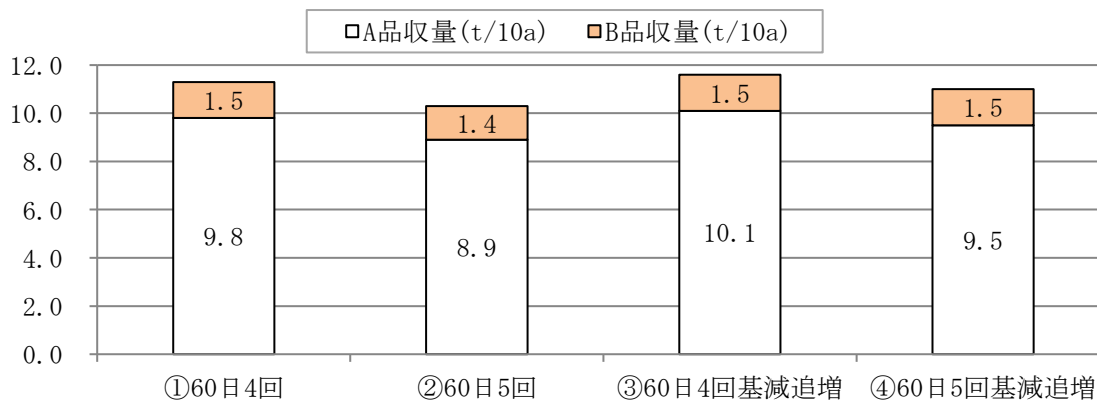


図1 品種別可販収量 (t/10a)

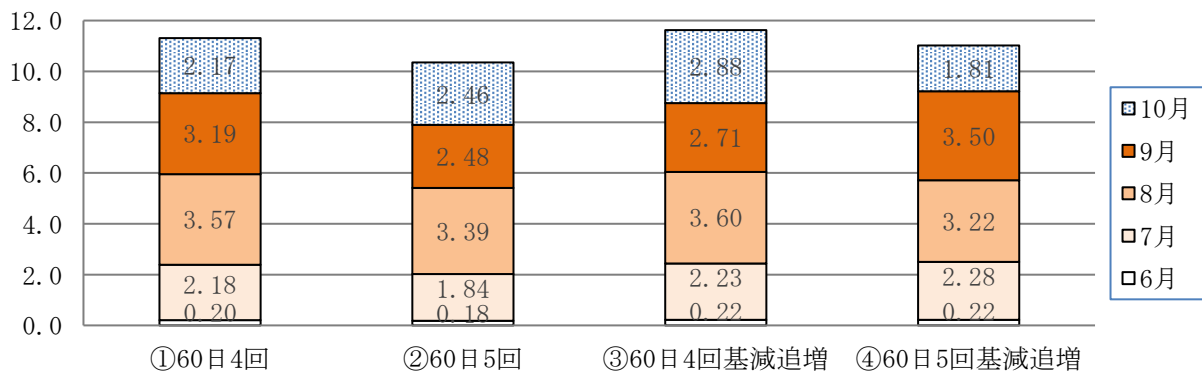


図2 可販月別収量 (t/10a)

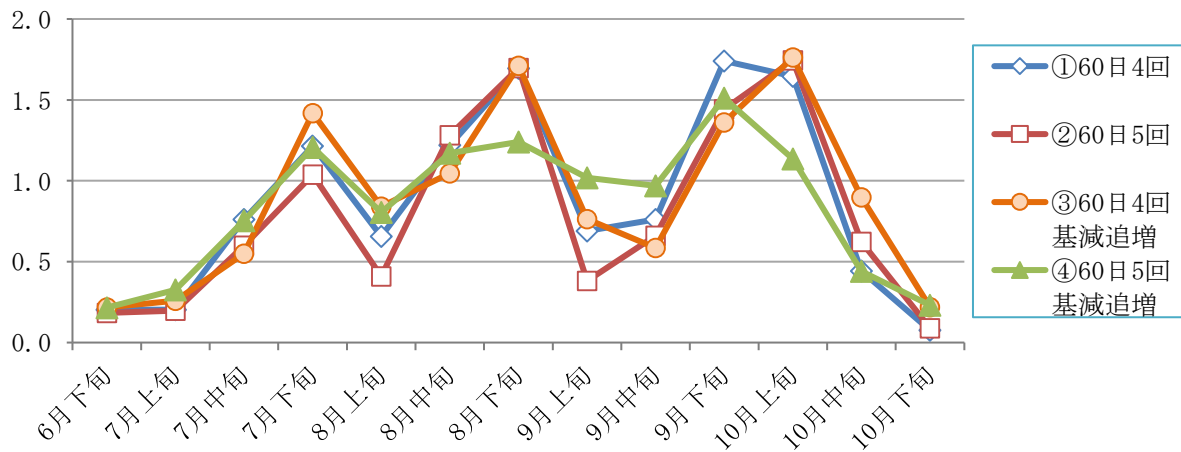


図3 可販旬別収量 (t/10a)

表3 令和3年度の結果

○収量調査

調査区	A品		B品		外品		総数				
	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)
①60日4回	8,893	230	1,025	27	375	23	10,293	280	86.4	36.8	13.4
②60日5回	8,400	222	1,225	32	639	19	10,264	273	81.8	37.6	13.3
③60日4回(基減追増)	9,249	243	1,179	30	314	11	10,742	284	86.1	37.8	14.0
④60日5回(基減追増)	8,763	230	1,488	40	385	10	10,636	280	82.4	38.0	13.8

続き

調査区	可販(A品+B品)					
	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)	10a換算 A品収量 (t)
①60日4回	9,918	257	89.7	38.6	12.9	11.6
②60日5回	9,625	254	87.3	37.9	12.5	10.9
③60日4回(基減追増)	10,428	273	88.7	38.2	13.6	12.0
④60日5回(基減追増)	10,251	270	85.5	38.0	13.3	11.4

※調査区は連続5株調査した1株当たりの平均。

※総収量=A品収量+B品収量。総果数=A品果数+B品果数。A品率=A品収量/総収量。10a換算収量=総収量×1300株/10a。

10a換算A品収量=10a換算収量×A品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

○ 障害発生率 (個数%)

調査区	B品(個数%)					外品(個数%)						
	突起	先尖	曲	外傷	大	突起	先尖	曲	外傷	シ・赤	他	小
①60日4回	26.7	17.0	24.4	26.7	5.2	57.0	0	9.0	11.4	21.9	3.5	5.3
②60日5回	17.6	18.9	28.3	26.4	8.8	9.3	0	6.2	32.0	42.3	6.2	4.1
③60日4回(基減追増)	25.7	21.7	20.4	26.3	5.9	7.5	0	0	34.0	30.2	7.5	20.8
④60日5回(基減追増)	24.2	27.3	25.3	18.7	4.5	13.7	0	3.9	11.8	54.9	3.9	11.8

※100%とならないのは四捨五入のため。

露地野菜の部 No.4

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン整枝方法別収量比較調査（継続：令和2年度～令和4年度）

- 1 目的 当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、整枝方法の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 マルチ栽培
- 2) は種及び定植月日
〈は種〉 令和4年3月15日
〈定植〉 令和4年5月11日
(定植直後パスライト1枚トンネル被覆)
- 3) 育苗日数 57日
- 4) 整枝方法 ①第2分枝を主枝4本に整枝、第3分枝を8本、以降側枝を適宜整枝(慣行)
②第2分枝を主枝4本に整枝、第3分枝を8本、以降側枝を適宜整枝、9月上旬に摘心
- 5) 摘心 令和4年9月7日
- 6) 栽植距離 うね幅150cm、株間50cm
- 7) 定植株数 1,300株/10a
- 8) 施肥量 N-P-K=44.3-20.2-31.0 kg/10a
【基肥】新豊作太郎 800(12-12-10) : 166 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里 S646(16-4-16) : 22.5 kg/10a×4回
令和4年7月11日、8月2日、8月22日、9月12日
- 9) 使用資材 暖あったかマルチ、15cm×5目フラワーネット(3段)
- 10) 収穫月日 令和4年6月22日～令和4年10月27日
- 11) 薬剤散布 41回(成分回数)
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 2区(1区5株、1区制)
- 2) 供試品種 ピクシー (横浜植木株)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果
- 10a換算収量及び10a換算A品収量の点から、調査区②が優れていた。また、摘心後は実の肥大促進に効果があるものの、効果は持続しないことが考えられた。
- (2) 本年度の結果
- 1) 生育
- 定植後は少雨乾燥傾向から生育前半は根張りが弱く草丈が低くなったが、高温が続き収穫開始は6月22日となった。6月上旬以降は大雨や日照不足が続き、落花や肥大遅れ、シワ果が発生し、収量は9月に一時回復したものの全体として少ない傾向となった。また、収穫初期及び終期に先尖果等が見られた。
- 病害虫は、収穫初期に灰色かび病、9月以降に斑点細菌病の被害が散見された。
- 2) 収量
- 可販10a換算収量は、調査区①が上回った。
- 可販月別収量は、調査区①、②ともに8月が最も多かった。
- 可販旬別収量は、調査区①で9月下旬、調査区②で8月下旬が最も多かった。また、調査区②における摘心後の収量の推移は、調査区①に比べ収量の増加は大きくはなく、摘心の効果は判然としなかった。
- 3) 品質
- 総数A品率及び可販A品率は調査区①が上回った。また、主な落等要因は、B品では先尖果及び日照不足による色ムラ、加えて調査区②で曲がり果が多く、外品では栽培後半でシワ果が多かった。

以上の結果より、今年度の調査では10a換算収量及び10a換算A品収量の点から、調査区①が優れていた。また、摘心後の収量の推移は、調査区①に比べ収量の増加は大きくはなく、摘心の効果は判然としなかった。

(3) 調査3箇年の結果

本調査は、栽培期間内に出荷規格まで肥大しない実が成る枝を事前に摘除することで、残す実の肥大を促進し、収量を向上できるかについて検討したものであった。

収量は、摘心後に旬別収量が増加した年次が多かったものの、収量増加の持続期間は年次によりばらつきがあった。また、栽培期間全体における収量は、年次によりばらつきがあり、判然としなかった。

A品率は、年次によってばらつきがあり効果は判然としなかった。

これらの結果に加え、調査期間は天候不順となった年次も多かった点を考慮すると、摘心は直後の収量増加に一定の効果はあると考えられるものの、効果の度合いは天候要因にも左右される程度であり、顕著なものではないと考えられた。

(4) 次年度以降の計画

完了

表1 収量調査

調査区	A品		B品		外品		総数				
	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)
①慣行区	7,561	199	1,141	29	741	27	9,443	255	80.1	37.0	12.3
②9月上旬摘心	6,329	168	1,170	31	819	22	8,318	221	76.1	37.6	10.8

続き

調査区	可販(A品+B品)					
	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)	10a換算 A品収量 (t)
①慣行区	8,702	228	86.9	38.2	11.3	9.8
②9月上旬摘心	7,499	199	84.4	37.7	9.7	8.2

※調査区は連続5株調査した1株当たりの平均。

※総収量=A品収量+B品収量。総果数=A品果数+B品果数。A品率=A品収量/総収量。

10a換算収量=総収量×1,300株/10a。10a換算A品収量=10a換算収量×A品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表2 障害発生率(個数%)

調査区	B品(個数%)							外品(個数%)							
	突起	先尖	曲	短形	外傷	大	他	突起	先尖	曲	短形	外傷	尻腐	シワ	他
①慣行区	6.8	25.9	17.7	2.0	25.2	0.0	22.4	3.6	0.0	2.2	1.5	19.0	1.5	65.7	6.6
②9月上旬摘心	8.3	19.7	21.0	3.2	19.1	0.0	28.7	5.6	0.0	2.8	1.9	14.8	0.9	67.6	6.5

※100%とならないのは四捨五入のため。

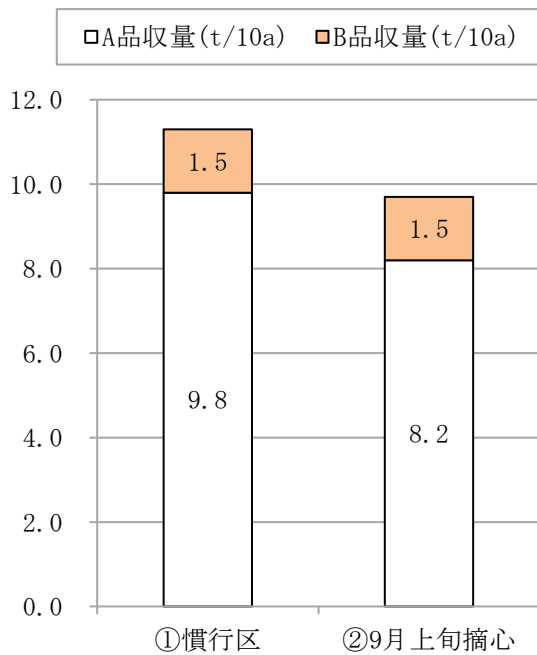


図1 可販収量 (t/10a)

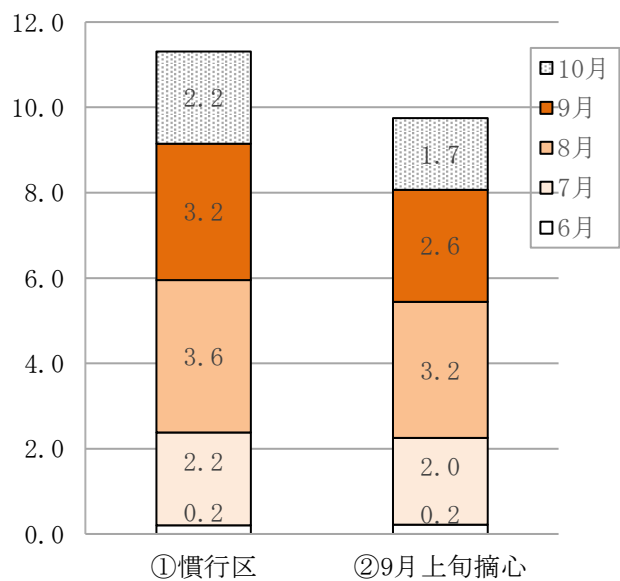


図2 可販月別収量 (t/10a)

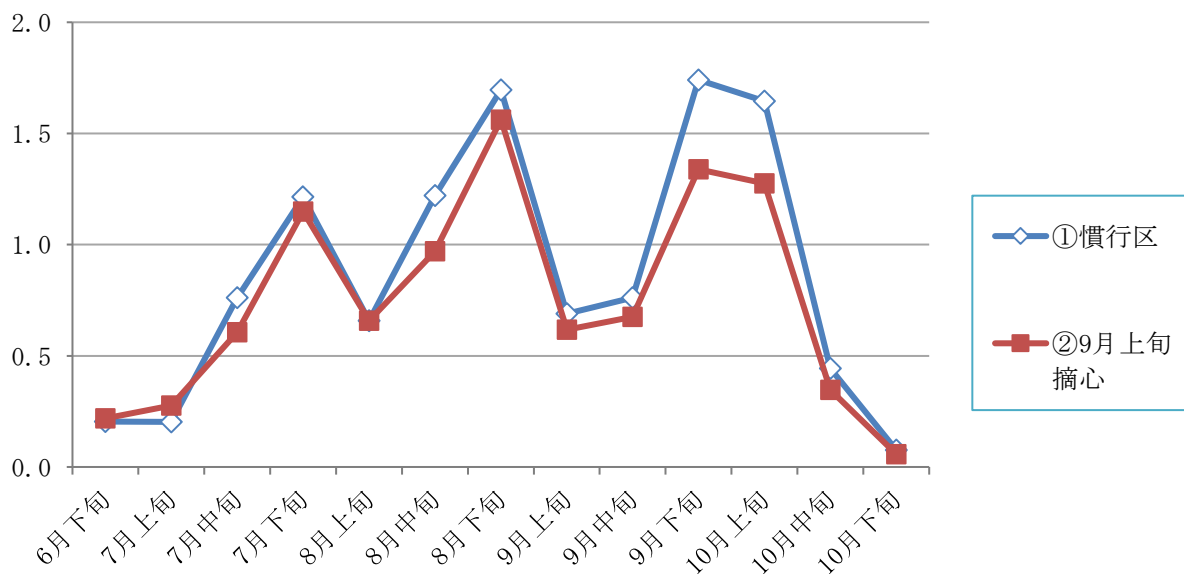


図2 可販旬別収量 (t/10a)

表4 令和2~3年度の結果

○ 令和2年度収量調査

調査区名	A品収量 (g)	A品果数	B品収量 (g)	B品果数	総収量 (g)	総果数	A品率 (%)	平均1果重 (g)	10a換算収量 (t)	10a換算A品収量 (t)
①慣行	5,607	158	1,425	38	7,032	196	79.7	35.9	9.1	7.3
②摘心	6,290	171	1,568	43	7,858	214	80.0	36.7	10.2	8.2

○ 令和3年度収量調査

調査区	A品		B品		外品		総数		A品率 (%)	平均1果重 (g)	10a換算収量 (t)
	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)			
①慣行区	8,893	230	1,025	27	375	23	10,293	280	86.4	36.8	13.4
②9月上旬摘心	8,467	226	1,100	34	649	18	10,216	278	82.9	36.7	13.3

続き

調査区	可販 (A品 + B品)					
	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均1果重 (g)	10a換算収量 (t)	10a換算A品収量 (t)
①慣行区	9,918	257	89.7	38.6	12.9	11.6
②9月上旬摘心	9,567	260	88.5	36.8	12.4	11.0

※調査区は連続5株調査した1株当たりの平均。

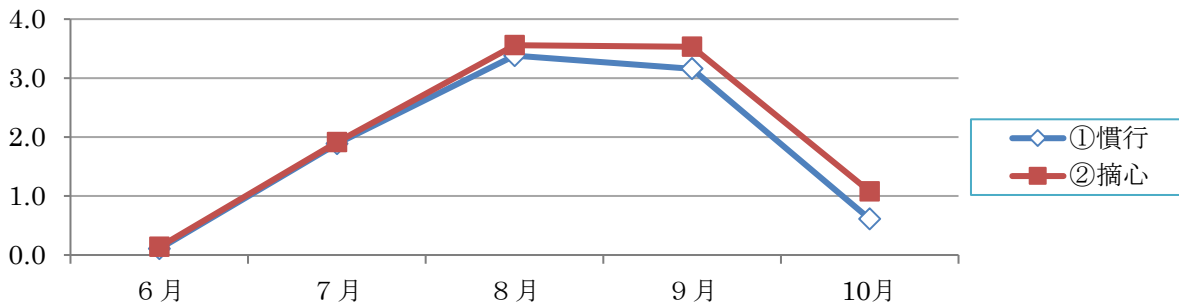
※総収量=A品収量+B品収量。総果数=A品果数+B品果数。A品率=A品収量/総収量。10a換算収量=総収量×1,300株/10a。

10a換算A品収量=10a換算収量×A品率。 ※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

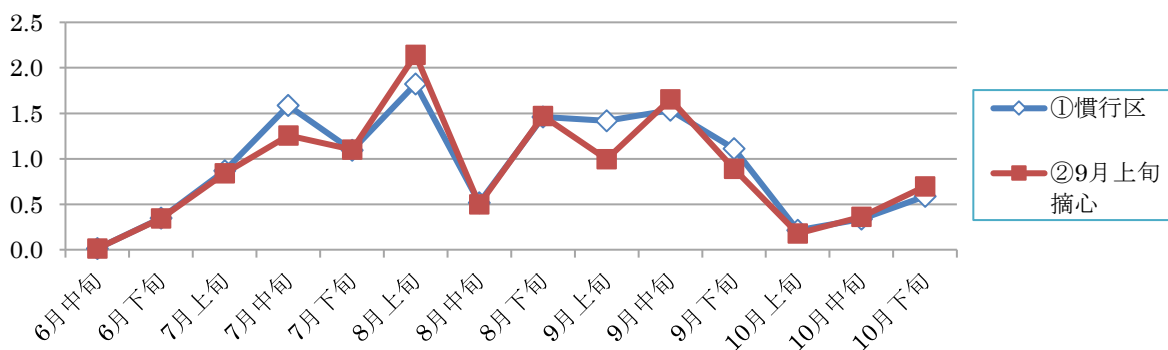
○ 令和3年度障害発生率 (個数%)

調査区	B品 (個数%)					外品 (個数%)						
	突起	先尖	曲	外傷	大	突起	先尖	曲	外傷	シ・赤	他	小
①慣行区	26.7	17.0	24.4	26.7	5.2	57.0	0	9.0	11.4	21.9	3.5	5.3
②9月上旬摘心	20.9	14.5	23.8	29.7	11.0	7.7	0	5.5	17.6	54.9	8.8	5.5

※100%とならないのは四捨五入のため。



○ 令和2年度月別収量 (t/10a)



○ 令和3年度月別収量 (t/10a)

露地野菜の部 No.5

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の整枝方法(生育初期)による収量比較調査

(新規：令和4年度～令和6年度)

- 1 目的 当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、整枝方法の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 マルチ栽培
- 2) は種及び定植月日 <は種> <定植>
令和4年3月15日 令和4年5月11日
(定植直後パスライト1枚トンネル被覆)
- 3) 育苗日数 57日
- 4) 整枝方法 ①第2分枝を主枝4本、第3分枝を8本、第4分枝を12本に整枝、以降適宜整枝
②第2分枝を主枝4本、第3分枝を8本、第4分枝を10本に整枝、以降適宜整枝
- 5) 栽植距離 うね幅150cm、株間50cm
- 6) 定植株数 1,300株/10a
- 7) 施肥量 N-P-K=44.3-20.2-31.0kg/10a
【基肥】新豊作太郎800(18-10-10)：166kg/10a
【追肥】くみあい磷硝安加里S646(16-4-16)：22.5kg/10a×4回
令和4年7月11日、8月2日、8月22日、9月12日
- 8) 使用資材 暖あったかマルチ、15cm×5目フラワーネット(3段)
- 9) 収穫期間 令和4年6月22日～10月27日
- 10) 薬剤散布 41回(成分回数)
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 2区(1区5株、1区制)
- 2) 供試品種 ピクシー (横浜植木株)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 本年度の結果
- 1) 生育
定植後は少雨乾燥傾向から生育前半は根張りが弱く草丈が低くなったが、高温が続き収穫開始は6月22日となった。6月上旬以降は大雨や日照不足が続き、落花や肥大遅れ、シワ果が発生し、収量は9月に一時回復したものの全体として少ない傾向となった。また、収穫初期及び終期に先尖果等が見られた。
なお、枝の太さや葉色は、調査区間でおおむね同等と見受けられた。収穫開始後の最初の整枝は、調査区①で7月10日頃、調査区②で7月20日頃となり、調査区②が10日程度遅くなった。なお、以降の整枝を行う頻度は同等となった。枝数は、栽培期間を通し調査区②でやや少ない傾向となったが、本年度は降雨の影響が強いため整枝の影響によるものかは判然としなかった。
病害虫は、収穫初期に灰色かび病、9月以降に斑点細菌病の被害が散見された。
- 2) 収量
可販10a換算収量は、調査区①が上回った。
可販月別収量は、調査区①、②ともに8月が最も多かった。
可販旬別収量は、調査区①で9月下旬、調査区②で8月下旬が最も多かった。また、栽培期間を通して調査区①が上回る旬が多かった。
- 3) 品質
総数A品率及び可販A品率は、調査区①が上回った。また、主な落等要因は、B品では先尖果及び日照不足による色ムラ、加えて調査区②で曲がり果が多く、外品では

栽培後半でシワ果が多かった。

本調査は、生育初期の積極的な整枝により、収穫盛期の整枝を省力化できるかの検討を目的とし、調査区①は軟弱枝を摘除し第4分枝を12本に整枝、調査区②は第4分枝を10本と強めに整枝した。

収穫開始後の整枝の頻度は、調査区②で10日程度遅く始まったが、以降は調査区①と同等となった。また、枝の太さや葉色が調査区間でおおむね同等であったものの、調査区②は栽培期間を通して枝数がやや少ない傾向となり、収量の差に影響したと考えられた。

ただし、今年度は大雨や日照不足が続いたことが影響していることも考えられるため、引き続き検討が必要であった。

(2) 次年度以降の計画
継続

表1 収量調査

調査区	A品		B品		外品		総数				
	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)
①第4分枝12本	7,561	199	1,141	29	741	27	9,443	255	80.1	37.0	12.3
②第4分枝10本	6,058	162	994	26	755	20	7,807	208	77.6	37.5	10.1

続き

調査区	可販(A品+B品)						
	収量 (g)	果数 (個)	A品率 (%)	平均 1果重 (g)	10a換算 収量 (t)	10a換算 A品収量 (t)	
①第4分枝12本	8,702	228	86.9	38.2	11.3	9.8	
②第4分枝10本	7,052	188	85.9	37.5	9.2	7.9	

※調査区は連続5株調査した1株当たりの平均。

※総収量=A品収量+B品収量。総果数=A品果数+B品果数。A品率=A品収量/総収量。

10a換算収量=総収量×1,300株/10a。10a換算A品収量=10a換算収量×A品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表2 障害発生率(個数%)

調査区	B品(個数%)							外品(個数%)							
	突起	先尖	曲	短形	外傷	大	他	突起	先尖	曲	短形	外傷	尻腐	シワ	他
①第4分枝12本	6.8	25.9	17.7	2.0	25.2	0.0	22.4	3.6	0.0	2.2	1.5	19.0	1.5	65.7	6.6
②第4分枝10本	6.1	22.7	21.2	1.5	28.0	0.8	19.7	3.1	1.0	0.0	0.0	35.7	2.0	50.0	8.2

※100%とならないのは四捨五入のため。

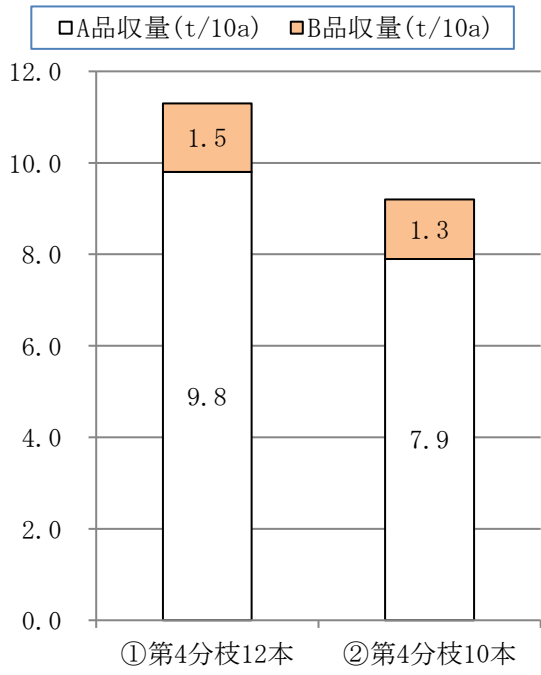


图1 可販収量 (t/10a)

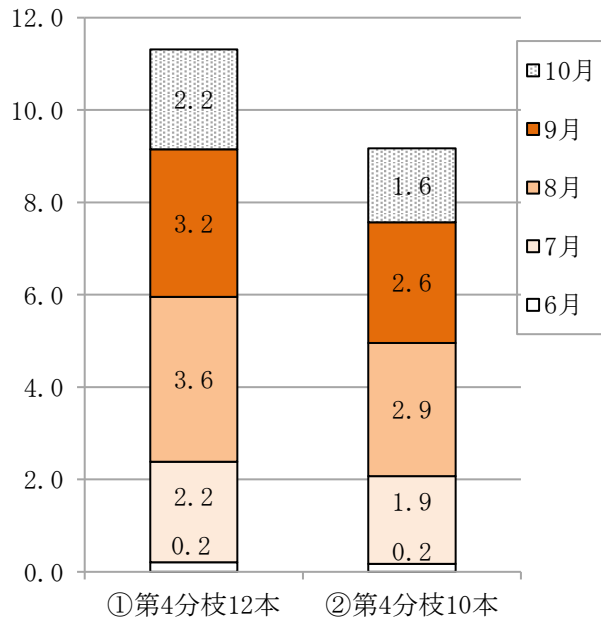


图2 可販月別収量 (t/10a)

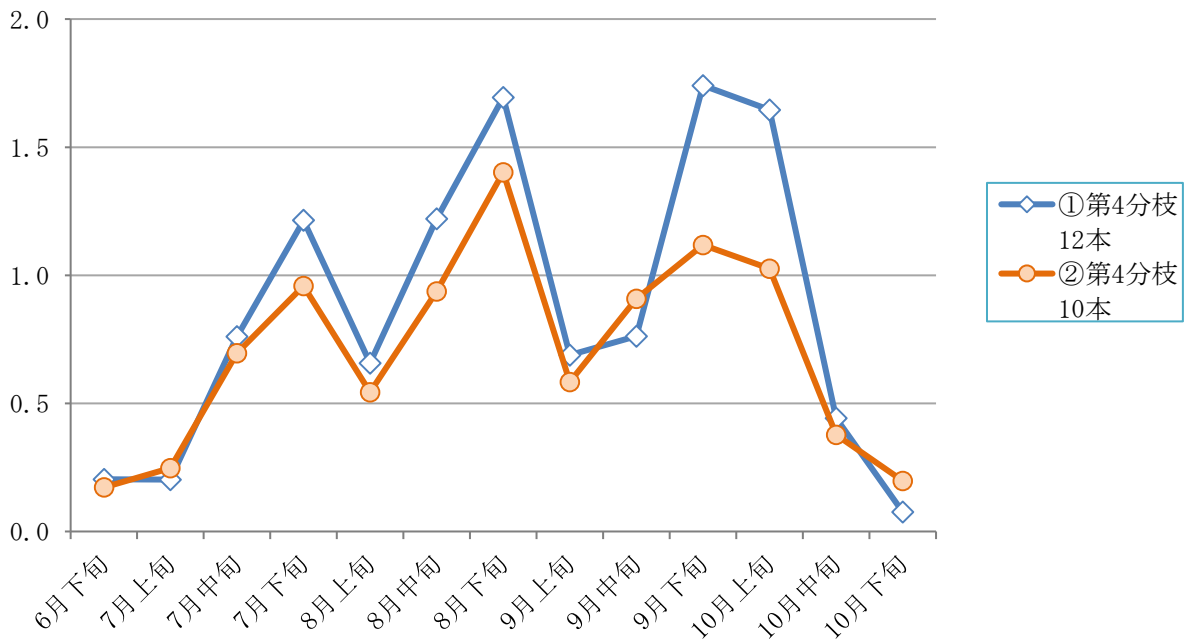


图3 可販旬別収量 (t/10a)

2-4 調査成績（花き）

花きの部 No. 1

項目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(7~8月出荷)（新規：令和4年度~令和5年度）

1 目的 収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、7~8月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 11号 (99 m² : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
 - 2) は種年月日 令和4年2月18日
 - 3) 定植年月日 令和4年4月15日
 - 4) 栽植距離 ベッド幅 60 cm、株間 10 cm、条間 10cm、4条植え(中2条抜き)
 - 5) 定植株数 2,720本/棟
 - 6) 施肥量 N-P-K-Mg=0.96-0.08-0.40-0.16 kg/a
(基肥) アルガ 215 (12-1-5-2) : 8.0 kg/a
 - 7) 使用資材 白黒ダブルマルチ、10cm×6目フラワーネット、メガクール
 - 8) 遮光・遮熱期間 令和4年7月4日~8月17日
 - 9) 収穫時期 令和4年7月26日~8月17日
 - 10) 薬剤散布 21回(成分回数)
 - 11) 保温 内カーテン(令和4年4月15日~5月16日)

(3) 調査区の構成

1) 調査区 15区(1区10株、1区制)

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ピュアホワイト	中早生	大	白	(株)ミヨシ
<2>	ボヤージュ2型イエロー-ver3	中生	大	黄	(株)サカタのタネ
<3>	ボヤージュ2型ブルー-ver.2	中生	大	濃紫	(株)サカタのタネ
<4>	ボン・ボヤージュ2型ベビーピンク	中生	大	白桃	(株)サカタのタネ
<5>	ソロPFブルーピコティ-ver.2	中生	小	白紫	(株)サカタのタネ
<6>	ジュリアスイエロー	中生	大	黄	カネコ種苗(株)
<7>	エグゼクグリーン	中生	大	緑	カネコ種苗(株)
<8>	ブラックハート	中生	中大	濃紫	タキイ種苗(株)
<9>	マイコ	中晩生	大	白	タキイ種苗(株)
<10>	プリマ3型イエロー	中晩生	大	黄	タキイ種苗(株)
<11>	パール3型ラベンダー	中晩生	大	薄紫	タキイ種苗(株)
<12>	セラフ3型コスメ	中晩生	大	桃	住化農業資材(株)
<13>	エレガンスグリーン	中晩生	大	緑	住化農業資材(株)
<14>	フィノホワイト	中晩生	中小	白	カネコ種苗(株)
<15>	PFダブルスノー	晩生	中	白	(株)サカタのタネ

(4) 調査項目 開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

春先の気温が例年に比べ高く推移し、地温を確保できたこともあり、生育期序盤は株張りが良く順調であったもの、連作障害により中盤以降草丈の伸長が進まず、短小開花してしまう品種が一部見られた。

病害虫の発生は見られなかった。

(2) 開花

採花時期は、7月26日から8月17日、盛期は8月3日から8月13日となった。

開花が最も早かったのは「ピュアホワイト」、最も遅かったのは「PFダブルスノー」で、概ね早晩性どおりの開花となった。

(3) 切花品質

切花長では、「エグゼググリーン」で最も長く 83.5 cmであった。

茎径では、「セレブ 3 型コスメ」、「フィーノホワイト」、「PF ダブルスノー」が同値で最も太く 7.1mm となった。

開花数と花蕾数の合計は、全ての品種で 6 個以上となった。

「エグゼググリーン」、「プリマ 3 型イエロー」、「セレブ 3 型コスメ」、「フィーノホワイト」については、草丈伸長が良く、他品種に比べ茎が硬く太いため首曲がり等も少なかった。

「ジュリアスイエロー」については、樹勢が強くボリュームは出るものの、ブラッシングの発生が散見された。

「ソロ PF ブルーピコティ」、「PF ダブルスノー」については、生育の揃いが良いためロスが少なく、また、無花粉の品種であるため花持ちが良いことや汚れにくいこと等から、今後安定した需要が期待される品種であると考えられる。

(4) 次年度以降の計画

継続

表 1 採花期

品種名	早晩性	花径	採花期	
			(開始～終了)	(盛期)
<1> ヒュアホワイト	中早生	大	7/26 ~ 8/ 5	8/ 3
<2> ホーヤシ ュ2型イエロー-ver. 3	中生	大	7/26 ~ 8/ 5	8/ 3
<3> ホーヤシ ュ2型ブルー-ver. 2	中生	大	7/28 ~ 8/ 9	8/ 5
<4> ホン・ホーヤシ ュ2型ヘビートンク	中生	大	7/28 ~ 8/ 5	8/ 3
<5> ソロPFブルーピコティ-ver. 2	中生	小	8/ 3 ~ 8/14	8/11
<6> ジュリアスイエロー	中生	大	8/ 1 ~ 8/11	8/ 9
<7> エグゼググリーン	中生	大	8/ 1 ~ 8/11	8/ 9
<8> ブラックハート	中生	中大	7/29 ~ 8/ 8	8/ 4
<9> マイコ	中晩生	大	7/26 ~ 8/ 5	8/ 3
<10> プリマ3型イエロー	中晩生	大	8/ 1 ~ 8/11	8/ 9
<11> ベール3型ラベンダー	中晩生	大	7/26 ~ 8/ 5	8/ 3
<12> セレブ 3 型コスメ	中晩生	大	8/ 3 ~ 8/14	8/10
<13> エレガンスグリーン	中晩生	大	8/ 1 ~ 8/11	8/ 9
<14> フィーノホワイト	中晩生	中小	8/ 8 ~ 8/15	8/13
<15> PFダブルスノー	晩生	中	8/ 8 ~ 8/17	8/13

表 2 切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝数 (本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)
<1> ヒュアホワイト	70.8	67.5	48.4	8.5	33.0	5.9	4.3	3.4	3.8
<2> ホーヤシ ュ2型イエロー-ver. 3	65.7	54.7	42.3	7.6	35.4	5.6	4.7	2.7	4.1
<3> ホーヤシ ュ2型ブルー-ver. 2	67.7	59.4	44.2	8.2	25.4	6.1	3.7	3.6	3.2
<4> ホン・ホーヤシ ュ2型ヘビートンク	71.9	63.8	48.0	8.9	29.4	6.7	5.0	4.3	4.7
<5> ソロPFブルーピコティ-ver. 2	71.3	56.6	45.7	8.7	26.2	5.2	6.0	8.3	7.9
<6> ジュリアスイエロー	80.3	66.9	51.6	9.0	39.3	6.4	4.2	4.0	3.5
<7> エグゼググリーン	83.5	83.8	68.6	9.1	34.0	7.0	4.3	4.8	5.4
<8> ブラックハート	68.3	57.0	41.3	6.7	27.5	5.6	3.2	3.6	3.2
<9> マイコ	73.3	63.6	48.5	7.9	29.2	6.4	3.1	3.3	3.3
<10> プリマ3型イエロー	81.0	76.1	59.3	7.4	32.1	6.6	4.5	4.6	6.0
<11> ベール3型ラベンダー	66.8	58.6	44.2	6.7	30.7	5.8	3.1	3.3	3.8
<12> セレブ 3 型コスメ	80.6	85.6	67.6	10.1	34.3	7.1	4.9	5.0	4.9
<13> エレガンスグリーン	78.5	70.3	52.9	9.8	29.1	6.7	5.0	5.4	5.1
<14> フィーノホワイト	67.9	68.3	53.9	9.3	31.8	7.1	4.2	3.7	5.8
<15> PFダブルスノー	79.2	80.3	64.4	8.7	33.0	7.1	4.3	3.6	8.4

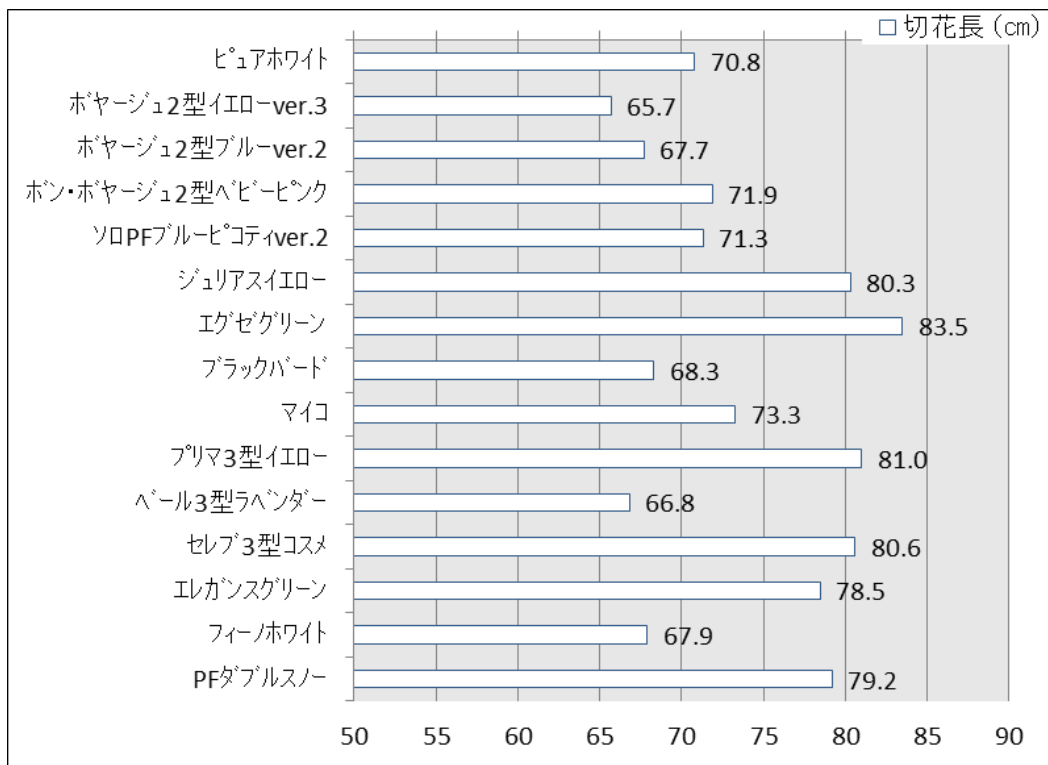


図1 切花長の比較

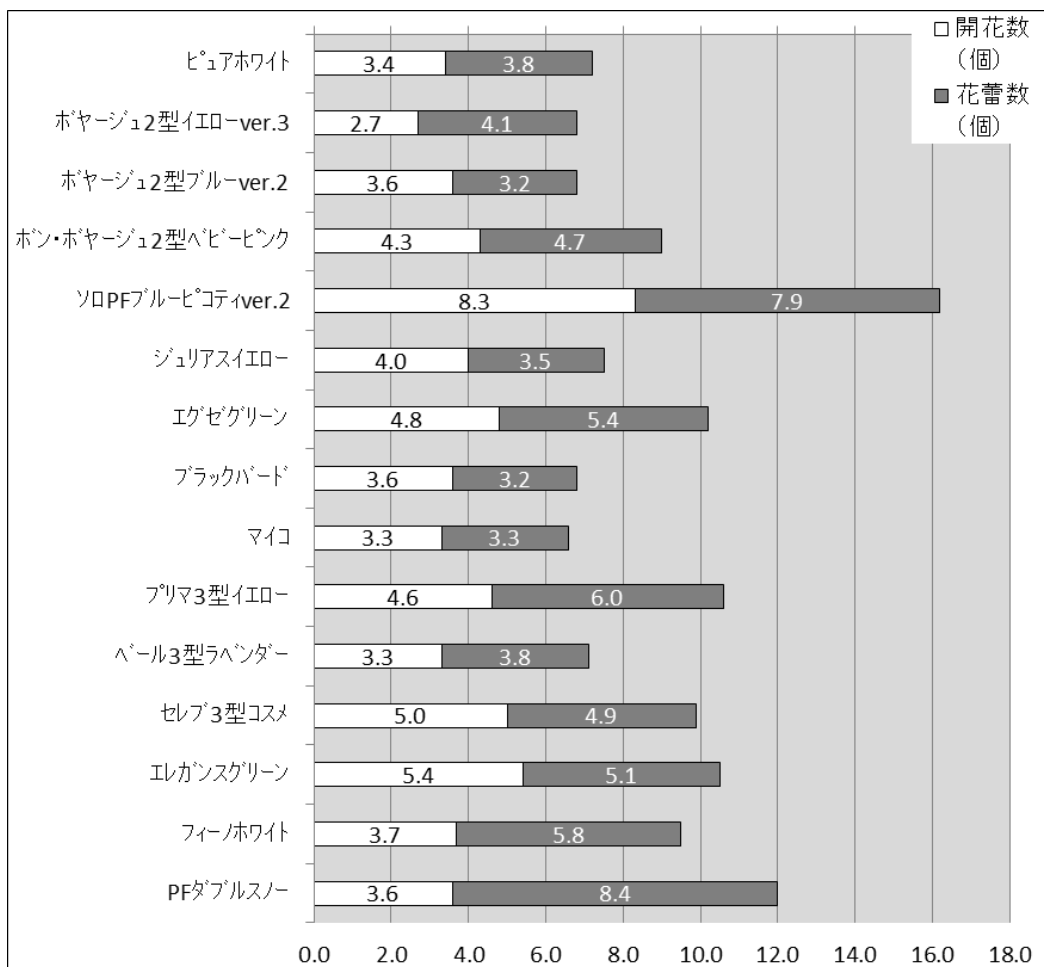


図2 開花数+花蕾数の比較



〈1〉ピュアホワイト



〈2〉ホヤージュ2型
イエロー ver. 3



〈3〉ホヤージュ2型
ブルー ver. 2



〈4〉ボン・ホヤージュ2型
ベビーピンク



〈5〉ソロPFブルーピコティ
ver. 2



〈6〉ジュリアスイロー



〈7〉エグゼクグリーン



〈8〉ブラックハート



〈9〉マイコ



〈10〉プリマ3型イエロー



〈11〉ベール3型ラベンダー



〈12〉セラブ3型コスメ



〈13〉エレガンスグリーン



〈14〉フィンホワイト



〈15〉PFダブルスノー

花きの部 No. 2

項目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(9月出荷) (新規：令和4年度～令和5年度)

- 1 目的 収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、9月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室6号 (165 m²：約50坪)
- (2) 耕種概要
- 栽培方法 土耕栽培
 - は種年月日 令和4年3月2日
 - 育苗方法 セルトレイに播種、吸水後、5℃の暗黒下にて約5週間冷蔵処理、その後通常育苗
 - 定植年月日 令和4年6月7日
 - 栽植距離 ベッド幅60cm、株間10cm、条間10cm、4条植え(中2条抜き)
 - 定植株数 3,100本/棟
 - 施肥量 N-P-K-Mg=1.44-0.12-5.60-2.24 kg/a
(基肥) アルガ 215 (12-1-5-2) : 12.0 kg/a
硫酸加里 (K:50) : 10.0 kg/a
ハイクト (Mg:40) : 5.0 kg/a
 - 使用資材 白黒ダブルマルチ、10cm×6目フラワーネット、メガクール
 - 遮光・遮熱期間 令和4年7月4日～9月12日
 - 収穫時期 令和4年8月23日～9月12日
 - 薬剤散布 21回(成分回数)

(3) 調査区の構成

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ビュアホワイト	中早生	大	白	(株)ミヨシ
<2>	ボヤージュ2型ブルー ver.2	中生	大	濃紫	(株)サカタのタネ
<3>	ボソ・ボヤージュ2型パピヨン	中生	大	白桃	(株)サカタのタネ
<4>	ジュリアスイロー	中生	大	黄	カネコ種苗(株)
<5>	ソロPFローズビコティ	中晩生	小	白桃	(株)サカタのタネ
<6>	エスライトピンク	中晩生	中大	薄桃	カネコ種苗(株)
<7>	フィノホワイト	中晩生	中小	白	カネコ種苗(株)
<8>	M21-5	中晩生	中大	薄桃	(株)ミヨシ
<9>	マイコ	中晩生	大	白	タキイ種苗(株)
<10>	プリマ3型イロー	中晩生	大	黄	タキイ種苗(株)
<11>	パール3型ラベンダー	中晩生	大	薄紫	タキイ種苗(株)
<12>	シンパッション	中晩生	中小	赤	タキイ種苗(株)
<13>	セラブ3型イロー	中晩生	大	黄	住化農業資材(株)
<14>	エレガンスジャンパン	中晩生	大	橙	住化農業資材(株)
<15>	PFダブルスノー	晩生	中	白	(株)サカタのタネ
<16>	オブレット	晩生	大	赤	(株)サカタのタネ

- (4) 調査項目 開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

生育期序盤は株張りが良く順調であったが、6月以降の高温の影響もあり、生育状況、開花時期ともに前進気味であった。

病害虫については開花期以降にアザミウマが散見された。

(2) 開花

採花時期は、8月23日から9月12日、盛期は8月26日から9月8日でいずれも秋彼岸の需要期より若干早い結果となった。

(3) 切花品質

切花長では、「マイコ」で最も長く 86.7 cmであった。

茎径では、「エレスライトピンク」で最も太く 7.3mm となった。

開花数と花蕾数の合計は、全ての品種で 6 個以上となった。

「マイコ」、「オーブレット」は草丈の確保が容易で、ボリュームは確保しやすいものの、上位節間の徒長に留意し灌水を控え、硬く仕上げる必要がある。

「エレスライトピンク」、「フィーノホワイト」、「M21-5」は、他品種に比べ茎が硬く太いこともあり、がっしりと締まった草姿であった。

「ソロPFローズピコティ」は、生育の揃いが良く草丈も十分確保できたものの、高温や低日照等の影響により色流れが発生する個体が散見された。

本作のような高温期中の作型では、やはり早晚性による開花時期や切花品質に与える影響は大きく、中晩生以降での品種選定、もしくは中生でも品種特性を考慮しての品種選定が重要である。

(4) 次年度以降の計画

継続

表 1 採花期

品種名	早晚性	花径	採花期	
			(開始～終了)	(盛期)
<1> ヒュアホワイト	中早生	大	8/23 ~ 8/29	8/26
<2> ホヤージュ2型ブルー-ver.2	中生	大	8/23 ~ 8/29	8/26
<3> ホン・ホヤージュ2型ヘビートンク	中生	大	8/23 ~ 8/29	8/26
<4> ジュリアスイロー	中生	大	8/24 ~ 8/31	8/26
<5> ソロPFローズピコティ	中晩生	小	8/26 ~ 9/ 2	8/30
<6> エレスライトピンク	中晩生	中大	8/27 ~ 9/ 6	8/31
<7> フィーノホワイト	中晩生	中小	8/27 ~ 9/ 6	8/31
<8> M21-5	中晩生	中大	8/23 ~ 8/29	8/26
<9> マイコ	中晩生	大	8/26 ~ 9/ 2	8/30
<10> プリマ3型イエロー	中晩生	大	8/28 ~ 9/ 8	9/ 6
<11> ヘル3型ラベンター	中晩生	大	8/25 ~ 9/ 5	8/31
<12> ミンクパッション	中晩生	中小	8/28 ~ 9/ 8	9/ 4
<13> セレブ3型イエロー	中晩生	大	8/26 ~ 9/ 2	8/29
<14> エレガンスシヤンパン	中晩生	大	8/28 ~ 9/ 8	9/ 4
<15> PFタブルスノー	晩生	中	8/28 ~ 9/ 9	9/ 4
<16> オーブレット	晩生	大	8/30 ~ 9/12	9/ 8

表 2 切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝数 (本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)
<1> ヒュアホワイト	71.3	65.1	46.9	7.6	24.5	6.1	3.3	3.4	4.3
<2> ホヤージュ2型ブルー-ver.2	77.7	59.6	46.9	7.3	29.5	6.3	2.9	3.7	3.2
<3> ホン・ホヤージュ2型ヘビートンク	75.1	62.4	46.9	8.0	33.5	6.4	3.7	3.7	4.8
<4> ジュリアスイロー	82.6	66.8	52.0	8.7	43.8	6.6	4.0	3.8	4.9
<5> ソロPFローズピコティ	84.9	65.2	51.2	7.7	43.0	6.7	5.4	7.6	9.3
<6> エレスライトピンク	78.2	69.3	53.3	7.2	30.5	7.3	3.3	3.0	4.0
<7> フィーノホワイト	72.6	61.8	45.4	8.8	30.0	7.0	3.4	3.6	6.9
<8> M21-5	70.5	70.0	53.0	6.8	26.5	7.1	3.1	3.7	5.8
<9> マイコ	86.7	71.4	48.9	8.1	37.8	6.9	2.6	2.7	3.6
<10> プリマ3型イエロー	80.0	71.3	54.3	8.0	33.3	6.8	3.8	3.5	5.4
<11> ヘル3型ラベンター	77.7	68.6	52.2	7.5	34.4	6.0	2.8	3.3	3.7
<12> ミンクパッション	74.6	62.3	46.6	7.1	21.9	6.2	3.4	3.7	5.1
<13> セレブ3型イエロー	80.8	66.4	51.6	8.5	37.5	6.7	3.8	3.6	6.2
<14> エレガンスシヤンパン	77.6	67.1	51.9	7.9	28.6	6.4	3.9	3.4	6.1
<15> PFタブルスノー	80.3	78.4	63.6	8.6	37.8	7.2	4.6	3.7	6.6
<16> オーブレット	83.6	78.7	63.5	7.7	43.7	7.1	3.9	4.1	6.0

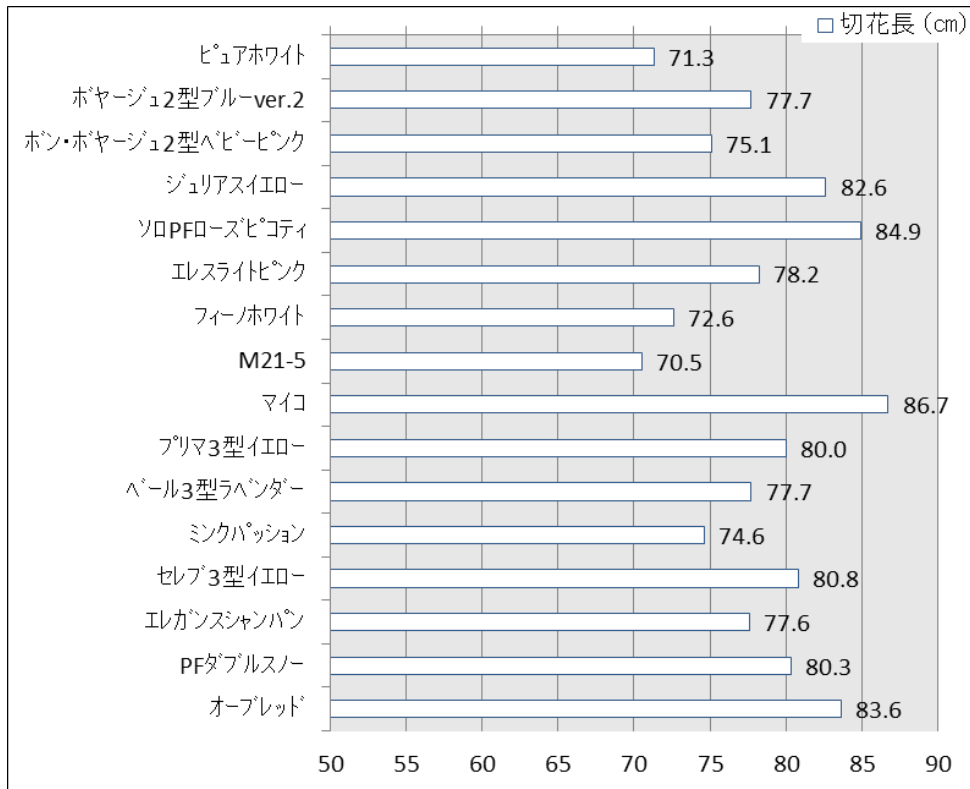


図1 切花長の比較

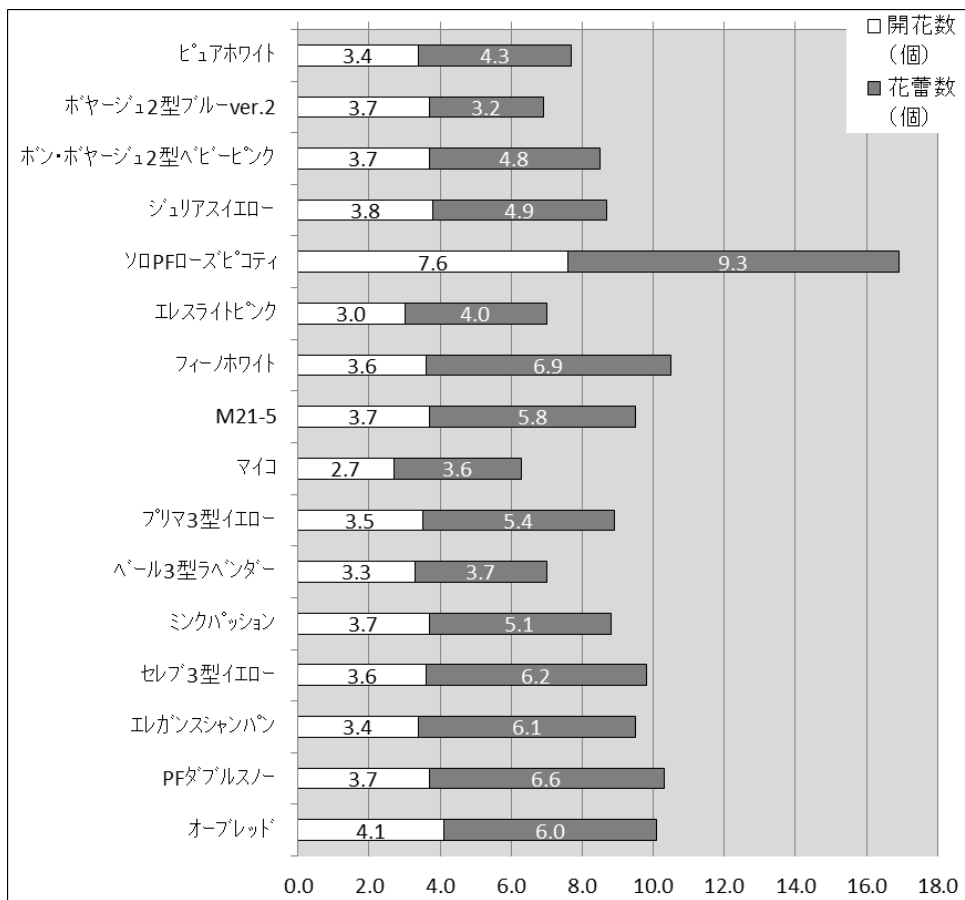


図2 開花数+花蕾数の比較



〈1〉ピュアホワイト



〈2〉ホヤージュ2型ブルー
ver. 2



〈3〉ボン・ホヤージュ2型
ベビーピンク



〈4〉ジュリアスイエロー



〈5〉ソロ PF ローズピンクイ



〈6〉エスライトピンク



〈7〉フィーノホワイト



〈8〉M21-5



〈9〉マイコ



〈10〉プリマ3型イエロー



〈11〉ベール3型ラベンダー



〈12〉ミンクパッション



〈13〉セラ3型イエロー



〈14〉エレガンスチャンパン



〈15〉PFダブルスノー



〈16〉オーブレット

花きの部 No. 3

項目：栽培技術調査

調査名：トルコギキョウの赤色 LED 電照栽培技術調査(9 月出荷) (継続：令和 3 年度～令和 4 年度)

- 1 目的 トルコギキョウの赤色 LED 電照処理により開花抑制が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 6 号 (165 m² : 約 50 坪)
- (2) 耕種概要
- 栽培方法 土耕栽培
 - は種年月日 令和 4 年 3 月 2 日
 - 育苗方法 セルトレイに播種、吸水後、5℃の暗黒下にて約 5 週間冷蔵処理、その後通常育苗
 - 定植年月日 令和 4 年 6 月 7 日
 - 栽植距離 ベッド幅 60 cm、株間 10 cm、条間 10cm、4 条植え(中 2 条抜き)
 - 定植株数 3,100 本/棟
 - 施肥量 N-P-K-Mg= 1.44-0.12-5.60-2.24 kg/a
(基肥) アルガ 215 (12-1-5-2) : 12.0 kg/a
硫酸加里 (K:50) : 10.0 kg/a
ハイクト (Mg:40) : 5.0 kg/a
- 8) 使用資材 白黒ダブルマルチ、10cm×6 目フラワーネット、メガクール、赤色 LED ライト (620nm~630nm)
- 9) 電照期間 調査区① 無電照
調査区② 令和 4 年 6 月 7 日～9 月 16 日
※16:00~8:00 16 時間電照
- 10) 収穫時期 令和 4 年 8 月 24 日～9 月 16 日
- 11) 薬剤散布 21 回 (成分回数)

(3) 調査区の構成

1) 調査区	14 区 (1 区 10 株、1 区制)					
2) 供試品種	No.	品種名	早晩性	花径	花色	会社名
	<1>	ジュリアスイエロー	中生	大	黄	カネコ種苗(株)
	<2>	ソロ PF ローズビコティ	中晩生	小	白桃	(株)サカタのタネ
	<3>	マイコ	中晩生	大	白	タキイ種苗(株)
	<4>	ベール 3 型ラベンダー	中晩生	大	薄紫	タキイ種苗(株)
	<5>	エレガンスジャンパン	中晩生	大	橙	住化農業資材(株)
	<6>	PF ダブルスノー	晩生	中	白	(株)サカタのタネ
	<7>	オブレット	晩生	大	赤	(株)サカタのタネ

- (4) 調査項目 開花、切花

3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果
開花時期は、いずれの品種においても赤色 LED 電照区が遅く、最大で 7 日程度の差が見られた。切花品質においても赤色 LED 電照区が優れ、電照の効果が確認された。
- (2) 生育
9 月出荷作型の品種比較調査結果と同様に、生育期序盤は株張りが良く順調であったが、6 月以降の高温の影響もあり、生育状況、開花時期ともに前進気味であった。
病害虫については開花期以降にアザミウマが散見された。
- (3) 開花
採花時期は、8 月 24 日から 9 月 16 日、盛期は 8 月 26 日から 9 月 14 日となった。いずれの品種においても赤色 LED 電照区の開花が遅く、最大で 7 日程度の差が見られた。

(3) 切花品質

切花長では、全調査区で 70 cm を超え、また、全ての品種で赤色 LED 電照区が無電照区に比べ長い結果となった。茎径、開花数及び花蕾数の合計等についても同様に赤色 LED 電照区が優れた結果となった。

また、本年は夏場の高温や日照の変動が大きかったために、ブラスチングの発生が散見される品種があったものの、赤色 LED 電照区は無電照区に比べ発生が少ない傾向にあった。

(4) 調査期間 2 箇年の結果

開花時期については、赤色 LED 電照区が総じて遅く、開花抑制効果が確認された。切花品質においても、概ね各項目で赤色 LED 電照区が優れた結果となり、品質向上も期待できる結果となった。また、無電照区と比べるとブラスチングの発生が少ない傾向にあった。

ただし、開花抑制・切花品質向上効果は品種によって異なり、晩生の品種ほどより効果が高い傾向であったから、本技術を活用する場合は、早晩性を踏まえたうえで品種の選定をする必要がある。

(5) 次年度以降の計画
完了

表 1 採花期

品種名	電照	採花期	
		(開始～終了)	(盛期)
<1> シュリアスイエロー	無電照	8/24 ~ 8/31	8/26
	赤色LED	8/30 ~ 9/ 8	9/ 5
<2> ソロPPローズ [®] ヒコティ	無電照	8/26 ~ 9/ 2	8/30
	赤色LED	8/31 ~ 9/12	9/ 6
<3> マイコ	無電照	8/26 ~ 9/ 2	8/30
	赤色LED	9/ 1 ~ 9/12	9/ 8
<4> ヘル3型ラベンダー	無電照	8/25 ~ 9/ 5	8/31
	赤色LED	9/ 5 ~ 9/12	9/ 7
<5> エレガ [®] ンスシャンパン	無電照	8/28 ~ 9/ 8	9/ 4
	赤色LED	9/ 6 ~ 9/14	9/ 9
<6> PFタ [®] ブルスノー	無電照	8/28 ~ 9/ 9	9/ 4
	赤色LED	9/ 6 ~ 9/16	9/14
<7> オブレット [®]	無電照	8/30 ~ 9/12	9/ 8
	赤色LED	9/ 7 ~ 9/16	9/14

表 2 切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝数 (本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)
<1> シュリアスイエロー	82.6	66.8	52.0	8.7	43.8	6.6	4.0	3.8	4.9
	電照区	83.0	68.1	52.9	8.4	39.7	6.9	3.7	3.6
<2> ソロPPローズ [®] ヒコティ	84.9	65.2	51.2	7.7	43.0	6.7	5.4	7.6	9.3
	電照区	88.1	73.6	57.4	8.2	43.3	6.9	5.7	7.6
<3> マイコ	86.7	71.4	48.9	8.1	37.8	6.9	2.6	2.7	3.6
	電照区	91.1	74.1	59.2	8.8	41.9	7.0	3.1	2.8
<4> ヘル3型ラベンダー	77.7	68.6	52.2	7.5	34.4	6.0	2.8	3.3	3.7
	電照区	81.0	67.7	52.7	7.8	33.3	6.5	3.1	3.5
<5> エレガ [®] ンスシャンパン	77.6	67.1	51.9	7.9	28.6	6.4	3.9	3.4	6.1
	電照区	80.2	72.4	55.0	7.9	30.0	6.6	3.8	3.7
<6> PFタ [®] ブルスノー	80.3	78.4	63.6	8.6	37.8	7.2	4.6	3.7	6.6
	電照区	83.5	79.1	57.7	8.6	40.3	7.2	4.5	3.4
<7> オブレット [®]	83.6	78.7	63.5	7.7	43.7	7.1	3.9	4.1	6.0
	電照区	87.9	79.1	63.2	8.2	39.7	7.1	3.9	3.7

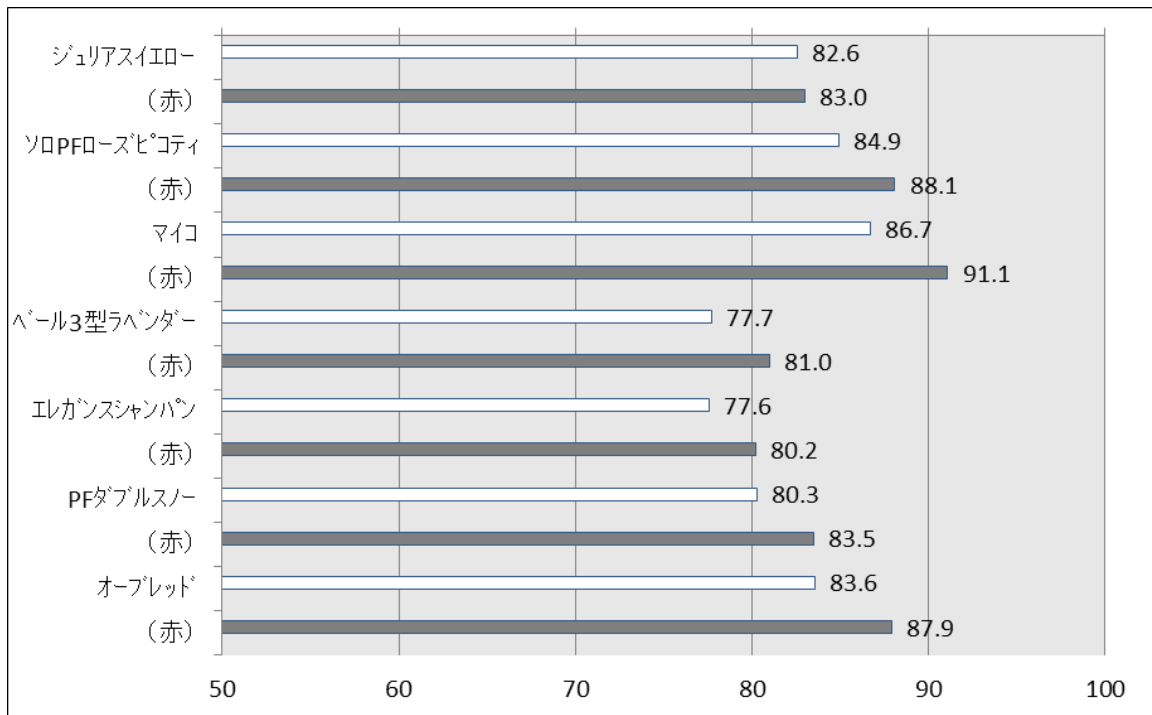


図1 切花長の比較 (cm)

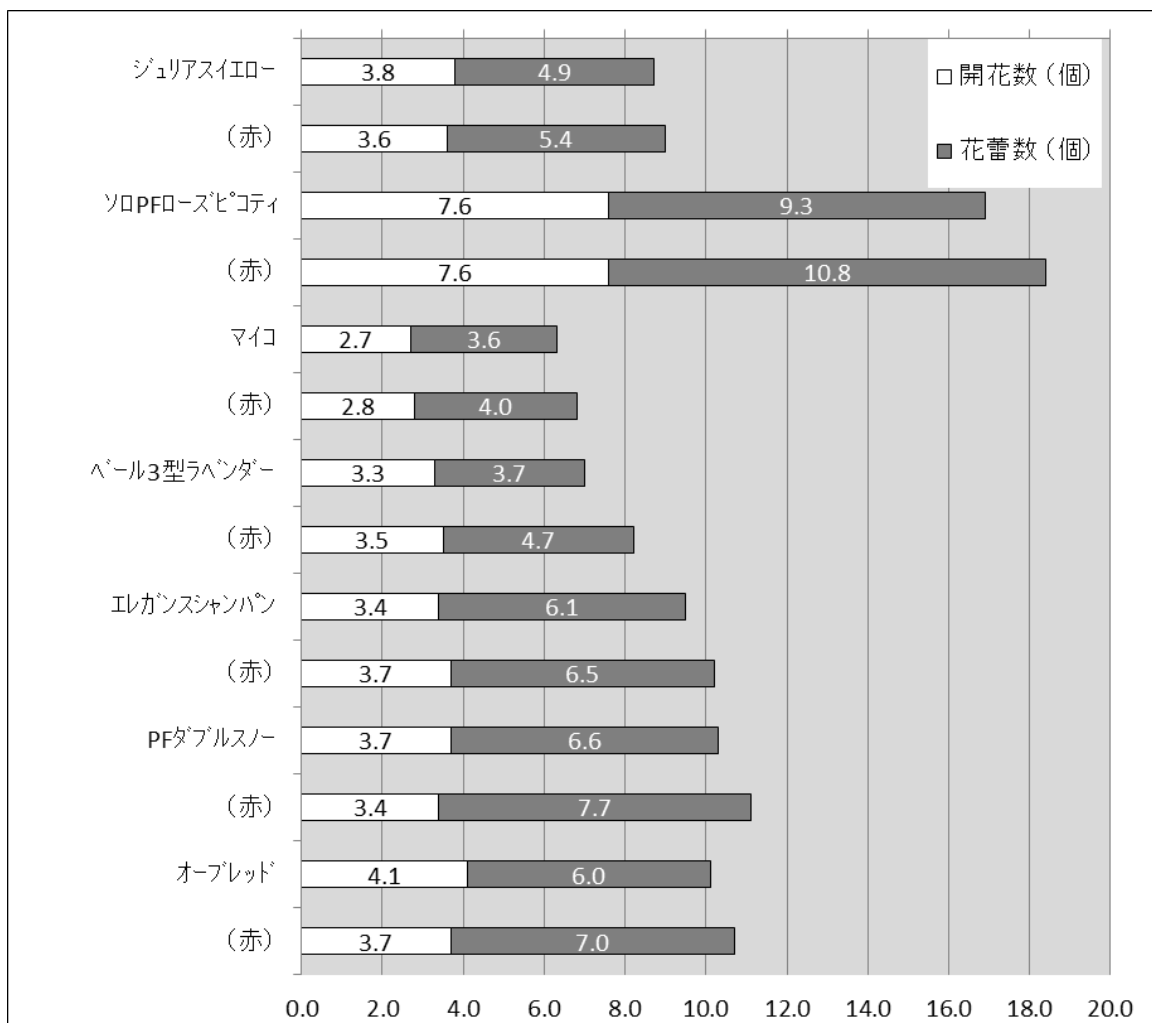


図2 開花数+花蕾数の比較

○令和3年度調査結果

表3 採花期

品種名	電照	採花期	
		(開始～終了)	(盛期)
〈1〉 マキアホリト	無電照	8/21 ~ 8/25	8/24
	赤色LED	8/24 ~ 9/ 3	8/31
〈2〉 シュリアスイエロー	無電照	8/23 ~ 8/31	8/25
	赤色LED	8/27 ~ 9/ 3	8/31
〈3〉 ソロPFローズ [®] ヒコティ	無電照	8/24 ~ 9/ 3	8/31
	赤色LED	8/27 ~ 9/ 8	9/ 3
〈4〉 海しずか	無電照	8/23 ~ 8/31	8/26
	赤色LED	9/ 2 ~ 9/10	9/ 7
〈5〉 セミファイナルローズ [®]	無電照	8/27 ~ 9/ 6	8/31
	赤色LED	9/ 2 ~ 9/10	9/ 7
〈6〉 ラルコ [®] マリン	無電照	8/24 ~ 8/31	8/26
	赤色LED	8/30 ~ 9/ 8	9/ 3
〈7〉 PFタ [®] ブルスノー	無電照	8/25 ~ 9/ 3	8/27
	赤色LED	8/31 ~ 9/ 8	9/ 6

表4 切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝数 (本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)
〈1〉 マキアホリト	71.9	53.5	40.3	7.1	45.7	6.6	3.6	3.8	7.9
	電照区	72.6	51.1	38.6	7.1	48.9	6.9	3.8	3.6
〈2〉 シュリアスイエロー	70.9	60.0	45.2	6.7	44.8	6.1	3.4	3.5	6.6
	電照区	72.4	61.8	46.7	6.8	47.4	6.3	3.6	3.5
〈3〉 ソロPFローズ [®] ヒコティ	72.6	51.8	38.4	7.8	47.0	5.2	6.1	4.6	10.1
	電照区	80.0	60.6	47.6	8.1	48.5	5.6	6.3	4.8
〈4〉 海しずか	70.0	55.3	41.6	7.0	48.5	5.8	4.0	3.6	5.9
	電照区	82.3	66.4	52.5	7.6	52.9	6.4	4.0	3.4
〈5〉 セミファイナルローズ [®]	85.2	64.5	50.3	8.3	51.2	7.2	3.4	3.4	6.1
	電照区	93.1	71.8	54.5	8.5	56.6	7.5	3.7	3.6
〈6〉 ラルコ [®] マリン	81.6	62.7	46.9	8.3	50.8	6.6	3.7	3.3	6.2
	電照区	92.4	71.9	55.2	8.5	57.2	6.8	3.9	3.6
〈7〉 PFタ [®] ブルスノー	82.5	60.5	44.9	7.4	47.9	6.0	3.3	3.8	6.7
	電照区	87.6	65.1	50.1	7.8	54.4	6.4	3.6	3.9

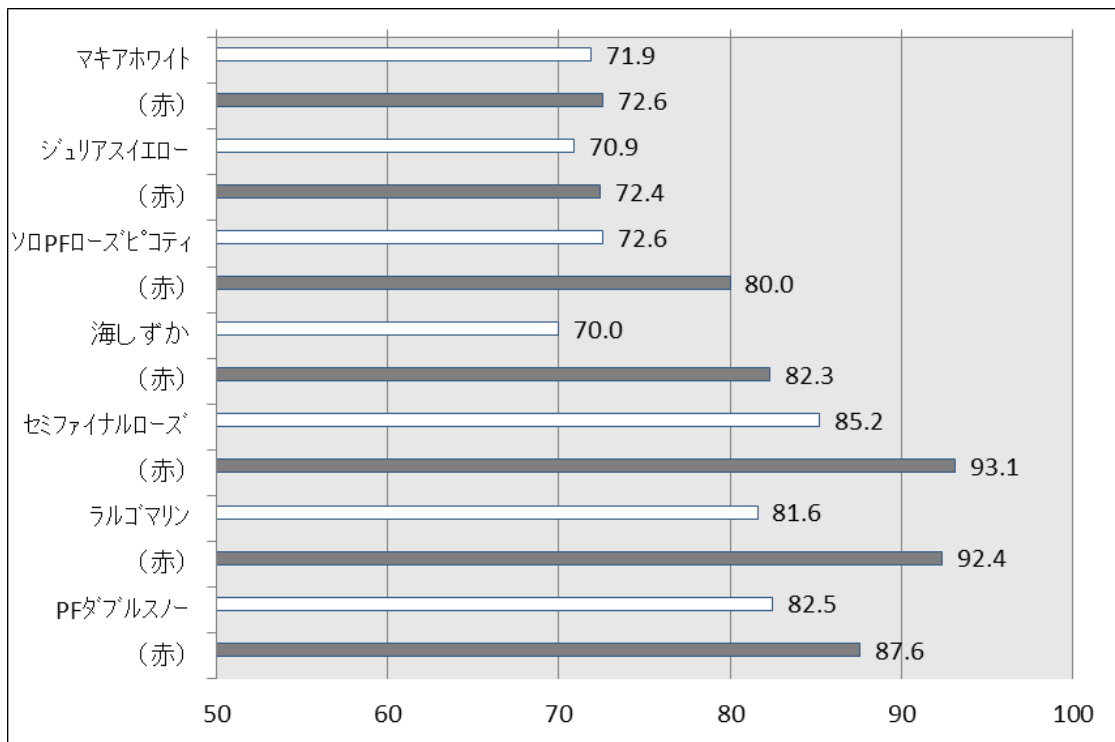


図3 切花長の比較 (cm)

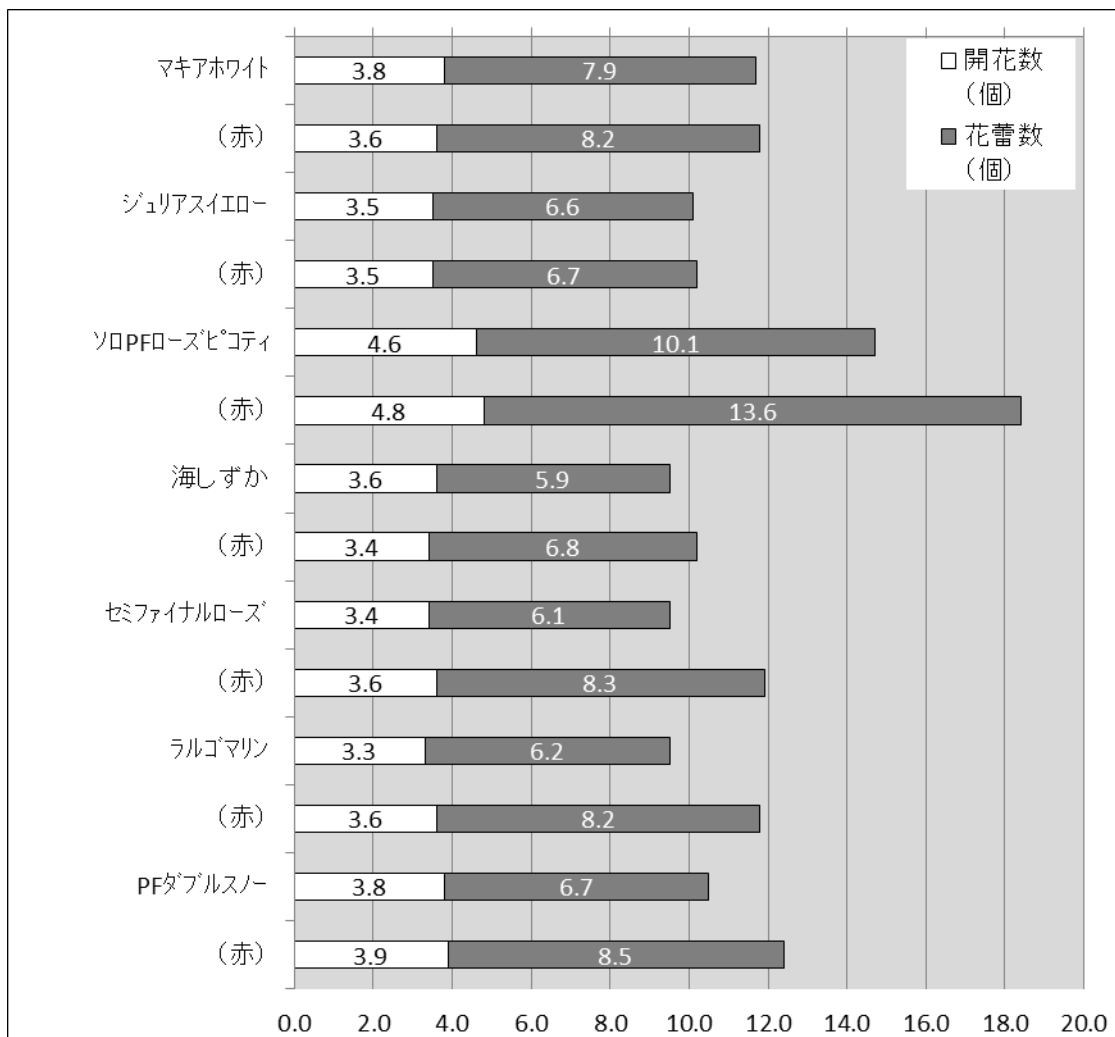


図4 開花数+花蕾数の比較

花きの部 No. 4

項目：栽培技術調査

調査名：カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（継続：令和 2 年度～令和 6 年度）

1 目的 カンパニュラの赤色 LED 電照処理により開花促進が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 9 号 (99 m² : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 栽培方法 土耕栽培
 - は種年月日 令和 3 年 9 月 30 日
 - 定植年月日 令和 3 年 11 月 12 日
 - 仕立て法 調査区②令和 3 年 12 月 28 日に摘心
調査区①、③、④令和 4 年 1 月 6 日に摘心
 - 栽植距離 ベッド幅 60 cm、株間 20 cm、条間 40cm、2 条植え(中 1 条抜き)
 - 定植株数 540 株/棟
 - 施肥量 N-P-K=1.00-1.05-1.80 kg/a
(基肥) ビオン 068 (10-6-8) : 10.0 kg/a
パワーリン (P:30) : 1.5 kg/a
硫酸加里 (K:50) : 2.0 kg/a
 - 使用資材 バイオ 21、黒マルチ、赤色 LED ライト (620nm~630nm)、
20cm×3 目フラワーネット
 - 電照期間 調査区① 無電照
調査区② 令和 3 年 11 月 12 日 (定植後) ~収穫期まで
調査区③ 令和 4 年 1 月 6 日 (摘心後) ~収穫期まで
調査区④ 令和 4 年 2 月 1 日~収穫期まで
いずれも 22 : 00~2 : 00 (暗期中断)
 - 収穫時期 令和 4 年 4 月 15 日~5 月 30 日
 - 保温 内カーテン (令和 3 年 11 月 12 日~令和 4 年 4 月 10 日)
パスライトトンネル(令和 3 年 11 月 12 日~令和 4 年 3 月 11 日)
 - 薬剤散布 15 回 (成分回数)
- (3) 調査区の構成
- 調査区 16 区 (1 区 5 株、1 区制)
 - 供試品種
- | No. | 品種名 | 花色 | 会社名 |
|-----|-------------------|----|-----------|
| <1> | チャンピオンホワイト | 白 | (株)サカタのタネ |
| <2> | チャンピオンスカイブルー | 青紫 | (株)サカタのタネ |
| <3> | チャンピオン IQ ピンク | 桃 | (株)サカタのタネ |
| <4> | チャンピオン IQ ディープブルー | 濃紫 | (株)サカタのタネ |
- (4) 調査項目 開花、切花

3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果
全品種で、電照を開始した順に伴い開花時期も早まった。切花品質においては無電照区が最も優れた結果となった。
- (2) 本年度の結果
- 生育
採花期にアザミウマの発生が散見されたものの概ね順調な生育であった。
生育期前半は灌水を多めに行い株張りを促進させ、後半は灌水を控えめにしたことにより、茎が硬く仕上がり首曲がりは見られなかったが、茎の空洞化の症状が見られ、全体の切花重の低下に影響したと考えられる。
栽培期間中の生育調査では、いずれの時点においても調査区②の生育が早いことが確認された。

- 2) 開花
開花は、全調査区の中で調査区②のチャンピオンホワイトが最も早く、採花時期は4月15日～4月25日、盛期は4月18日となった。
また、いずれの品種においても調査区②の採花時期が早く、調査区①が最も遅い結果となり、電照開始時期に関わらず赤色LEDによる開花促進効果が認められた。
- (3) 切花品質
切花長では、調査区②以外は全品種80cmを超えた。また、全ての品種で調査区①が長い結果となった。
切花重では、全品種で調査区①が重かった。
茎径では、全品種で調査区①が太かった。
花蕾数では、全品種で調査区①が多かった。
花径では、電照の有無及び電照開始時期による大きな差は見られなかった。
- (4) 考察
昨年度同様、採花時期については調査区②が総じて早い結果となったが、切花品質においては無電照の調査区①が優れていた。
今回の試験では、他品種に比べ草勢が強いチャンピオンシリーズに限定した品種構成としたところ、調査区②でもある程度の切花品質を確保することができた。また、調査区ごとの花径の差はほぼ見られなかったことから、電照による花の大きさ等への影響は無いことが確認された。
また、早くから電照を開始したほうが開花は早まるものの、切花品質は劣る傾向は変わらず、現時点で開花促進効果と切花品質の両面でバランスが良いのは、摘心後に電照を開始する調査区③であると考えられる。
今後も、電照開始時期や定植時期等について調査し、開花促進しつつ切花品質も向上できるよう検討していきたい。
- (5) 次年度以降の計画
継続

表1 採花期

品種名	調査区	採花期	
		(開始～終了)	(盛期)
チャンピオンホワイト	調査区①	5/10～5/19	5/12
	調査区②	4/15～4/25	4/18
	調査区③	4/26～5/6	5/2
	調査区④	4/30～5/6	5/3
チャンピオンスカイブルー	調査区①	5/10～5/19	5/13
	調査区②	4/18～4/25	4/21
	調査区③	4/27～5/6	5/2
	調査区④	5/1～5/7	5/4
チャンピオンIQピンク	調査区①	5/13～5/23	5/20
	調査区②	4/25～5/4	5/1
	調査区③	4/30～5/7	5/3
	調査区④	5/3～5/11	5/8
チャンピオンIQディープブルー	調査区①	5/18～5/30	5/23
	調査区②	4/20～4/29	4/26
	調査区③	4/28～5/6	5/3
	調査区④	5/2～5/19	5/6

表 2 切花調査

品種名	電照	切花長 (cm)	切花重 (g)	花穂長 (cm)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	花蕾数 (個)	花径 (cm)
チャンピオンホワイト	調査区①	110.9	84.4	50.1	8.7	70.8	19.5	4.8
	調査区②	78.8	53.6	44.7	6.8	50.3	13.1	4.9
	調査区③	84.2	66.5	44.6	7.2	61.6	14.7	5.3
	調査区④	95.2	74.4	49.9	7.5	70.9	17.4	5.2
チャンピオンスカイブルー	調査区①	85.4	69.2	45.0	8.5	57.5	17.0	4.4
	調査区②	76.6	41.2	42.4	6.4	48.0	9.2	4.9
	調査区③	81.8	50.5	47.1	6.8	58.9	11.6	5.3
	調査区④	82.2	55.8	46.1	7.4	61.5	15.8	5.3
チャンピオンIQピンク	調査区①	105.3	97.1	45.9	9.2	78.2	20.5	4.7
	調査区②	84.0	60.4	43.5	7.2	60.3	14.3	5.2
	調査区③	84.9	56.6	49.5	7.3	59.8	13.1	5.5
	調査区④	95.7	73.7	48.5	8.6	74.5	17.3	4.9
チャンピオンIQディープブルー	調査区①	92.2	79.7	47.0	9.1	74.0	17.6	5.0
	調査区②	81.3	52.3	45.3	6.8	56.6	13.3	5.2
	調査区③	80.5	50.3	46.0	7.6	49.1	9.9	4.8
	調査区④	90.6	71.9	45.8	8.5	68.6	15.2	5.3

花きの部 No. 5

項目：品種比較調査

調査名：ディスプレイマムの品種比較調査(8月出荷) (継続：令和3年度～令和4年度)

- 1 目的 今後、当地域の有望花き品目として期待されるディスプレイマムについて、8月出荷作型における栽培技術及び品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス8号 (99 m² : 約30坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
 - 2) 定植年月日 令和4年5月13日 (直挿し)
 - 3) 栽植距離 ベッド幅80cm、株間10cm、条間10cm、6条植え (中2条抜き)
 - 4) 定植株数 3,600本/棟
 - 5) わい化剤処理 令和4年7月8日、26日 ビーナイン顆粒水溶剤1,000倍
 - 6) 施肥量 N-P-K-Mg=0.48-0.04-0.20-0.08 kg/a
(基肥) アルガ215 (12-1-5-2) : 4.0 kg/a
 - 7) 使用資材 10cm×8目フラワーネット、黒マルチ
 - 8) 電照期間 令和4年5月13日～6月27日 22:00～3:00 (暗期中断)
 - 9) シェード管理 令和4年6月27日～8月12日 17:30～6:30 (11時間日長)
 - 10) 収穫時期 令和4年7月24日～8月12日
 - 11) 薬剤散布 28回 (成分回数)

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 12区 (1区10株、1区制)

2) 供試品種

No.	品種名	花色	会社名
<1>	アビーフレーム	オレンジ	(株)テリフォルジヤパン
<2>	マラケシュ	オレンジ	(株)テリフォルジヤパン
<3>	ブレイク	ピンク	(株)テリフォルジヤパン
<4>	クチュール	ピンク	(株)テリフォルジヤパン
<5>	フォーキャスト	ダークピンク	(株)テリフォルジヤパン
<6>	レトニック	ホワイト	(株)テリフォルジヤパン
<7>	エビデンス	ホワイト	(株)テリフォルジヤパン
<8>	アルペラ	ライトグリーン	(株)テリフォルジヤパン
<9>	スケーター	グリーン	(株)テリフォルジヤパン
<10>	フェゴダーク	レッド/イエロー	(株)テリフォルジヤパン
<11>	レモンハット	ダークイエロー	(株)テリフォルジヤパン
<12>	タンボーラ	ブロンズ	(株)テリフォルジヤパン

- (4) 調査項目 開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

全品種において病害発生は見られなかったものの、発蕾期以降にハダニ類の発生が散見された。

7月11日から、脇芽かきを順次行った。

やなぎ芽及びやなぎ葉については、「マラケシュ」、「クチュール」、「フェゴダーク」の一部において発生が見られた。

(2) 開花

採花時期は、7月24日から8月12日となった。採花の盛期は7月28日から8月9日となり、全品種において盆前が採花盛期となった。

- (3) 切花品質
 切花長では、全品種で90cmを超え、「レドニック」で最も長く127.5cm、「フエゴダーク」で最も短く99.6cmとなった。
 切花重では、「フォーキャスト」で最も重く94.3gとなった。
 花首長では、「ブレイク」が1cm台となった。
 茎径では、「レドニック」、「スケーター」で最も太く7.6mmとなった
- (4) その他
 春先は天候が良く、気温が高く推移した影響もあり、全体的に生育が早く徒長してしまう傾向にあったものの、「アビーフレーム」、「ブレイク」、「スケーター」は節間も伸びすぎず、草姿が整っていた。
 「アビーフレーム」、「ブレイク」、「タンボーラ」は、生育の揃いが良く、他の品種に比べロスが少なかった。
 耐暑性について、高温障害の影響は全体で見ると少なかったものの、「エビデンス」においては本来の純白色ではなくクリーム色が目立つ個体が散見された。
 また、「クチュール」は生育中期頃から葉縁の黄化が見られ、原因は判然としないものの、生育環境に影響を受けやすい傾向がある品種であると考えられる。
- (5) 次年度以降の計画
 完了

表1 採花期

品種名	採花期	
	(開始～終了)	(盛期)
<1> アビーフレーム	8/ 5～ 8/10	8/ 8
<2> マラケシュ	7/24～ 8/ 2	7/28
<3> ブレイク	8/ 6～ 8/10	8/ 8
<4> クチュール	8/ 1～ 8/ 7	8/ 4
<5> フォーキャスト	8/ 3～ 8/ 8	8/ 5
<6> レドニック	7/24～ 8/ 2	7/28
<7> エビデンス	8/ 1～ 8/ 8	8/ 4
<8> アルベラ	7/31～ 8/ 4	8/ 3
<9> スケーター	8/ 5～ 8/10	8/ 7
<10> フエゴダーク	8/ 6～ 8/12	8/ 9
<11> レモンハット	8/ 4～ 8/ 9	8/ 6
<12> タンボーラ	8/ 1～ 8/ 8	8/ 5

表2 切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	花首長 (cm)	茎径 (mm)	花径 (cm)
<1> アビーフレーム	104.7	70.3	2.4	6.2	6.8
<2> マラケシュ	118.3	78.5	4.1	7.1	8.4
<3> ブレイク	125.6	77.1	1.6	7.0	6.7
<4> クチュール	114.0	88.4	3.1	7.3	11.6
<5> フォーキャスト	107.8	94.3	2.7	7.1	15.2
<6> レドニック	127.5	79.1	3.7	7.6	12.0
<7> エビデンス	118.6	76.0	2.5	7.3	9.9
<8> アルベラ	106.4	81.3	2.8	6.4	8.4
<9> スケーター	104.9	92.9	2.3	7.6	13.2
<10> フエゴダーク	99.6	76.8	2.5	7.3	9.9
<11> レモンハット	110.4	60.7	2.4	6.7	5.8
<12> タンボーラ	106.4	78.0	2.2	6.6	8.5



〈1〉 アビーフレーム



〈2〉 マラケシュ



〈3〉 ブレイク



〈4〉 クチュール



〈5〉 フォーキヤスト



〈6〉 レドニック



〈7〉 エビデンス



〈8〉 アルベラ



〈9〉 スケーター



〈10〉 フエグダーク



〈11〉 レモンハット



〈12〉 タンボーラ

2-5 調査成績（耕畜連携推進事業パートナー制度）

調査名：ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討

- 1 目的 「発酵鶏糞堆肥」の適正な施用について調査・研究し、家畜排泄物を利用した堆肥、肥料の利用を促進するとともに循環型農業の普及を図る。

2 調査方法

(1) 調査場所 露地ほ場

(2) 耕種概要

- 1) 植付月日 令和4年5月31日
 2) 栽植距離 うね幅 120 cm、株間 21 cm
 3) 植付本数 3,968 本/10a
 4) 種 いも
 ①切片子：80～100g
 ②切片子：100～120g

5) 施肥量

調査区①

N-P-K=24.9-42.3-27.8kg/10a

【基肥】発酵鶏糞堆肥(2.4-6.1-3.7)：104kg/10a

パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：80kg/10a

令和4年6月21日

【追肥】発酵鶏糞堆肥(2.4-6.1-3.7)：108kg/10a×4回

令和4年7月12日、19日、30日、8月11日

調査区②

N-P-K=24.9-42.1-16.6kg/10a

【基肥】パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：166kg/10a

パワーリン(P:30%)：74kg/10a

調査区 資材	施肥量 (kg/10a)	成分量 (kg/10a)		
		N	P	K
① 【基肥】				
発酵鶏糞堆肥	104	2.5	6.3	3.8
パワーアップながいも	80	12.0	9.6	8.0
【追肥】				
発酵鶏糞堆肥	432	10.4	26.4	16.0
②				
パワーアップながいも	166	24.9	19.9	16.6
パワーリン	74	0.0	22.2	0.0

6) 収穫月日

令和4年12月6日

7) 薬剤散布

12回(成分回数)

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 8区(1区6.3m(30本)、1区制)
 2) 供試品種 <1>園試系6
 <2>庄司系

(4) 調査項目

生育、収量、品質

3 結果の概要

(1) 昨年度の結果

発酵鶏糞堆肥施用区は、「パワーアップながいも」のみの慣行区との比較で、収量は9割を超え、A品率はやや下回る結果となった。また、発酵鶏糞堆肥施用区は肥料切れによると思われる尻部の奇形は慣行区と同程度となった。

(2) 本年度の結果

1) 生育

萌芽揃期は6月17日頃であった。

6月下旬から9月にかけて大雨や日照不足が続いた影響により、茎葉の量は例年に比べやや少なかった。9月中旬頃から徐々に茎葉の黄化が始まったが、進行は施肥の違いで大きな差は見受けられなかった。また、大雨による穴落ちは表面上見られなかったが、滞水や肥料切れによるとみられるコブ・リングが多数みられる結果となった。

病害虫については、8月以降に葉渋病が発生した。

2) 収量

いも重及び10a換算収量において、種いも重での比較は、「園試系6」では施肥方法が同じ調査区間において100～120gが約1割多かったが、「庄司系」では80～100gが約1割多く、種いも重の増減による収量への効果は判然としなかった。また、施肥方法での比較は、「園試系6」では種いも重にかかわらず慣行区が約2割多かったが、「庄司系」では同等となった。

規格別収量および収量割合において、種いも重での比較は判然としなかったが、施肥方法での比較は、発酵鶏糞堆肥施用区では2LまたはLサイズの割合が最も多くなったのに対し、慣行区では4Lから2Lサイズの割合が多い傾向となった。

3) 品質

A品率において、種いも重での比較は、数値にばらつきがあり判然としなかった。また、施肥方法の比較では慣行区が高かった。いも長は慣行区が上回ったが、長径は同等もしくは発酵鶏糞堆肥施用区が上回った。

落等要因はコブ・リングが多かったが、発酵鶏糞堆肥施用区では尻部、慣行区では胴部が多くなる傾向がみられた。また、曲がりや胴部のボリューム不足がみられたが発生率にばらつきがあり、傾向は判然としなかった。

前回の結果では、A品率において発酵鶏糞堆肥施用区がやや下回ったものの尻部のコブ・リングの発生は慣行区と同程度であった。このことから今回の調査では、種いも重を増やすことで施肥方法の違いによる収量の差を小さくできるか検討した。

しかしながら、今回は6月下旬から大雨が続いたことで肥料切れになりやすい状況となり、収量においては品種間で数値のばらつきがみられたことから、種いも重の増加による効果は判然としなかった。

品質においては、肥料切れや滞水によると思われる尻部のコブ・リングの発生が発酵鶏糞堆肥施用区でより多かったことから、降雨が多い年では慣行区に比べ品質が安定しにくい傾向がうかがえた。

ただし、令和4年は降雨が極端に多かった影響により傾向が判然としない項目が多かったことから、引続き検討が必要と思われた。

表1 収量調査

調査区名	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	長径 (mm)	A品 率(%)	10a換算 収量(kg)	外品 (kg/10a)	10a換算販売 収量(kg)	
園試系6	80 堆肥+化成	69.2	751.2	48.2	718.6	49.5	13.0	2,852	205	2,646
	～100g 化成	84.8	901.3	60.5	861.3	50.3	41.5	3,418	180	3,238
	100 堆肥+化成	71.0	803.1	49.5	769.2	55.3	2.9	3,052	143	2,910
	～120g 化成	103.3	973.9	59.5	930.6	52.9	43.7	3,693	0	3,693
庄司系	80 堆肥+化成	74.7	941.9	52.6	902.2	56.6	19.3	3,580	13	3,567
	～100g 化成	82.7	934.6	57.1	881.2	52.3	55.2	3,497	38	3,458
	100 堆肥+化成	69.6	846.2	49.1	808.4	54.5	11.2	3,208	59	3,149
	～120g 化成	79.9	856.2	55.3	808.2	50.5	19.5	3,207	149	3,059

※10a換算収量=いも重×植付数(3,968本/10)。10a換算販売収量=10a換算収量-外品。

表 2 規格別収量及び収量割合

調査区名	項目	4L	3L	2L	L	M	S	2S	規格外	合計	
園試系6	80 堆肥+化成	収量(kg/10a)	0	0	1,292	1,384	71	66	0	39	2,852
		割合(%)	(0)	(0)	(45.3)	(48.5)	(2.5)	(2.3)	(0)	(1.4)	
	~100g 化成	収量(kg/10a)	327	986	1,260	695	0	115	0	35	3,418
		割合(%)	(9.6)	(28.8)	(36.9)	(20.3)	(0)	(3.4)	(0)	(1.0)	
	100 堆肥+化成	収量(kg/10a)	351	145	1,161	1,047	204	0	144	0	3,052
		割合(%)	(11.5)	(4.8)	(38.0)	(34.3)	(6.7)	(0)	(4.7)	(0)	
	~120g 化成	収量(kg/10a)	882	719	1,340	572	74	61	45	0	3,693
		割合(%)	(23.9)	(19.5)	(36.3)	(15.5)	(2.0)	(1.6)	(1.2)	(0)	
庄司系	80 堆肥+化成	収量(kg/10a)	331	1,248	1,334	593	0	61	0	13	3,580
		割合(%)	(9.2)	(34.9)	(37.3)	(16.5)	0.0	(1.7)	(0)	(0.4)	
	~100g 化成	収量(kg/10a)	1,062	722	728	577	140	230	0	38	3,497
		割合(%)	(30.3)	(20.7)	(20.8)	(16.5)	(4.0)	(6.6)	(0)	(1.1)	
	100 堆肥+化成	収量(kg/10a)	564	581	590	1,141	216	57	0	59	3,208
		割合(%)	(17.6)	(18.1)	(18.4)	(35.6)	(6.7)	(1.8)	(0)	(1.8)	
	~120g 化成	収量(kg/10a)	349	1,000	829	749	75	54	88	63	3,207
		割合(%)	(10.9)	(31.2)	(25.8)	(23.4)	(2.3)	(1.7)	(2.7)	(2.0)	

表 3 等級割合 (%)

調査区名	A	B	C	平	D	等級外	
園試系6	80 堆肥+化成	13.0	7.7	61.3	0.0	10.8	7.2
	~100g 化成	41.5	20.9	32.3	0.0	0.0	5.3
	100 堆肥+化成	2.9	3.3	57.7	0.0	31.4	4.7
	~120g 化成	43.7	24.6	22.5	0.0	9.2	0.0
庄司系	80 堆肥+化成	19.3	13.2	53.1	0.0	14.0	0.4
	~100g 化成	55.2	29.8	13.9	0.0	0.0	1.1
	100 堆肥+化成	11.2	1.8	70.1	0.0	15.1	1.8
	~120g 化成	19.5	34.5	30.8	0.0	10.6	4.6

表 4 障害発生率 (本数%)

調査区名	平	下部 長方形	コブ・リング		曲がり	ボリューム 不足	他	
			胴部	尻部				
園試系6	80 堆肥+化成	0.0	3.3	10.0	60.0	13.3	6.7	6.7
	~100g 化成	0.0	0.0	30.0	6.7	3.3	0.0	23.3
	100 堆肥+化成	0.0	0.0	13.3	76.7	6.7	3.3	3.3
	~120g 化成	0.0	0.0	36.7	10.0	10.0	6.7	6.7
庄司系	80 堆肥+化成	0.0	0.0	30.0	36.7	16.7	0.0	13.3
	~100g 化成	0.0	0.0	20.0	6.7	10.0	0.0	6.7
	100 堆肥+化成	0.0	0.0	20.0	70.0	0.0	3.3	0.0
	~120g 化成	0.0	0.0	30.0	20.0	23.3	10.0	16.7

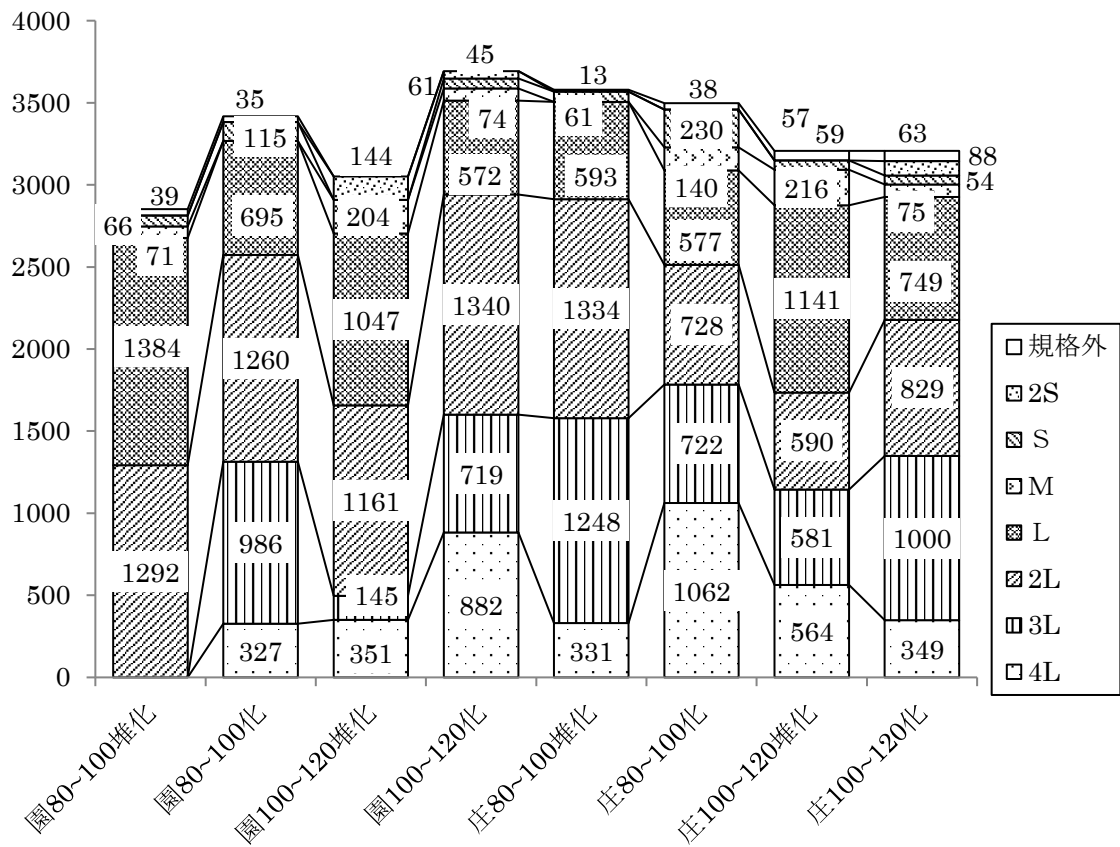


图1 规格别収量 (kg/10a)

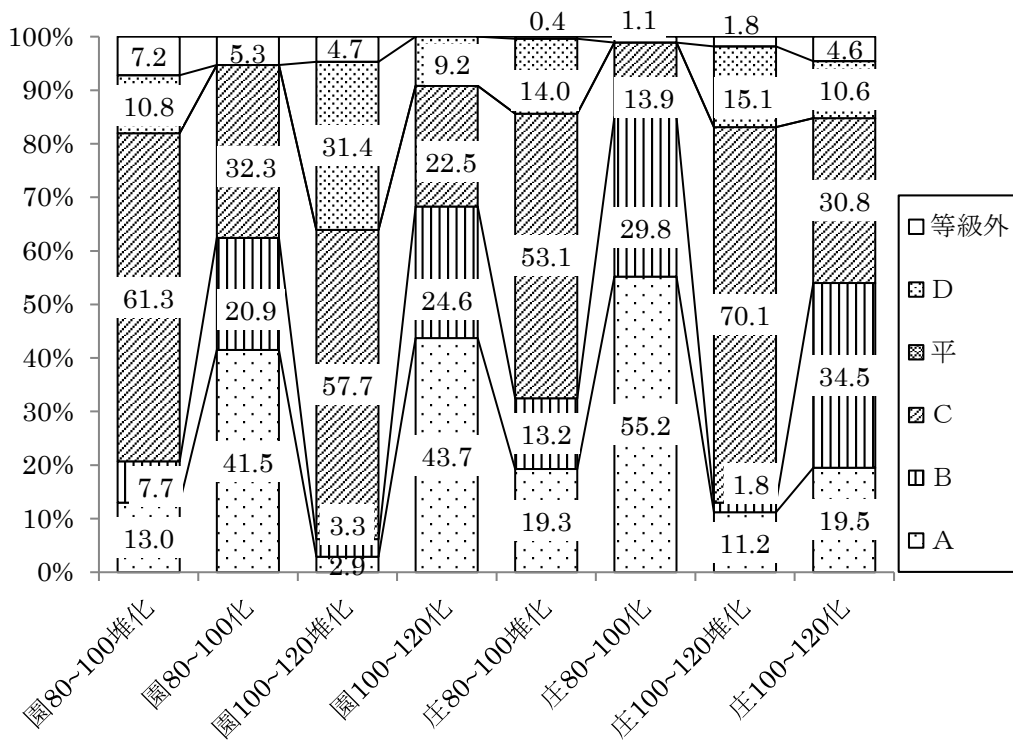


图2 等級割合



園試系 6 80~100g 堆肥+化成



園試系 6 80~100g 化成



園試系 6 100~120g 堆肥+化成



園試系 6 100~120g 化成



庄司系 80~100g 堆肥+化成



庄司系 80~100g 化成



庄司系 100~120g 堆肥+化成



庄司系 100~120g 化成

2 - 6 土壌分析

1 目的

農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。

また、当市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。

2 分析実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
依頼数(人)	13	5	12	14	29	6	17	40	103	23	13	55	330
サンプル数(件)	39	10	37	26	54	21	71	87	177	62	52	116	752
分析数	390	100	370	252	532	210	694	870	1,770	556	520	1,008	7,210

3 分析項目

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 1) pH (H ₂ O・KCl) | 6) CEC (塩基置換容量) |
| 2) EC (電気伝導度) | 7) 置換性カルシウム |
| 3) 硝酸態窒素 | 8) 置換性マグネシウム |
| 4) 有効態リン酸 | 9) 置換性カリウム |
| 5) リン酸吸収係数 | 10) 水分 |

4 定点観測地点の概要

地区名	地点数		対象作物	
市川地区	24	22	いちご	施設
		1	ミニトマト	
		1	花き	
下長地区	5	2	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		1	花き	
上長地区	3	2	ピーマン	露地
		1	食用菊	
豊崎地区	2	1	にんにく	露地
		1	ながいも	
館地区	8		ミニトマト	施設
是川地区	20	1	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		4	きゅうり	
		1	花き	
		3	ながいも	露地
		4	夏ねぎ	
		5	秋ねぎ	
旧市内地区	3		トマト・ミニトマト	施設
南郷地区	4	1	トマト	施設
		1	きゅうり	露地
		2	そば	

施設野菜（いちご）：25 地点

施設野菜（トマト・ミニトマト・きゅうり）：22 地点

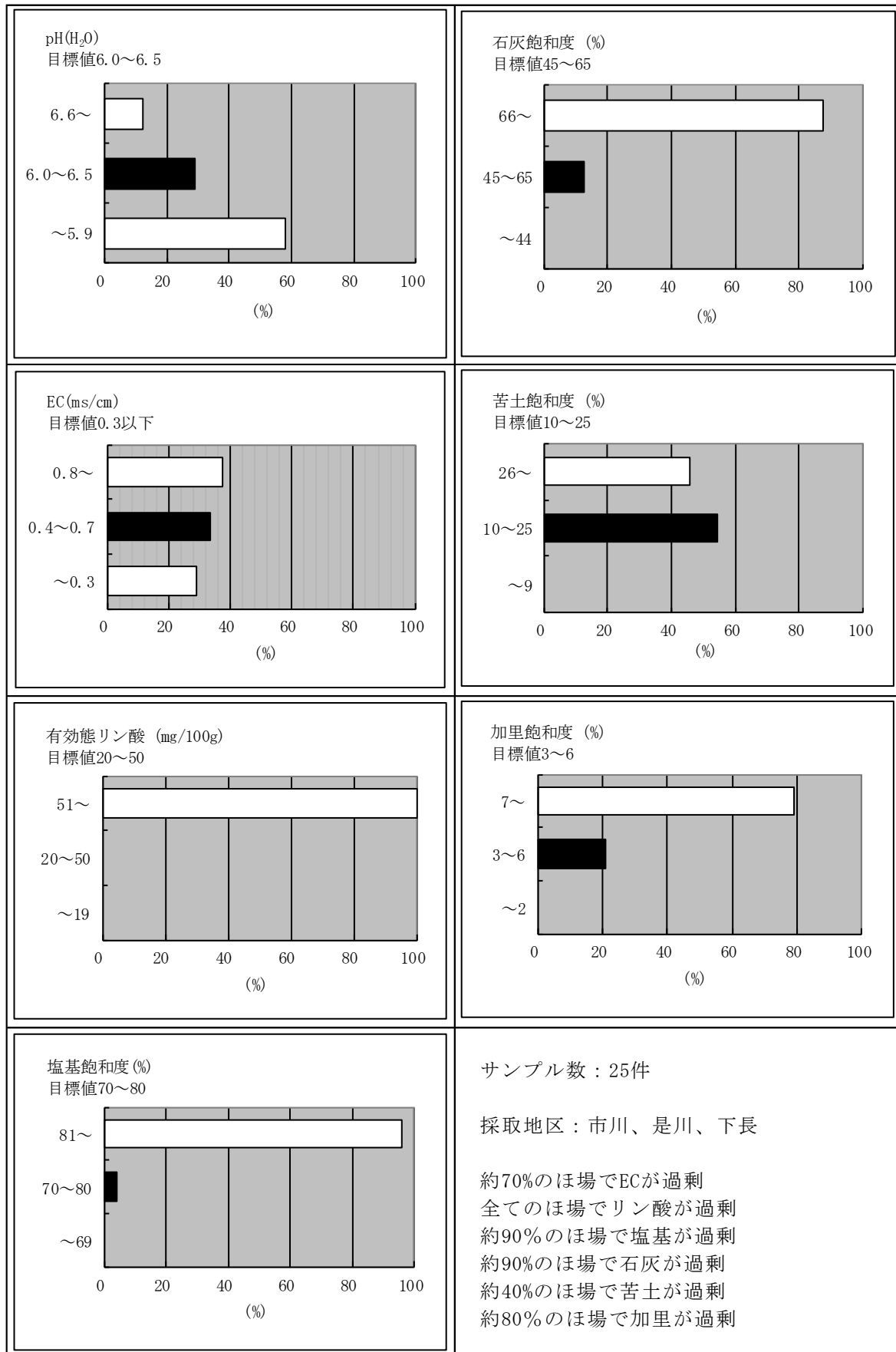
花き：3 点

露地野菜（にんにく・ながいも・ねぎ等）：19 地点

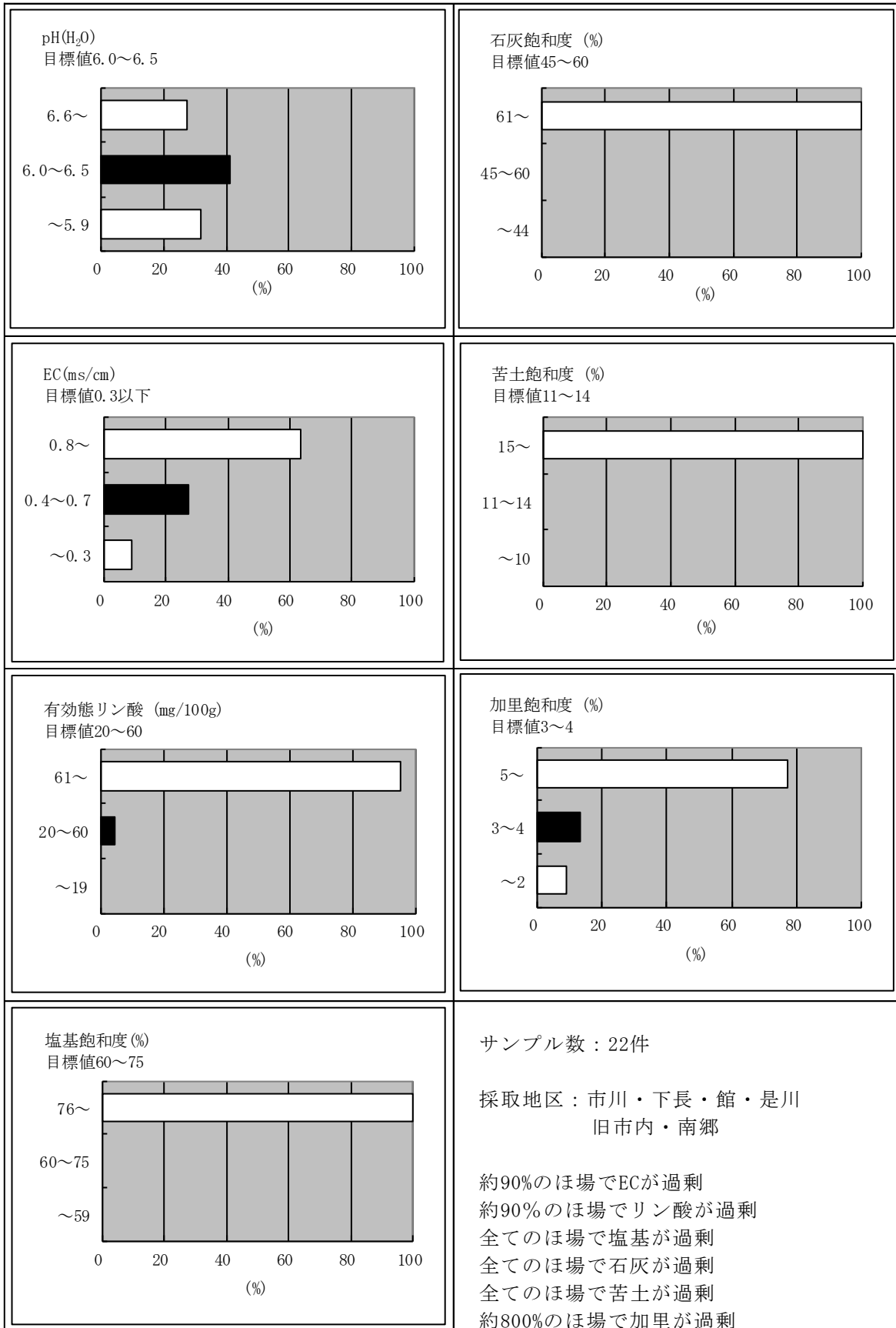
合計 69 地点

5 分析結果

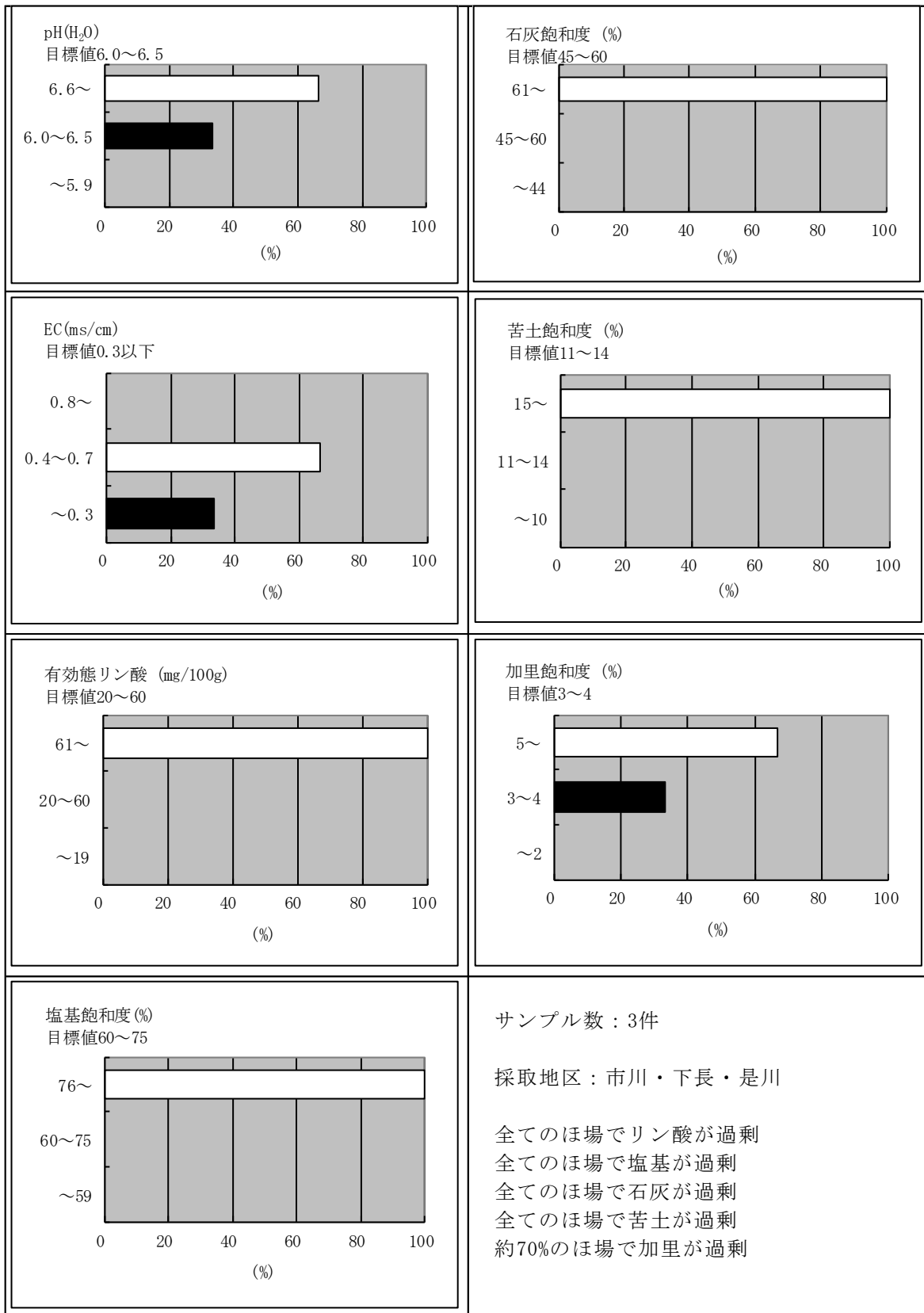
(1) 施設野菜 (いちご)



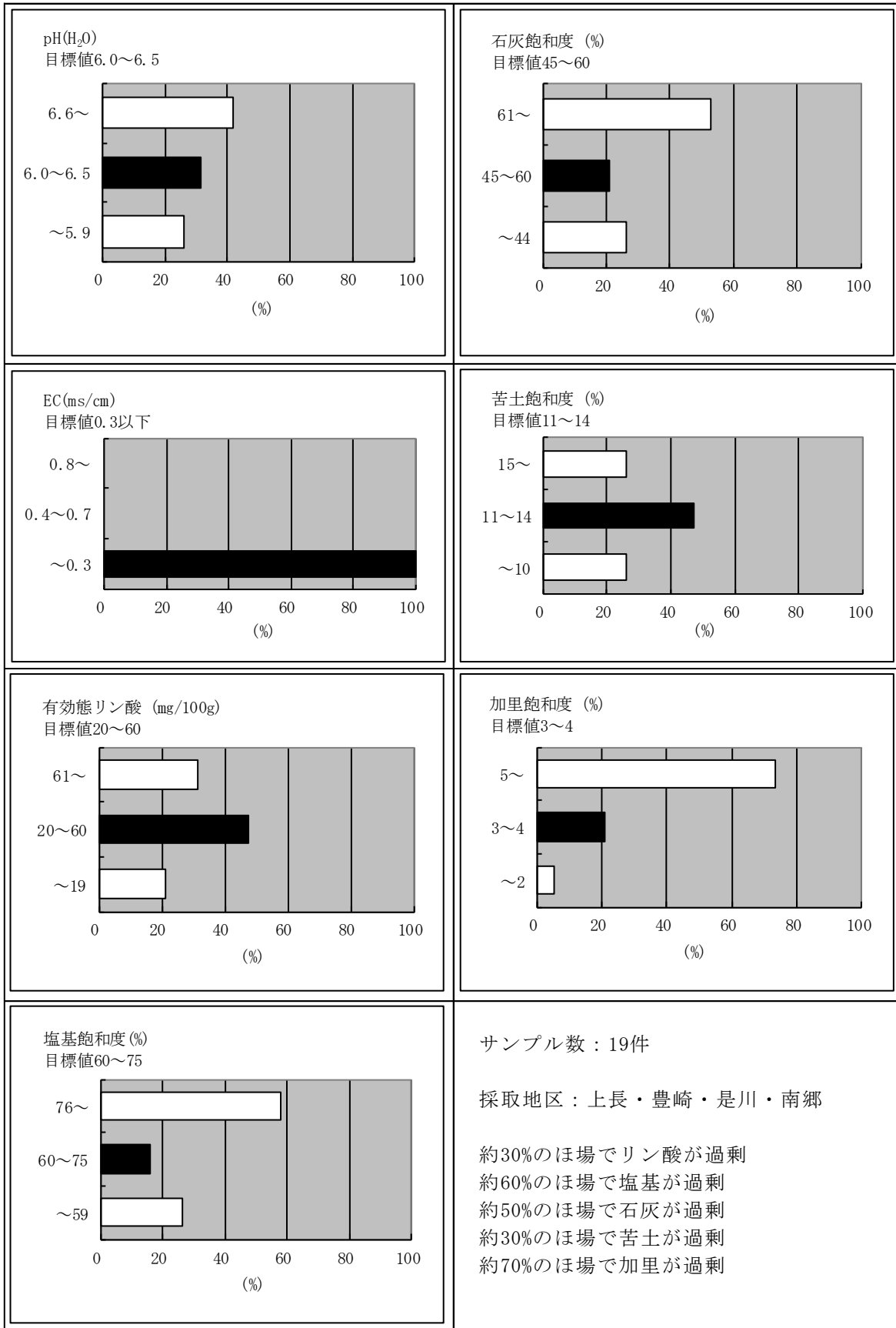
(2) 施設野菜 (トマト・ミニトマト・きゅうり)



(3) 花き



(4) 露地野菜 (ながいも・にんにく・ねぎ等)



2 - 7 植物組織培養

1 優良種苗の増殖実績

- (1) いちご・・・・・・・・・・(11 品種)
- (2) 奥州菊・・・・・・・・・・(5 品種)
- (3) 食用菊・・・・・・・・・・(4 品種)

2 - 8 市民農園設置事業

1 目的

自然環境の中での市民が家族ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上並びに農業に対する理解を深めてもらうために実施する。

2 場所

八戸市農業経営振興センター内

3 期間

令和4年4月17日～11月20日

4 募集区画面積及び利用者数

- (1) 小区画 (33 m²) : 107 件
- (2) 中区画 (66 m²) : 82 件

5 対象

八戸市民 (1 世帯につき 1 区画利用可能)

6 使用料

- (1) 小区画 (33 m²) : 2,610 円
- (2) 中区画 (66 m²) : 5,220 円

7 主要施設

- ・休憩所 (1 箇所) ・トイレ (2 基) ・電話 (1 台)
- ・農業用水道 (6 箇所) ・駐車場 (1 箇所 : 1,000 m²)

8 主な作付け作物

【春】じゃがいも、まめ類、ねぎ、だいこん、にんじん

【秋】だいこん、ねぎ、にんじん、さつまいも、はくさい

2 - 9 農業体験学習

1 目的

小学生等の食育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供した。

2 実績

(1) 農業体験学習関係

① 植付・は種・管理作業体験

月日	団体名	人数	体験内容
5月17日	八戸幼稚園	28	さつまいも植付体験
5月23日	長者幼稚園	18	さつまいも植付体験
5月24日	白銀台保育園	53	さつまいも植付体験
5月30日	八戸学院幼稚園	44	さつまいも植付体験
5月31日	イメルダ幼稚園	28	さつまいも植付体験
8月24日	八戸幼稚園	13	さつまいも草取・だいこん播種体験
8月29日	長者幼稚園	22	さつまいも草取・だいこん播種体験
合計	7回	206名	

② 収穫作業体験

月日	団体名	人数	体験内容
10月18日	イメルダ幼稚園	26	さつまいも・だいこん収穫体験
10月19日	八戸幼稚園	33	さつまいも・だいこん収穫体験
10月21日	白銀台保育園	51	さつまいも・だいこん収穫体験
10月24日	長者幼稚園	22	さつまいも・だいこん収穫体験
10月27日	八戸学院幼稚園	79	さつまいも・だいこん収穫体験
合計	5回	211名	

③ JA 八戸×八戸市 令和4年度キッズあぐり塾

月日	対象者	人数	体験内容
5月28日	小学3～6年生	17	ピーマン、食用菊、ねぎ、さつまいも植付体験
10月1日	小学3～6年生	13	食用菊、ねぎ収穫体験
11月5日	小学3～6年生	14	ピーマン、ながいも、さつまいも収穫体験
合計	3回	44名	

(2) 農業体験生涯学習関係

① 八戸市鷗盟大学指導

月日	団体名	人数	体験内容
4月19日	2学年	10	じゃがいもの植付
4月22日	1学年	11	じゃがいもの植付
5月27日	1学年	11	じゃがいもの芽かき
6月7日	2学年	10	じゃがいもの芽かき
6月14日	生活福祉科	29	草花の育て方(座学)
6月17日	1学年	10	草花の育て方(座学)
11月8日	2学年	11	だいこん等収穫
1月24日	2学年	11	環境にやさしい農業(座学)
2月10日	1学年	10	土づくりと春野菜(座学)
合計	9回	113名	

2 - 10 農業講座

1 目的

優れた知識や新たな技術の習得により、農業の生産性向上と農家経営の安定を図り、当市農業の活性化を促進するため。

2 令和4年度八戸市農業講座の開催実績

	開催日	演題	講師	受講者数
第1回	7月	いちごの高収量、高品質生産に向けた栽培について	(地独) 青森県産業技術センター 農林総合研究所 花き・園芸部 伊藤 篤史 氏	21名
	12日 (火)	農業経営振興センターでの種子繁殖型いちご品種の栽培調査結果について	八戸市農業経営振興センター 技査 幸田 洋平	21名
		鳥獣害対策について	八戸市農業経営振興センター 主査 白川 大祐	21名
第2回	1月	肥料価格高騰を乗り切るための土壌診断の基礎と応用	東京農業大学 名誉教授 後藤 逸男	33名
	12日 (火)	農福連携について	社会福祉法人ユートピアの会 事務長 沼田 智美	22名
	2月 6日 (月)	ハクビシン・アライグマ・アナグマ・ニホンジカ等の被害対策について	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 獣医師 今井 康人	60名
		施設野菜(トマト・イチゴ)の病虫害防除について	地独 青森県産業技術センター 野菜研究所	16名
	2月 8日 (水)	どうだった? 令和4年の気象 どうなる? 令和5年	株式会社吉田産業 海洋気象事業部 田嶋 研逸	19名

2 - 11 家庭菜園講習会

1 目的

野菜づくりに必要な基本的な知識や技術の習得と地場野菜への関心を深めてもらうため。

2 実績

日時	場所	人数	内容
5月3日	八戸市花と緑に親しむ広場	14	園芸講習会「家庭菜園講習会」
3月12日	農業経営振興センター	83	家庭菜園講習会「キホンから学ぶ野菜づくり」
		合計	97名

2 - 12 施設利用実績

農業講座、家庭菜園講習会等の各種研修、並びに農業関係機関による農業振興に係る営農指導会議等の開催による研修室等における施設利用実績である。

1 来場者数

2,626名

※施設見学及び指導相談並びに土壌分析依頼・相談の件数

2 指導相談件数

117件

業務計画

【令和5年度】

所 長	久 保	昌 広
副 参 事	中 山	貢
(生産振興グループリーダー)		
副 参 事	小 幡	嘉 文
(経営支援グループリーダー)		
主 幹	金 澤	匡 志
主 幹	菊 谷	武 夫
主 幹	野 沢	義 詔
技 査	田 茂	竜 児
主 査	三 戸	由 香
主 査	小井川	健
技 査	幸 田	洋 平
技 査	戸 田	瞳
主 事	苔米地	三由希
技 師	佐々木	達 也
主 事	田 中	野
技 師	細 越	敬太郎

3-1 調査計画（施設野菜）

施設野菜の部 No.1

項目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続：令和3年度～令和5年度）

1 目的 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス4号 (132 m² : 約40坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和4年5月14日 (406穴セルトレイ)
 - 3) 移植月日 令和4年6月23日 (10.5cmポット)
※406穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
 - 4) 夜冷処理期間 令和4年8月12日～9月8日
 - 5) 夜冷処理日数 28日
 - 6) 夜冷処理方法 短日処理 8時間日長 (16時30分～翌8時30分遮光)
夜冷処理 13～15℃ (16時30分～翌8時30分)
 - 7) 育苗日数 <1><2>118日、<3>136日
 - 8) 定植年月日 <1><2>令和4年9月9日、<3>令和4年9月27日
 - 9) 栽植距離 うね幅110cm、ベッド幅70cm、株間25cm、2条植え
 - 10) 定植株数 640株/棟
 - 11) 施肥量 N-P-K=追肥状況による
【基肥】有機アグレット816 (8-1-6)
【追肥】大塚養液土耕6号 (13.5-10-20)
 - 12) 使用資材 アヅミン (Mg:3%) : 5kg/a、ハイフミン・ハイブリット : 30kg/a、あったかマルチ
 - 13) 収穫期間 令和4年11月28日～令和5年6月中旬
 - 14) 保温 内カーテン : 令和4年11月14日～令和5年5月上旬
 - 15) 加温 温風暖房機 (5℃設定) :
令和4年11月14日～令和5年5月上旬
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 3区 (1区10株、1区制)
<1>夜冷短日処理区
<2>電照長日処理区 (定植後2週間24時間日長処理)
<3>9月下旬定植区
 - 2) 供試品種 よつぼし (三重県・香川県・千葉県・農研機構)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

施設野菜の部 No.2

項目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種の品種特性調査（新規：令和4年度～令和5年度）

- 1 目的 新種子繁殖型いちご品種「すず」、「はるひ」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス4号 (132 m² : 約40坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和4年5月14日 (406穴セルトレイ)
 - 3) 移植月日 令和4年6月23日 (10.5cmポット)
※406穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
 - 7) 育苗日数 136日
 - 8) 定植年月日 令和4年9月27日
 - 9) 栽植距離 うね幅110cm、ベッド幅70cm、株間25cm、2条植え
 - 10) 定植株数 640株/棟
 - 11) 施肥量 N-P-K=追肥状況による
【基肥】有機アグレット816 (8-1-6)
【追肥】大塚養液土耕6号 (13.5-10-20)
 - 12) 使用資材 アヅミン (Mg:3%) : 5kg/a、ハイフミン・ハイブリット : 30kg/a、
あったかマルチ
 - 13) 収穫期間 令和4年12月26日～令和5年6月中旬
 - 14) 保温 内カーテン : 令和4年11月14日～令和5年5月上旬
 - 15) 加温 温風暖房機 (5℃設定) :
令和4年11月14日～令和5年5月上旬
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 3区 (1区10株、1区制)
 - 2) 供試品種 <1>すず (株ミヨシ・三重県)
<2>はるひ (株ミヨシ・三好アグリテック(株))
<3>よつぼし (三重県・香川県・千葉県・農研機構)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

施設野菜の部 No.3

項目：品種比較調査

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

1 目的 トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室5号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和4年12月28日（144穴トレイ）
 - 3) 移植月日 令和5年2月2日（12cmポット）
 - 4) 定植月日 令和5年2月27日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
 - 6) 定植株数 320株/棟
 - 7) 施肥量 土壌溶液EC濃度0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）
 - 8) 使用資材 ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あつたかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあつたかマルチの上から白黒
ダブルマルチを展開（6月下旬～収穫終了日）。
 - 9) 収穫期間 令和5年5月上旬～7月下旬
 - 10) 保温 内カーテン：令和5年2月27日～令和5年5月下旬
 - 11) 加温 温風暖房機（12℃設定）：令和5年2月27日～令和5年5月上旬
 - 12) 摘心 令和5年5月下旬（8段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 4区（1区10株、1区制）
 - 2) 供試品種<1> みそら64 (みかど協和株)
<2> CF桃太郎はるか (タキイ種苗株)
<3> 桃太郎ネクスト (タキイ種苗株)
<4> 麗月 (株サカタのタネ)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 No.4

項目：品種比較調査

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

1 目的 トマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室7号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和5年2月28日（144穴トレイ）
 - 3) 移植月日 令和5年3月20日（12cmポット）
 - 4) 定植月日 令和5年4月13日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
 - 6) 定植株数 320株/棟
 - 7) 施肥量 土壌溶液EC濃度0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）
 - 8) 使用資材 ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あつたかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあつたかマルチの上から白黒
ダブルマルチを展開（6月下旬～収穫終了日）。
 - 9) 収穫期間 令和5年6月上旬～10月下旬
 - 10) 保温 内カーテン：定植日～令和5年5月下旬、9月中旬～収穫終了日
 - 11) 加温 温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和5年5月上旬
 - 12) 摘心 令和5年9月中旬（20段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 5区（1区10株、1区制）
 - 2) 供試品種<1> みそら64 （みかど協和株）
<2> ひなた （みかど協和株）
<3> 桃太郎ネクスト （タキイ種苗株）
<4> りんか409 （株サカタのタネ）
<5> 麗月 （株サカタのタネ）
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 No.5

項目：品種比較調査

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

1 目的 トマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室5号（165 m²：約50坪）
- (2) 耕種概要
 - 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和5年6月上旬（72穴トレイ）
 - 3) 定植月日 令和5年6月下旬
（前作の栽培中にその株間に定植）
 - 4) 栽植距離 ベッド幅120 cm、株間40 cm、2条植え
 - 5) 定植株数 320株/棟
 - 6) 施肥量 土壌溶液EC濃度0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）
 - 7) 使用資材 あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6月下旬～9月中旬）。
 - 8) 収穫期間 令和5年8月下旬～11月下旬
 - 9) 保温 内カーテン：9月中旬～収穫終了日
 - 10) 加温 温風暖房機（8℃設定）：11月上旬～収穫終了日
 - 11) 摘心 令和5年9月下旬（6段程度）
- (3) 調査区の構成
 - 1) 調査区 5区（1区10株、1区制）
 - 2) 供試品種<1> みそら64 (みかど協和株)
<2> ひなた (みかど協和株)
<3> 桃太郎ネクスト (タキイ種苗株)
<4> りんか409 (株サカタのタネ)
<5> 麗月 (株サカタのタネ)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 No.6

項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

1 目的 ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス2号（132 m²：約40坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和4年12月28日（144穴トレイ）
 - 3) 移植月日 令和5年2月2日（12cmポット）
 - 4) 定植月日 令和5年2月27日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
 - 6) 定植株数 228株/棟
 - 7) 施肥量 土壌溶液EC濃度0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）
 - 8) 使用資材 ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒
ダブルマルチを展開（6月下旬～収穫終了日）。
 - 9) 収穫期間 令和5年5月上旬～7月下旬
 - 10) 保温 内カーテン：令和5年2月27日～令和5年5月下旬
 - 11) 加温 温風暖房機（12℃設定）：令和5年2月27日～令和5年5月上旬
 - 12) 摘心 令和5年5月下旬（8段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 5区（1区5株、1区制）
 - 2) 供試品種<1> キャロル10 (株)サカタのタネ
<2> キャロルスター (株)サカタのタネ
<3> キャロルムーン (株)サカタのタネ
<4> C7-276 (株)サカタのタネ
<5> サンチェリーピュア (トキタ種苗株)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 No.7

項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

1 目的 ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス1号（132 m²：約40坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和5年2月28日（144穴トレイ）
 - 3) 移植月日 令和5年3月20日（12cmポット）
 - 4) 定植月日 令和5年4月13日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅100cm、株間40cm、2条植え
 - 6) 定植株数 228株/棟
 - 7) 施肥量 土壌溶液EC濃度0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）
 - 8) 使用資材 ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あつたかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあつたかマルチの上から白黒
ダブルマルチを展開（6月下旬～収穫終了日）。
 - 9) 収穫期間 令和5年6月上旬～10月下旬
 - 10) 保温 内カーテン：定植日～令和5年5月下旬、9月中旬～収穫終了日
 - 11) 加温 温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和5年5月上旬
 - 12) 摘心 令和5年9月中旬（20段程度）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 8区（1区5株、1区制）
 - 2) 供試品種<1> キャロル10 (株)サカタのタネ
<2> キャロルスター (株)サカタのタネ
<3> キャロルムーン (株)サカタのタネ
<4> C7-276 (株)サカタのタネ
<5> サンチェリーピュア (トキタ種苗(株))
<6> サマー千果 (タキイ種苗(株))
<7> アイラ (株)武蔵野種苗園
<8> T833 (みかど協和(株))
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 No.8

項目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの抑制裁培における品種比較調査（継続：令和4年度～令和6年度）

1 目的 ミニトマトの抑制裁培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス2号（132 m²：約40坪）
- (2) 耕種概要
 - 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 令和5年6月上旬（72穴トレイ）
 - 3) 定植月日 令和5年6月下旬
（前作の栽培中にその株間に定植）
 - 4) 栽植距離 ベッド幅100 cm、株間40 cm、2条植え
 - 5) 定植株数 228株/棟
 - 6) 施肥量 土壌溶液EC濃度0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕2号（14-8-25、～収穫開始）
 - 7) 使用資材 あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6月下旬～9月中旬）。
 - 8) 収穫期間 令和5年8月下旬～11月下旬
 - 9) 保温 内カーテン：9月中旬～収穫終了日
 - 10) 加温 温風暖房機（8℃設定）：11月上旬～収穫終了日
 - 11) 摘心 令和5年9月下旬（6段程度）
- (3) 調査区の構成
 - 1) 調査区 6区（1区5株、1区制）
 - 2) 供試品種<1> キャロル10 (株)サカタのタネ
<2> キャロルスター (株)サカタのタネ
<3> キャロルムーン (株)サカタのタネ
<4> C7-276 (株)サカタのタネ
<5> サンチェリーピュア (トキタ種苗株)
<6> T833 (みかど協和株)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3-2 調査計画（露地野菜）

露地野菜の部 No.1

項目：品種比較調査

調査名：ねぎの品種比較調査（新規：令和5年度～令和7年度）

1 目的 当地域におけるねぎの作型別適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場
- (2) 耕種概要
 1) 育苗方法 チェーンポット CP-303 (264 穴) 2 粒播き
 2) は種及び定植月日 <は種> <定植>
 7 月収穫：令和5年1月6日 令和5年3月19日
 9 月収穫：令和5年3月29日 令和5年5月11日
 10 月収穫：令和5年5月15日 令和5年6月中旬
 うね幅 100 cm、株間 5 cm (2 粒播き)
- 3) 栽植距離 離
 4) 定植本数 40,000 本/10a
 5) 施肥量 N-P-K=18.0-18.0-18.0 kg/10a
 【基肥】ハイパーCDU555(中期) (15-15-15) : 40 kg/10a
 【追肥】ハイパーCDU555(中期) (15-15-15) : 40 kg/10a×2 回
- 6) 使用資材 7 月収穫：パワーリン(P:30%):60kg/10a
 アヅミン(Mg:3%) : 40kg/10a
 リン酸カリ溶液(リン酸濃度 1.15%) を定植 1 週間前
 及び定植当日に苗箱へ灌注:1L/箱
 9 月及び 10 月収穫：
 パワーリン(P:30%):60kg/10a
 アヅミン(Mg:3%) : 40kg/10a
 過リン酸石灰(P:20.5%) :16.6kg/10a×2 回
- 7) 収穫月日 7 月収穫：令和5年7月下旬
 9 月収穫：令和5年9月中旬
 10 月収穫：令和5年10月下旬

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 26 区 (1 区 40 本 (1.0m) 、1 区制)
- 2) 供試品種

7 月収穫	9 月収穫	10 月収穫	メーカー名
夏扇パワー	夏扇パワー	夏扇パワー	㈱サカタのタネ
夏秋白扇 5 号	夏秋白扇 5 号 盛夏 790	夏秋白扇 5 号 盛夏 790	吉田種苗(株)
みちのく 701 はやぶさ 7	みちのく 701 はやぶさ 7	みちのく 701 はやぶさ 7	㈱パセリー菜
MKS-N40 MKS-N43	MKS-N40 MKS-N43 秋の宝山 冬の宝山	MKS-N40 MKS-N43 秋の宝山 冬の宝山	ヴィルモラン みかど(株)
	森のめざめ	森のめざめ	トキタ種苗(株)

- (4) 調査項目 生育、収量、品質

露地野菜の部 No.2

項目：品種比較調査

調査名：ピーマンの品種比較調査（新規：令和5年度～令和7年度）

1 目的 当地域におけるピーマンの露地栽培に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 マルチ栽培
- 2) は種及び定植月日
- | | 〈は種〉 | 〈定植〉 |
|-----------------|------|--------------------------------------|
| ①4月定植：令和5年2月17日 | | 令和5年4月21日
(定植直後アイホッカ1枚
トンネル被覆) |
| ②5月定植：令和5年3月16日 | | 令和5年5月12日
(定植直後パスライト1枚
トンネル被覆) |
- 3) 栽植距離 離 うね幅 150 cm、株間 50 cm
- 4) 定植株数 1,300 株/10a
- 5) 施肥量
- <4月定植>
N - P - K = 49.4 - 19.7 - 38.8 kg/10a
【基肥】新豊作太郎 800 (18-10-10) : 133 kg/10a
【追肥】くみあい 燐硝安加里 S646 (16-4-16) : 31.9 kg/10a × 5 回
- <5月定植>
N - P - K = 44.4 - 18.4 - 33.7 kg/10a
【基肥】新豊作太郎 800 (18-10-10) : 133 kg/10a
【追肥】くみあい 燐硝安加里 S646 (16-4-16) : 31.9 kg/10a × 4 回
- 6) 使用資材 あったかマルチ、15 cm × 5 目フラワーネット (3 段)
- 7) 収穫期間 令和5年6月中旬～10月下旬
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 4 区 (1 区 5 株、1 区制)
- 2) 供試品種
- | | |
|------------|----------|
| <1>ピクシー | (横浜植木株) |
| <2>No. 155 | (タキイ種苗株) |
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

露地野菜の部 No.3

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の基肥量別収量比較調査（新規：令和5年度～令和7年度）

1 目的 当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、基肥量の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 露地ほ場

(2) 耕種概要

1) 栽培方法 マルチ栽培

2) は種及び定植月日
 〈は種〉 〈定植〉
 令和5年3月16日 令和5年5月12日
 (定植直後パスライト1枚トンネル被覆)

3) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 50 cm

4) 定植株数 1,300 株/10a

5) 施肥量

【施肥量】	
〈基肥〉 (kg/10a)	〈追肥〉 (kg/10a)
新豊作太郎 800 (18-10-10)	くみあい 燐硝安加里 S646 (16-4-16)
① 116	31.9×4 回
② 133	31.9×4 回
③ 150	31.9×4 回

【成分量】

〈基肥〉 (kg/10a)			〈追肥〉 (kg/10a)			合計 (kg/10a)		
N	P	K	N	P	K	N	P	K
① 20.9	11.6	11.6	20.4	5.1	20.4	41.3	16.7	32.0
② 23.9	13.3	13.3	20.4	5.1	20.4	44.4	18.4	33.7
③ 27.0	15.0	15.0	20.4	5.1	20.4	47.4	20.1	35.4

【追肥時期】

定植後 60 日、以降概ね 20 日おき 計 4 回
 2 回目以降の追肥間隔は草勢及び天候により調整
 あったかマルチ、15 cm×5 目フラワーネット(3 段)
 令和5年6月中旬～10月下旬

6) 使用資材

7) 収穫期間

(3) 調査区の構成

1) 調査区 3 区 (1 区 5 株、1 区制)

2) 供試品種 ピクシー (横浜植木株)

(4) 調査項目 生育、収量、品質

露地野菜の部 No.4

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の追肥量別収量調査（新規：令和5年度～令和7年度）

1 目的 当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、追肥量の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 露地ほ場

(2) 耕種概要

1) 栽培方法 マルチ栽培

2) は種及び定植月日
 〈は種〉 〈定植〉
 令和5年3月16日 令和5年5月12日
 (定植直後パスライト1枚トンネル被覆)

3) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 50 cm

4) 定植株数 1,300 株/10a

5) 施肥量

【施肥量】	
〈基肥〉 (kg/10a)	〈追肥〉 (kg/10a)
新豊作太郎 800 (18-10-10)	くみあい 燐硝安加里 S646 (16-4-16)
① 133	29.0×4 回
② 133	31.9×4 回
③ 133	35.0×4 回
④ 133	38.0×4 回

【成分量】

	〈基肥〉 (kg/10a)			〈追肥〉 (kg/10a)			合計 (kg/10a)		
	N	P	K	N	P	K	N	P	K
①	23.9	13.3	13.3	18.6	4.6	18.6	42.5	17.9	31.9
②	23.9	13.3	13.3	20.4	5.1	20.4	44.4	18.4	33.7
③	23.9	13.3	13.3	22.4	5.6	22.4	46.3	18.9	35.7
④	23.9	13.3	13.3	24.3	6.1	24.3	48.2	19.4	37.6

【追肥時期】

定植後 60 日、以降概ね 20 日おき 計 4 回

2 回目以降の追肥間隔は草勢及び天候により調整

6) 使用資材 あったかマルチ、15 cm×5 目フラワーネット(3 段)

7) 収穫期間 令和5年6月中旬～10月下旬

(3) 調査区の構成

1) 調査区 4 区 (1 区 5 株、1 区制)

2) 供試品種 ピクシー (横浜植木株)

(4) 調査項目 生育、収量、品質

露地野菜の部 No.5

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の整枝方法(生育初期)による収量比較調査

(継続：令和4年度～令和6年度)

1 目的 当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、整枝方法の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- | | | |
|-------------|--|--|
| (1) 調査場所 | 露地ほ場 | |
| (2) 耕種概要 | | |
| 1) 栽培方法 | マルチ栽培 | |
| 2) は種及び定植月日 | 〈は種〉
令和5年3月16日 | 〈定植〉
令和5年5月12日
(定植直後パスライト1枚トンネル被覆) |
| 3) 整枝方法 | ①第2分枝を主枝4本、第3分枝を8本、第4分枝を12本に整枝、以降適宜整枝
②第2分枝を主枝4本、第3分枝を8本、第4分枝を10本に整枝、以降適宜整枝 | |
| 4) 栽植距離 | うね幅150cm、株間50cm | |
| 5) 定植株数 | 1,300株/10a | |
| 6) 施肥量 | N-P-K=44.3-18.4-33.7kg/10a
【基肥】新豊作太郎800(18-10-10):133kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16):31.9kg/10a×4回 | |
| 7) 使用資材 | あったかマルチ、15cm×5目フラワーネット(3段) | |
| 8) 収穫期間 | 令和5年6月中旬～10月下旬 | |
| (3) 調査区の構成 | | |
| 1) 調査区 | 2区(1区5株、1区制) | |
| 2) 供試品種 | ピクシー (横浜植木株) | |
| (4) 調査項目 | 生育、収量、品質 | |

露地野菜の部 No.6

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン接ぎ木栽培調査（新規：令和5年度～令和7年度）

1 目的 近年、作付が拡大している当地域におけるピーマン露地栽培において、接ぎ木栽培が収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 マルチ栽培
- 2) は種及び定植月日
- | | 〈は種〉 | 〈定植〉 |
|-----|-----------|----------------------------------|
| ①自根 | 令和5年3月16日 | 令和5年5月12日
(定植直後パスライト1枚トンネル被覆) |
| ②台木 | 令和5年3月2日 | 令和5年5月17日 |
| 穂木 | 令和5年3月6日 | |
| 接ぎ木 | 令和5年4月11日 | (定植直後パスライト1枚トンネル被覆) |
- 3) 整枝方法
- 4) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 50 cm
- 5) 定植株数 1,300 株/10a
- 6) 施肥量 N - P - K = 44.3 - 18.4 - 33.7 kg/10a
【基肥】新豊作太郎 800 (18-10-10) : 133 kg/10a
【追肥】くみあい 燐硝安加里 S646 (16-4-16) : 31.9 kg/10a × 4 回
- 7) 使用資材 あったかマルチ、15 cm × 5 目フラワーネット (3 段)
- 8) 収穫期間 令和5年6月中旬～10月下旬
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 2 区 (1 区 5 株、1 区制)
- 2) 供試品種 <1> [自根苗] ピクシー (横浜植木株)
<2> [台木] TPE-173 (タキイ種苗株) × [穂木] ピクシー (横浜植木株)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

露地野菜の部 No.7

項目：栽培技術調査

調査名：ながいも栽培のマルチ栽培による収量比較調査（新規：令和5年度～令和7年度）

- 1 目的 ながいも栽培におけるマルチの有無が収量・品質に及ぼす影響について調査・研究し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場
- (2) 耕種概要
- 1) 植付月日 令和5年5月31日
 - 2) 栽植距離 うね幅120cm、株間21cm
 - 3) 植付本数 3,968本/10a
 - 4) 施肥量 N-P-K=24.9-33.7-16.6kg/10a
【基肥】新パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：166kg/10a
パワーリン(P:30%)：46kg/10a
 - 5) 使用資材 <1>メデルシート M815B（みかど加工株）
<2>マルチ無し
 - 6) 収穫月日 令和5年11月下旬
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 2区（1区6.3m（30本）、1区制）
 - 2) 供試品種 園試系6（切片子）：80～100g
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3-3 調査計画（花き）

花きの部 No. 1

項目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(7~8月出荷)（継続：令和4年度~令和5年度）

1 目的 収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、7~8月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 11号 (99 m² : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
 - 2) は種年月日 令和5年3月3日
 - 3) 定植年月日 令和5年4月17日
 - 4) 栽植距離 ベッド幅 60 cm、株間 10 cm、条間 10cm、4条植え(中2条抜き)
 - 5) 定植株数 2,720本/棟
 - 6) 施肥量 基肥 N-P-K-Mg=0.96-0.12-4.40.1.36 kg/a
追肥 N-P-K=0.50-0.30-0.50 kg/a ※生育状況による
(基肥) アルガ 215 (12-1-5-2) : 8.0 kg/a
硫酸加里 (K:50) : 8.0 kg/a
ハイクト (Mg:40) : 3.0 kg/a
(追肥) 資材は生育状況を踏まえ検討する
 - 7) 使用資材 白黒ダブルマルチ、10cm×6目フラワーネット、メガクール
 - 8) 遮光・遮熱 メガクール (期間は生育状況及び天候を踏まえ検討する)
 - 9) 収穫時期 令和5年7月下旬~8月中旬

(3) 調査区の構成

1) 調査区 15区 (1区10株、1区制)

No.	品種名	早晩性	花径	花色	会社名
<1>	レイナ2型ディーブラベンダー	中生	大	紫	(株)サカタのタネ
<2>	ボヤージュ2型ピンクシェイク	中生	大	白桃	(株)サカタのタネ
<3>	プロポーズ3型スノー	中生	大	白	住化農業資材(株)
<4>	セレブ2型ピンクver. 2	中生	大	桃	住化農業資材(株)
<5>	レトロア	中生	中大	薄茶	カネコ種苗(株)
<6>	セレブ3型クリスタル	中晩生	大	白	住化農業資材(株)
<7>	セレブ3型リッホホワイト	中晩生	中	白	住化農業資材(株)
<8>	ウェディングキスver. 2	中晩生	小	白	住化農業資材(株)
<9>	エスピノク	中晩生	中大	桃	カネコ種苗(株)
<10>	プリマ3型ロゼ	中晩生	大	桃	タキイ種苗(株)
<11>	プリマ3型ピンク	中晩生	大	薄桃	タキイ種苗(株)
<12>	ジェームス	中晩生	大	薄紫	タキイ種苗(株)
<13>	ミンメロン	中晩生	中	緑	タキイ種苗(株)
<14>	リッホホワイト	晩生	大	白	(株)サカタのタネ
<15>	PFダブルスノー	晩生	中	白	(株)サカタのタネ

(4) 調査項目 開花、切花

花きの部 No. 2

項目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(9月出荷) (継続：令和4年度～令和5年度)

- 1 目的 収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、9月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室6号 (165 m²：約50坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
 - 2) は種年月日 令和5年3月8日 ※播種後、種子冷蔵処理
 - 3) 定植年月日 令和5年5月25日
 - 4) 栽植距離 ベッド幅60cm、株間10cm、条間10cm、4条植え(中2条抜き)
 - 5) 定植株数 3,100本/棟
 - 6) 施肥量 基肥 N-P-K-Mg=0.36-0.03-2.65-0.86 kg/a
追肥 N-P-K=0.50-0.30-0.50 kg/a ※生育状況による
(基肥) アルガ 215 (12-1-5-2) : 3.0 kg/a
硫酸加里 (K:50) : 5.0 kg/a
ハイクト (Mg:40) : 2.0 kg/a
 - 7) 使用資材 (追肥) 資材は生育状況を踏まえ検討する
 - 8) 遮光・遮熱 白黒ダブルマルチ、10cm×6目フラワーネット、メガクール
 - 9) 収穫時期 メガクール (期間は生育状況及び天候を踏まえ検討する)
令和5年9月上旬～9月中旬

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 11区 (1区10株、1区制)

No.	品種名	早晚性	花径	花色	会社名
<1>	ボヤージュ2型ピンクシェイク	中生	大	白桃	(株)サカタのタネ
<2>	セラブ 3型クリスタル	中晩生	大	白	住化農業資材(株)
<3>	セラブ 3型リッチホワイト	中晩生	中	白	住化農業資材(株)
<4>	セラブ 3型イエロー	中晩生	大	黄	住化農業資材(株)
<5>	エレガンスグリーン	中晩生	大	緑	住化農業資材(株)
<6>	エスビ ^o ンク	中晩生	中大	桃	カネコ種苗(株)
<7>	エスライトピ ^o ンク	中晩生	中大	薄桃	カネコ種苗(株)
<8>	プリマ3型イエロー	中晩生	大	黄	タキイ種苗(株)
<9>	プリマ3型ピ ^o ンク	中晩生	大	薄桃	タキイ種苗(株)
<10>	リオホワイト	晩生	大	白	(株)サカタのタネ
<11>	PFダブルスノー	晩生	大	白	(株)サカタのタネ

- (4) 調査項目 開花、切花

花きの部 No. 3

項目：栽培技術調査

調査名：トルコギキョウの赤色 LED 電照栽培技術調査(9 月出荷)

(新規：令和 5 年度～令和 6 年度)

- 1 目的 トルコギキョウの赤色 LED 電照処理により開花抑制が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 6 号 (165 m²：約 50 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
 - 2) は種年月日 令和 5 年 3 月 8 日 ※播種後、種子冷蔵処理
 - 3) 定植年月日 令和 5 年 5 月 25 日
 - 4) 栽植距離 ベッド幅 60 cm、株間 10 cm、条間 10cm、4 条植え(中 2 条抜き)
 - 5) 定植株数 3,100 本/棟
 - 6) 施肥量 基肥 N-P-K-Mg=0.36-0.03-2.65-0.86 kg/a
追肥 N-P-K=0.50-0.30-0.50 kg/a ※生育状況による
(基肥) アルガ 215 (12-1-5-2)：3.0 kg/a
硫酸加里 (K:50)：5.0 kg/a
ハイクド (Mg:40)：2.0 kg/a
(追肥) 資材は生育状況を踏まえ検討する
- 7) 使用資材 白黒ダブルマルチ、10cm×6 目フラワーネット、メガクール、赤色 LED ライト (620nm～630nm)
- 8) 電照期間 調査区① 無電照
調査区② 令和 4 年 6 月上旬(定植後)～収穫終了日
※16：00～8：00 (16 時間電照)
- 9) 遮光・遮熱 メガクール (期間は生育状況及び天候を踏まえ検討する)
- 10) 収穫時期 令和 5 年 9 月上旬～9 月中旬

(3) 調査区の構成

No.	品種名	早晚性	花径	花色	会社名
<1>	ボヤージュ2型ピンクシェイク	中生	大	白桃	(株)サカタのタネ
<2>	セブ 3 型クリスタル	中晩生	大	白	住化農業資材(株)
<3>	セブ 3 型レロー	中晩生	大	黄	住化農業資材(株)
<4>	エスビ ンク	中晩生	中大	桃	カネコ種苗(株)
<5>	プリマ 3 型ピンク	中晩生	大	薄桃	タキイ種苗(株)
<6>	リオワイト	晩生	大	白	(株)サカタのタネ
<7>	PFダブルスノー	晩生	大	白	(株)サカタのタネ

- (4) 調査項目 開花、切花

花きの部 No. 4

項目：栽培技術調査

調査名：カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（継続：令和 2 年度～令和 6 年度）

1 目的 カンパニュラの赤色 LED 電照処理により開花促進が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 9 号 (99 m² : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
 - 2) は種年月日 令和 4 年 11 月 4 日
 - 3) 定植年月日 令和 4 年 12 月 16 日
 - 4) 仕立て法 調査区②令和 5 年 2 月 9 日に摘心
調査区①、③、④令和 5 年 3 月 2 日に摘心
 - 5) 栽植距離 ベッド幅 60 cm、株間 20 cm、条間 40cm、2 条植え（中 1 条抜き）
 - 6) 定植株数 540 株/棟
 - 7) 施肥量 N-P-K=0.60-0.05-1.75-0.10 kg/a
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：5.0 kg/a
硫酸加里（K:50）：3.0 kg/a
 - 8) 使用資材 バイオ 21、黒マルチ、赤色 LED ライト（620nm～630nm）、
20cm×3 目フラワーネット
 - 9) 電照期間 調査区① 無電照
調査区② 令和 4 年 12 月 16 日（定植後）～収穫終了日
調査区③ 令和 5 年 3 月 2 日（摘心後）～収穫終了日
調査区④ 令和 5 年 4 月 1 日～収穫期まで
※いずれも 22:00～2:00 の暗期中断とする
 - 10) 収穫時期 令和 5 年 4 月上旬～6 月上旬
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 16 区（1 区 5 株、1 区制）
 - 2) 供試品種
- | No. | 品種名 | 花色 | 会社名 |
|-----|-------------------|----|-----------|
| <1> | チャンピオン IQ ローズ | 桃 | (株)サカタのタネ |
| <2> | チャンピオン IQ ホホワイト | 白 | (株)サカタのタネ |
| <3> | チャンピオン IQ ディープブルー | 濃紫 | (株)サカタのタネ |
| <4> | チャンピオンスカイブルー | 青紫 | (株)サカタのタネ |
- (4) 調査項目 開花、切花

花きの部 No. 5

項 目：品種比較調査

調査名：ディスバッドマムの品種比較調査(11月出荷) (新規：令和5年度～令和6年度)

1 目的 今後、当地域の有望花き品目として期待されるディスバッドマムについて、11月出荷作型における栽培技術及び品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調 査 場 所 パイプハウス 8 号 (99 m² : 約 30 坪)

- (2) 耕 種 概 要
 - 1) 栽 培 方 法 土耕栽培
 - 2) 定 植 年 月 日 令和 5 年 8 月 下 旬 ~ 9 月 上 旬 (直挿し)
 - 3) 栽 植 距 離 ベッド幅 80 cm、株間 10 cm、条間 10cm、6 条植え (中 2 条抜き)
 - 4) 定 植 株 数 3,600 本/棟
 - 5) わい化剤処理 ビーナイン顆粒水溶剤を散布
※濃度及び散布回数は生育状況による
 - 6) 施 肥 量 N-P-K=1.5-0.5-1.5 kg/a
(基肥) 資材は土壤分析結果を踏まえ検討する
 - 7) 使 用 資 材 10cm×8 目フラワーネット、黒マルチ
 - 8) 電 照 期 間 定植後~9 月 下 旬 22:00~3:00 (暗期中断)
 - 9) 収 穫 時 期 令和 5 年 11 月 中 旬 ~ 下 旬

- (3) 調 査 区 の 構 成
 - 1) 調 査 区 未定 (1 区 10 株、1 区制)
 - 2) 供 試 品 種 ※供試品種については、メーカーからの新品種が提示され次第、
順次選定するものとする。10~15 品種程度で検討予定。

- (4) 調 査 項 目 開花、切花

3-4 調査計画（耕畜連携推進事業パートナー制度）

耕畜連携推進事業パートナー制度 No. 1

調査名：ながいも栽培における発酵鶏糞堆肥の施用効果及び種いも重の検討

1 目的 「発酵鶏糞堆肥」の適正な施用について調査・研究し、家畜排泄物を利用した堆肥、肥料の利用を促進するとともに循環型農業の普及を図る。

2 調査方法

(1) 調査場所 露地ほ場

(2) 耕種概要

1) 植付月日 令和5年5月31日

2) 栽植距離 うね幅 120 cm、株間 21 cm

3) 植付本数 3,968 本/10a

4) 種いも ①切片子：80～100g

②切片子：100～120g

5) 施肥量

調査区①

N-P-K=24.9-33.9-24.4kg/10a

【基肥】発酵鶏糞堆肥(2.7-5.1-3.4)：93kg/10a

新パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：80kg/10a

【追肥】発酵鶏糞堆肥(2.7-5.1-3.4)：96kg/10×4回

7月上旬から10日おきに計4回

調査区②

N-P-K=24.9-33.7-16.6kg/10a

【基肥】新パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：166kg/10a

パワーリン(P:30%)：46kg/10a

調査区 資材	施肥量 (kg/10a)	成分量 (kg/10a)		
		N	P	K
① 【基肥】				
発酵鶏糞堆肥	93	2.5	4.7	3.2
新パワーアップながいも	80	12.0	9.6	8.0
【追肥】				
発酵鶏糞堆肥	384	10.4	19.6	13.2
② 新パワーアップながいも	166	24.9	19.9	16.6
パワーリン	46	0.0	13.8	0.0

6) 収穫月日 令和5年11月下旬

(3) 調査区の構成

1) 調査区 8区(1区6.3m(30本)、1区制)

2) 供試品種 <1>園試系6

<2>庄司系

(4) 調査項目 生育、収量、品質

3 - 5 土壌分析

1 目的

農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。

また、本市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。

2 分析項目

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 1) pH (H ₂ O・KCl) | 6) CEC (塩基置換容量) |
| 2) EC (電気伝導度) | 7) 置換性カルシウム |
| 3) 硝酸態窒素 | 8) 置換性マグネシウム |
| 4) 有効態リン酸 | 9) 置換性カリウム |
| 5) リン酸吸収係数 | 10) 水分 |

3 定点観測地点の概要

地区名	地点数		対象作物	
市川地区	24	22	いちご	施設
		1	ミニトマト	
		1	花き	
下長地区	5	2	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		1	花き	
上長地区	3	2	ピーマン	露地
		1	食用菊	
豊崎地区	2	1	にんにく	露地
		1	ながいも	
館地区	8		ミニトマト	施設
是川地区	20	1	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		4	きゅうり	
		1	花き	
		3	ながいも	露地
		4	夏ねぎ	
		5	秋ねぎ	
旧市内地区	3		トマト・ミニトマト	施設
南郷地区	4	1	トマト	施設
		1	きゅうり	
		2	そば	露地

施設野菜 (いちご) : 25 地点

施設野菜 (トマト・ミニトマト・きゅうり) : 22 地点

花き : 3 点

露地野菜 (にんにく・ながいも・ねぎ等) : 19 地点

合計 69 地点

3 - 6 植物組織培養

1 優良種苗の増殖計画

- 1) いちご・・・・・・・・・・(11 品種)
- 2) 奥州菊・・・・・・・・・・(5 品種)
- 3) 食用菊・・・・・・・・・・(4 品種)

3 - 7 市民農園設置事業

1 目的

自然環境の中での市民が家庭ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上並びに農業に対する理解を深めてもらうために実施する。

2 場所

八戸市農業経営振興センター内

3 期間

令和5年4月16日～11月19日

4 面積及び募集区画数

小区画 (33 m²)、中区画 (66 m²) : 小区画換算 263 区画

5 対象

八戸市民 (1 世帯につき 1 箇所の区画を利用可能)

6 使用料

小区画 (33 m²) : 2,610 円

中区画 (66 m²) : 5,220 円

7 主要施設

・休憩所 (1 箇所) ・トイレ (2 基) ・農業用水道 (6 箇所) ・駐車場 (1 箇所 : 1,000 m²)

3 - 8 農業体験学習

1 目的

小学生等の食育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供する。

2 計画

事業名	目的	内容	対象
農業体験学習	食育の一環として、農作物を育て収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深める。	<ul style="list-style-type: none">・農作物（さつまいも、だいこん等）の植付け、は種及び収穫・八戸市の農業に関する座学及び農業経営振興センターの施設見学・農業経営振興センター職員が、園（校）内にて栽培等の指導を行う農業体験出前講座 等	市内幼稚園、保育園、小学校、中学校等

3 - 9 栽培展示計画表

【ガラス温室】

	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	～R4	調査区分	作物名
1号	□ 収穫12下						■ 収穫6中	● 定植3/30						展示栽培	いちご (高設・夏秋)
2号														—	共通育苗
3号														—	—
4号														—	—
5号						□ 収穫7下	■ 収穫5上	● 定植2/27	▲ は種12/28					品種比較	トマト (促成)
						□ 収穫11下	■ 収穫8下	● 定植6上	▲ は種6上					品種比較	トマト (抑制)
6号								● 定植6上	▲ は種3/8					品種比較 栽培技術	トルコギキョウ (抑制)
								● 定植9中	▲ は種9中					展示栽培	ストック
7号								■ 収穫6上	● 定植4/13	▲ は種2/28				品種比較	トマト (夏秋)
8号								● 定植7上	▲ は種4/26					展示栽培	トルコギキョウ (抑制)

【パイプハウス】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1号	～R4	▲ は種2/28	● 定植4/14	■ 収穫6上	■ 収穫6上	■ 収穫6上	■ 収穫6上	■ 収穫6上	■ 収穫6上	■ 収穫6上	■ 収穫6上	■ 収穫6上
2号	▲ は種12/28	● 定植2/27	■ 収穫5上	■ 収穫5上	■ 収穫5上	■ 収穫5上	■ 収穫5上	■ 収穫5上	■ 収穫5上	■ 収穫5上	■ 収穫5上	■ 収穫5上
3号					▲ は種6上	● 定植6下	■ 収穫8下	■ 収穫8下	■ 収穫8下	■ 収穫8下	■ 収穫8下	■ 収穫8下
4号						□ 収穫～6中	● 定植8下	■ 収穫11下～	■ 収穫11下～	■ 収穫11下～	■ 収穫11下～	■ 収穫11下～
5号					□ 収穫～6中	■ 収穫8下	● 定植8下	■ 収穫11下～	■ 収穫11下～	■ 収穫11下～	■ 収穫11下～	■ 収穫11下～
6号							▲ は種9下	■ 収穫12下	■ 収穫12下	■ 収穫12下	■ 収穫12下	■ 収穫12下
7号					□ 収穫3/24	■ 収穫6中	■ 収穫6中	■ 収穫6中	■ 収穫6中	■ 収穫6中	■ 収穫6中	■ 収穫6中
							▲ は種7中	■ 収穫9上	■ 収穫10下	■ 収穫10下	■ 収穫10下	■ 収穫10下
8号											▲ は種11下	■ 収穫11下
												● 定植9上

【パイプハウス】

	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	～R4	調査区分	作物名
9号														栽培技術	カンパニユラ
														展示栽培	アスター (抑制)
10号														展示栽培	トルコギキョウ
11号														品種比較	トルコギキョウ
														展示栽培	葉牡丹 (切花)
12号														-	-
13号														-	いちご (親株)
14号														-	-
15号														品種比較	いちご (夏秋)
														展示栽培	いちご (半促成)
16号															

【露地花き】

作物名	調査区分	～R3	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アスター	展示栽培					▲ ● は種4中 定植5中	■ 収穫8上							
葉牡丹	展示栽培					▲ ● は種7中 定植8上	■ 収穫10上							
スノーボール	展示栽培						■ 収穫5上							
スモークツリー	展示栽培						■ 収穫6中							
ヒペリカム	展示栽培								■ 収穫7下					
姫ヒマワリ	展示栽培								■ 収穫7下					
ソリダコ	展示栽培									■ 収穫8上				
ソリダスター	展示栽培												■ 収穫8上	

発行：八戸市農業経営振興センター（令和5年5月）

〒番号	039-1101
住 所	青森県八戸市大字尻内町字毛合清水 29
電 話	0178-27-9163
F A X	0178-27-9166
E-mail	nokei@city.hachinohe.aomori.jp